RESEARCH REPORT

No. 42

MUKOGAWA WOMEN'S UNIVERSITY
INSTITUTE FOR EDUCATION

Contents

Report of Surveys (2007) on Mukogawa Women's University Junior College Division : Fact-Finding Surveys toward the Improvement of the Junior College
……ANDO, Yoshinori

Women's Career and Financial Literacy : An Implication from the Financial Education at Smith College
……NISHIO, Akiko

Progress Reports on Mukogawa Women's University Center for the Study of Child Development 2011
……KAWAI, Masatoshi, NAMBA, Kumiko, SASAKI, Megumi, ISHIKAWA, Michiko & TAMAI, Hideo

Achievements of Staffs (2010)

March 2012

武庫川女子大学教育研究所　研究レポート第42号

二〇一二年三月

ＩＳＳＮ　0919－2816

武庫川女子大学教育研究所
研究レポート

第42号

Research Report, No.42
Mukogawa Women's University
Institute for Education

〈特集〉武庫川女子大学短期大学部調査

武庫川女子大学短期大学部調査（2007）の結果報告
－実態把握と改善に向けて－
安　東　由　則

女性のキャリアと金融リテラシー
－スミス・カレッジの金融教育からの示唆－
西　尾　亜希子

武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター2011年度活動報告
河　合　優　年・難　波　久美子・佐々木　　惠
石　川　道　子・玉　井　日出夫

2010年度　研究員の業績および特別研究の経過報告

2012年３月

武庫川女子大学教育研究所
研究レポート第42号

目　　次

武庫川女子大学短期大学部調査（2007）の結果報告
　－実態把握と改善に向けて－　　安　東　由　則

はじめに……1
Ⅰ．短期大学の動向……2
Ⅱ．武庫川女子大学短期大学部の特徴と現状……8
Ⅲ．武庫川女子大学短期大学部調査の結果分析……12
Ⅳ．企業アンケートと高校生アンケートの結果……36
Ⅴ．まとめに代えて……42
資料……48

女性のキャリアと金融リテラシー
　－スミス・カレッジの金融教育からの示唆－　　西　尾　亜希子

1．はじめに……87
2．女性の金融リテラシーの重要性……88
3．日本人女性の現況（2010年現在）……90
4．アメリカ人女性の現況（2010年現在）……95
5．スミス・カレッジにおける金融教育……98
6．おわりに……100

武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター2011年度活動報告

河　合　優　年・難　波　久美子・佐々木　　惠
石　川　道　子・玉　井　日出夫

Ⅰ．はじめに……107
Ⅱ．2011年度の子ども発達科学研究センターについて……107
Ⅲ．2011年度活動概要……109
Ⅳ．研究業績（2011年）……120
Ⅴ．引用文献……121

2010年度　研究員の業績および特別研究の経過報告……123

研究レポート掲載論文総目次（過去10号分）……129

武庫川女子大学短期大学部調査（2007）の結果報告
－実態把握と改善に向けて－

Report of Surveys (2007) on Mukogawa Women's University Junior College Division：
Fact-Finding Surveys toward the Improvement of the Junior College

安　東　由　則*

ANDO, Yoshinori

目次

はじめに
Ⅰ．短期大学の動向
Ⅱ．武庫川女子大学短期大学部の特徴と現状
Ⅲ．武庫川女子大学短期大学部調査の結果分析
Ⅳ．企業アンケートと高校生アンケートの結果
Ⅴ．まとめに代えて
資料

*武庫川女子大学教育研究所・研究員、文学部教育学科・教授

はじめに

1950（昭和25）年に暫定的な高等教育機関として設けられた短期大学は、1955（昭和30）年に恒久化され、戦後の短期大学発足当時を別とすれば、主として女子生徒の進学先として、高度成長期の大学進学率の上昇とともに、急速に発展を遂げてきた。しかしながら、1996（平成８）年をピークとして短期大学の数は年々減少しており、また各校の入学定員も削減されるなど、日本における短期大学は、大きな岐路にある。

約20年前の第二次ベビーブーマーのピーク（1990-1992年頃）を過ぎて以降、18歳人口の急速な減少は、短期大学関係者に大きな危機感をもたらした。しかしながら、18歳人口の減少に反比例して大学進学率は大きく上昇したので、大学・短大在学者で比較すると1992年当時（281.7万）よりも今日（2011年－304.3万）の方が多いのであり、18歳人口の減少だけが大きな危機要因ではない。受験生の４年制大学志向、大学設置の量的緩和政策による４年制大学の増設や新学部の設置、産業界の高度専門知識・技術をもった学生を求める動きなど諸要因が連動して、短期大学離れがもたらされたと考えられる。そうした中で、短期大学はそれぞれの状況に応じて、様々なサバイバル・ストラテジーを探り、取り組んでいる[1)]。武庫川女子大学短期大学部もまた、その例外ではない。

教育研究所は武庫川学院からの要請を受け、2007年に本学短期大学部活性化のための調査を行った。調査は大きく三つからなっている。一つは、本学短期大学部の学生を対象としたアンケート調査で、入学動機や現在の満足度、学生生活を振り返っての感想、今後期待することなどを総合的に尋ねたものである。二つ目は近畿圏内の現役高校生を対象とした進学意識および本学の印象などについての調査、三つ目は本学短期大学生が近年就職している企業・機関に対し、就職した学生の評価や今後の学生に期待される能力、短期大学学生の採用動向などについて尋ねた調査である。本学短期大学生調査については、教育研究所がアンケートの作成から分析までを行った。後二者のアンケートについては、教育研究所と調査実施業者（進研アド）とでアンケートの質問内容を検討・作成し、調査の実施と分析は業者が実施した。

このレポートは、教育研究所が行った本学短期大学生調査を中心に分析し報告するものであるが、高校生および企業・機関へのアンケート結果も一部取り込んだものとした。なお、学生調査結果については2007-８年度に本学学内ですでに報告したのであるが、さらなる分析を加えてまとめ直したものが本報告書である。

以下ではまず、全国および近畿地方における短期大学の動向を確認し、さらに武庫川女子大学短期大学部の特徴、近年における入試倍率や募集定員の推移を簡潔に確認したのち、諸アンケート調査結果を分析していくこととする。

Ⅰ．短期大学の動向

１．全国の動向

日本における短期大学は、過去20年で大きく減少した。下の表１は、新教育制度における短大と４年制大学数、女子進学率、および18歳人口の推移を２年ごとに示したものである。先にも述べたとおり、短期大学は高度成長期に女子の進学先として急速にその数を増し、1953（昭和28）年には数の上で４年制を超して、1996（平成８）年の598校でピークを迎えた。1980年代末より増加していった４年制大学に対し、短期大学は急速に減少していき、1998（平成10）年には数の上で４年制大学数を下回り、このアンケート調査が行われた2007（平成19）年時点では434校、2011（平成23）年には387校となり、ピーク時の64.7％にまで減少した。過去最多であった1996年との比較では、全体で211校（私立のみでは139校）が減少したことになる。1996年に33校あった国立短期大学は、2010年にはすべて姿を消した。その一方で、４年制大学は同じ15年の間に210校（私立のみでは174校）の増加がみられた。

この間、短期大学を含む大学進学率は増え続け、女性だけに限ると、1996年には48.3％であったものが、2010年には56.0％へと約８％の増加をみた。少子化の中での進学率の増加なので、大学進学者数自体はそれほど増えてはいない。その内訳を経年で見ると、女子

表１．短期大学・大学数と女子進学率、18歳人口の推移（２年ごと）

年	大学数（校）	短大数（校）	女子４大進学率(%)	女子短大進学率(%)	18歳人口（千人）
1954	227	251	2.4	2.2	1,713
1956	228	268	2.3	2.6	1,746
1958	234	269	2.4	2.8	1,663
1960	245	280	2.5	3.0	1,997
1962	260	305	3.3	4.1	1,974
1964	291	339	5.1	6.5	1,401
1966	346	413	4.5	7.3	2,491
1968	377	468	5.2	9.2	2,539
1970	382	479	6.5	11.2	1,947
1972	398	491	9.3	14.4	1,737
1974	410	505	16.6	18.2	1,621
1976	423	511	13.0	20.6	1,542
1978	433	519	12.5	21.0	1,580
1980	446	517	12.3	21.0	1,579
1982	455	526	12.2	20.5	1,635
1984	460	536	12.7	20.1	1,667
1986	465	548	12.5	21.0	1,850
1988	490	571	14.4	21.8	1,882
1990	507	593	15.2	22.2	2,005
1992	523	591	17.3	23.5	2,049
1994	552	593	21.0	24.9	1,860
1996	576	598	24.6	23.7	1,732
1998	604	588	27.5	21.9	1,622
2000	649	572	31.5	17.2	1,510
2002	686	541	33.8	14.7	1,502
2004	709	508	35.2	13.5	1,410
2006	744	468	38.5	12.4	1,325
2008	765	417	42.6	11.5	1,236
2010	778	395	45.2	10.8	1,213

※１．文部科学省『学校基本調査年次統計』より作成。
※２．□は４年制と短大が逆転した年、網掛けは第一次、二次ベビーブーム。
※３．データは「e-Stat」より引用。18歳人口は本学教育研究所『女子大学の存立意義に関する調査研究報告書』、2008，2010年については、３年前の文部科学省『学校基本調査』より中学校卒業者数をとった。なお千人未満は切り下げた数字である。

の大学進学者のうち４年制大学への進学比率は、1996年の24.6％が2010年には45.2％へと大幅に増加し、逆に短期大学への進学者比率は23.7％から10.8％へと大きく率を減らした。1996年は、短期大学の草創期である昭和20年代を除けば、女子の４年制大学進学者の比率が、短期大学進学者比率を初めて上回った年でもある。

次に、日本私立学校振興・共済事業団の私学経営相談センター（2011）の調査結果に基づいて作成した図１から、短期大学の入学定員や定員充足率の推移を概観する。私立短期大学に限ると、1996年に180,635人であった定員数が、2011年には72,394人となり、15年で約40％にまで減った。短期大学数の減少割合より大幅に定員が減少したのは、短大自らが定員を削減したことによる。単純に先の入学定員を、同年の私立短期大学数（集計分のみ）で割ってみると、1996年が367.9名であるのに対し、2011年では214.2名であった。定員充足率は1996年に114.5％で、定員充足率が100％未満の短期大学比率は17.5％であったが、この10数年で定員充足は急速に悪化し、2011年度入試における私立短期大学全体（338校からの回答）での入学定員充足率は89.6％、定員充足率が100％未満の短期大学の割合は66.6％と全体の３分の２に及んだ。地域、学科、学生規模による違いも小さくない[2)]。

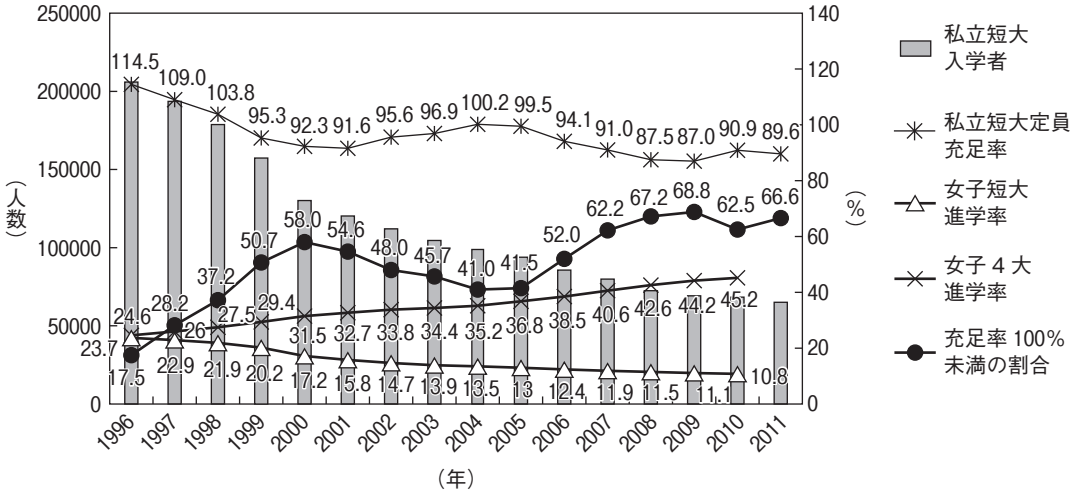


図１．短大定員充足率、女子進学率と充足率100未満の短大割合

*東日本大震災のため、2011年度の進学率は出ていない。

こうした現状に対し、短期大学がとった方策は大きく四つに分かれる。一つは４年制大学になることである。1990年代以降、大学設置基準が大綱化され、４年制大学設立の基準が緩和されたので、18歳人口の減少や女子学生の４年制志向を踏まえて、転換した大学である。二つ目は、廃校の道を選んだ、あるいは選ばざるを得なかった短期大学であり、三つ目は４年制大学付属の短期大学、あるいは同じ法人系列に４年制大学をもつ短期大学

で、４年制大学と統合するなどして廃止されたもの、そして四つ目は短期大学としての生き残りを選んだ大学である。

２．近畿地方における短期大学の動向

実際、短期大学が過去20年でどのように変化したのかを、近畿地方、中でも兵庫県と大阪府の短期大学を中心に検討していく。表２は、1991年、1996年、2000年、2005年、2010年の５時点における近畿地方（三重県を除く）の短期大学数を示している。近畿全体では、ピーク時の1996年に96校であったものが、2010年現在では75校に減少し、1996年比で78.1％となった。全国での割合（64.7％）に比べると、近畿における減少度合いは全体として小さいと言えよう。とはいえ、学校数の少ない和歌山県をのぞくと、兵庫県と大阪府の比率（実質の比率）はそれぞれ68.0％、73.2％であり、大都市部であっても４分の１強の短期大学が消えたこととなり、決して低い数字ではない。ここでは、兵庫県と大阪府の短期大学がこの15年、20年の間でどのような変化を遂げたのかを、具体的に検討していく。

表２．近畿地方における1991年以降の短期大学数の推移

	兵庫	大阪	京都	滋賀	奈良	和歌山	近畿合計
1991(H3) 年	25	41	17	4	6	2	95
1996(H8) 年 (a)	25	41	18	4	6	2	96
2000(H12) 年	21	41	15	4	7	2	90
2005(H17) 年	22	42	16	4	4	1	89
2010(H22) 年 (b)	19(17)*	32(30)*	14**	4	5	1	75(71)
b/a（%）	76.0	78.0	77.8	100.0	83.3	50	78.1
b（ ）内 /a（%）	68.0	73.2					74.0

*（　）内の数字は、募集停止をしている短期大学を除いたものである。
** 京都女子大学附属短期大学部は含まれている。

（１）兵庫県の短期大学

まず、兵庫県の短期大学とその定員、共学の有無などを1991年・1996年と2010年の時点で比較したものが表３である。1991年を入れたのは、1996年の入学定員には18歳人口の増加に伴う臨時定員増が組み入れられているので、それ以前の定員数を示すためである[3)]。なお、1991年と1996年における兵庫県の短期大学は同じであった（後で述べる大阪府も同様）。兵庫県では、1991年および1996年の25校から2010年には19校へと減少した。なお19校には、近年募集を停止した短期大学を含んでいるので、これを除くと17校となる。

1996年を基準に、15年間での変化をみると、６つの短期大学が閉鎖されており、現在募集停止の短期大学を入れると８校に上る。この８校のうち、６校までが併設の４年制大学に統合された。４年制と短期大学の併設が長年つづいていたケース（甲南女子や神戸学院

など）もあれば、短期大学の閉鎖を前提にして、設立された４年制大学（神戸海星女子学院、近畿福祉など）もある。2011年閉学の神戸ファッション造形大学短期大学（４年制は2013年に閉学予定）を含めると、賢明女学院短期大学とともに２短期大学が閉校した。

その他の変化としては、共学化している短期大学が少なくない。現在ある17の短期大学中、1996年に共学であったものは４校にすぎないが、2010年時点では10校に増えた。学生に占める女子比率は高いものの、女子だけの短期大学の方が７校と少なくなっており、従来もたれていた「短大＝女子大」というイメージは現状に合わなくなっている。

募集定員については、臨時定員増をする前の1991年の数字も掲載した。現在の定員をみると、臨時定員増を恒久化するどころか、1991年と比べても、定員を減らしている短期大学がほとんどである。1991、1996年との比較で唯一定員を増やしているのは頌栄短大のみ

表３．兵庫県における短期大学の変化（３時点での比較）

	短期大学名（1996）	1991年 定員	1996年 定員	1996年 共学有無		2010年 短期大学名	2010年 定員	2010年 共学有無	併設・系列 大学有無
1	芦屋女子	350	350	女子	1	芦屋女子	120	女子（2011共）	○
2	大手前女子	380	610	女子	2	大手前	250	共学（2004）	○
3	近畿大学豊岡	100	140	共学	3	近畿大学豊岡	40	共学	○
4	甲子園	250	430	女子	4	甲子園	220	女子	○
5	神戸女子	460	730	女子	5	神戸女子	390	女子	○
6	神戸常磐	240	320	共学	6	神戸常磐大学	160	共学	◎2008
7	神戸山手女子	790	1030	女子	7	神戸山手	250	共学（2004）	◎1999
8	産業技術	230	390	共学	8	産業技術	245	共学	
9	夙川学院	840	840	女子	9	夙川学院	320	女子	
10	頌栄	100	100	共学	10	頌栄	150	共学	
11	聖和大学	300	280	女子	11	聖和	150	女子	△
12	園田学園女子大学	693	590	女子	12	園田学園女子大学	210	女子	○
13	東洋食品工業	35	35	女子	13	東洋食品工業	35	共学（2006）	
14	日ノ本学園	200	250	女子	14	姫路日ノ本	100	共学（1999）	
15	兵庫女子	670	387	女子	15	兵庫大学	230	共学（1996）	◎1995
16	湊川女子	300	300	女子	16	湊川	180	共学（2003）	
17	武庫川女子	1990	1585	女子	17	武庫川女子大学	870	女子	○
18	神戸文化	300	300	女子（?）		神戸ファッション造形大学	2009停止		2011廃止
19	神戸松陰女子	515	515(?)	女子		神戸松陰女子学院大学	2007停止		
20	関西女学院	250	600	女子		2000停止、四年制に統合	関西国際大学へ		◎1998
21	甲南女子	350	300	女子		2000停止、四年制に統合	甲南女子大学へ		○
22	神戸海星女子学院	100	100	女子		1998停止、四年制に統合	神戸海星女子学へ		○
23	神戸学院女子	400	480	女子		2004停止、四年制に統合	神戸学院大学へ		○
24	姫路学院女子	200	200	女子		1999停止、四年制に統合	近畿福祉大学へ		◎2000
25	賢明女学院	220	220	女子		2006停止、2008廃校			

※１．1991年および1996年については、晶文社発行『全国短期大学受験案内'92年度用』（1991）、『－'97年度用』（1996）を用いた。 2010年度については、原書房『全国学校総覧2011年版』（2010）、学研『2011年度用短大受験案内』（2010）を用いた。

※２．太線の□は1991，1996年比で定員が同じか増加した短大、細線□は1991年比でのみ増加した短大。網掛けは、1991比半減以下の短大。

※３．併設・系列大学有無の○は「有」を示し、◎は1996年以降に４年制大学が創設されたものとその年。

であり、1991年との比較では産業技術短大も増やしている。定員数の少ない東洋食品工業短大は定員を変えていない。その他の短期大学は、1991年比においても、すべて定員を減らしている。表中の短大名に薄い網掛けを施しているのは、1991年の定員数と比して、2010年にその数を半分以下とした大学であり、その数は17校中９校となる。

（２）大阪府の短期大学

表４は、大阪府所在の短期大学を20年前の1991年と1996年、2010年の３時点で示したものである（1991年と1996年で短期大学に変動なし）。大阪府では、1991年の41校が2010年には30校となった。1991年の41校中、2010年までに12校が募集を停止し、そのうち10校が４年制大学になった、あるいは統合されたと思われる。大阪、大阪明浄、関西鍼灸、羽衣学園の各短期大学は、短大を閉学して４年制大学を設立し、残りは既存の４年制大学に統合された。聖母被昇天学院女子とPL学園女子は閉学したようである。大阪府の場合、1996年以降に２つの短期大学（大阪体育大学附属および大阪健康福祉）が設立されたが、そのうち１校は2010年に募集を停止した。

共学化した短期大学も多い。1991年から続いている29短期大学のみを対象にすると、1991年に共学であったと思われる短期大学は６校であったが、2010年には15校に増え、半数以上が共学化している。

募集定員では、全体的には減らしている短期大学が多い。2010年時点において、1991、1996年よりも増やしているのは藍野学院と大阪千代田の２校にすぎない。増えてはいないが、1996年と同数なのが大阪女子、大阪夕陽丘、大阪信愛女子学院の３校、1996年定員よりは減ったが1991年定員より増えたのは大阪キリスト、四条畷学園、大阪芸術大学の３校である。臨時定員増前の1991年比で増えたあるいは変化していない短期大学が合計８大学であり、あとの21大学は定員を減少させている。特に1991年比で半数以下になった短大（表４の短大名に網掛け）の数は14校に上り、現存する短大の約半数にあたる。

定員を減らしていない短期大学の特徴としては、藍野学院を除いてすべてが併設あるいは系列の４年制大学を持っていないことが挙げられる。４年制大学にたよらず、短大として生き残りを図っている大学といえよう。逆に言えば、1996年以降に藍野学院を含む８つの短大が４年制大学を設けているのであり、その多くは短大の定員を大きく減らしたのである[4)]。

表４　大阪府における短期大学の変化（３時点での比較）

no	短期大学名(1996)	1991年度 定員	1996年度 定員	1996年度 共学有無	no	短期大学名(2010)	2010年度 定員	2010年度 共学有無	併設･系列 大学有無
1	藍野学院	80	75	共学	1	藍野学院	180	共学	◎2004
2	大阪青山	700	900	女子	2	大阪青山	180	共学	◎2005
3	大阪音楽大学	300	300	共学	3	大阪音楽大学	270	共学	○
4	大阪学院	400	800	女子	4	大阪学院	200	女子	○
5	大阪キリスト教	240	372	女子(一部男子)	5	大阪キリスト教	270	女子（一部男子）	
6	大阪薫英女子	450	450	女子	6	大阪薫英女子	210	女子	
7	大阪産業大学	350	400	共学	7	大阪産業大学	200	共学(殆男子)	○
8	大阪城南女子	450	490	女子	8	大阪城南女子	390	女子	
9	大阪女学院	250	265	女子	9	大阪女学院	150	女子	◎2004
10	大阪女子	260	340	女子	10	大阪女子	340	女子	
11	大阪女子学園	150	240	女子	11	大阪夕陽丘	240	共学（'09）	
12	大阪信愛女子学院	200	200	女子	12	大阪信愛女子学院	200	女子	
13	大阪成蹊女子	1480	1480	女子	13	大阪成蹊	690	共学	◎2003
14	大阪千代田	120	220	女子	14	大阪千代田	250	共学	
15	大谷女子	420	130	女子	15	大谷大谷大学	180	共学	○
16	関西外国語	1850	2450	共学	16	関西外国語大学	900	共学	○
17	関西女子	450	450	女子	17	関西女子	300	女子	
18	近畿大学	160	160	共学	18	近畿大学	80	共学(夜間)	○
19	堺女子	300	230	女子	19	堺女子	150	女子	
20	四条畷学園	180	310	女子	20	四条畷学園	240	共学	
21	四天王寺国際仏教大学	600	600	女子	21	四天王寺大学	240	共学	○
22	樟蔭東女子	160	160	女子	22	樟蔭東女子	120	女子（'12共学）	
23	大阪国際女子（'92迄、帝国女子）	730	890	女子	23	大阪国際大学	380	共学	○
24	常磐会	400	500	女子	24	常磐会	300	女子	◎2006
25	浪速	320	580	共学	25	大阪芸術大学	450	共学	○
26	梅花	660	530	女子	26	梅花女子大学	280	女子	○
27	東大阪	565	582	女子	27	東大阪大学	150	共学	◎2003
28	プール学院	490	145(?)	女子	28	プール学院大学	190	女子	◎1996
29	平安女学院	630	740	女子	29	平安女学院大学	150	女子	◎2000
				2002開学	30	大阪健康福祉	170	共学	
30	大阪	150	450	共学		2002停止	2003太成学院大学へ		◎'98南大阪大学
31	大阪工業大学	430	430	共学		2004停止	大阪工業大学へ		○
32	大阪電気通信大学	310	325	共学		2006停止	大阪電気通信大学へ		○
33	大阪明浄女子	160	520	女子		2003停止	大阪観光大学へ		◎2000
34	関西芸術（'96迄関西女子美術）	200	250	女子		2004停止	宝塚造形芸術大学→宝塚大学		○
35	関西鍼灸	120	110	共学		2002停止	関西鍼灸大学→関西医療大学		◎2003
36	相愛女子	525	565	女子		2005停止	2006相愛大学へ統合		○
37	帝塚山学院	360	360	女子		1997停止	1998帝塚山学院大学へ		○
38	羽衣学園	500	400	女子		2004停止	羽衣国際大学へ		◎2002
39	金蘭	1700	1700	女子	[31]	2009停止	千里金蘭大学		◎2003
40	聖母被昇天学院女子	140	140	女子		2003停止、2005閉学			
41	PL 学園女子	150	150	女子		2001停止			
				2000開学	[32]	2010停止	大阪体育大学		○

※１．データについては、表３と同じ。
※２．金蘭と大阪体育大学附属については、閉学とはなっておらず、『全国学校総覧2011年版』に記載されていたので、2010年の短期大学としても掲載し、no を［　］付きで示した。
※３．太線□は1991，1996年よりも定員が増えたか同数の短大、細線□は1991より増えた短大。網掛けは、1991年比半減以下。
※４．併設・系列大学有無の○は「有」を示し、◎は1996年以降に系列の４年制大学が創設されたものとその年。

Ⅱ．武庫川女子大学短期大学部の特徴と学生募集の現状

上では近畿の短期大学、なかでも兵庫県と大阪府における約20年間の変化を概観してきた。では、阪神間に位置し、学生の多くが兵庫と大阪から通学している武庫川女子大学短期大学部の場合はどうか。その特徴を整理するとともに、近年における学生募集の状況を確認する。

１．武庫川女子大学の特徴

武庫川女子大学は、1949年に武庫川学院女子大学（1958年、武庫川女子大学と改称）が、1950年には武庫川学院女子短期大学（1985年に武庫川女子大学短期大学部と改称）がそれぞれ開学し、女子大学として今日に至っている。2011年度において、４年制は文学（５学科）、生活環境学（４学科）、薬学（２学科）、音楽（２学科）、健康スポーツ科学（１学科）の５学部14学科、短期大学部は日本語文化、英語コミュニケーション、幼児教育、人間関係、健康・スポーツ、食生活、生活造形の７学科からなる。それぞれの定員は表５に示した通りである。2011年５月時点で、４年制学生が8,590名、短期大学学生が1,940名で、大学院生を除いても、合計１万人以上の学生が在籍している。

表５．短期大学部学科別と大学学部別の学生数（武庫川女子大学）

短期大学部学科	人数
日本語文化学科	241
英語コミュニケーション学科	219
幼児教育学科	316
人間関係学科	232
健康・スポーツ学科	185
食生活学科	346
生活造形学科	401
合計	1,940

大学学部	人数
文学部（５学科）	4,269
健康・スポーツ科学部	182
生活環境学部（４学科）	2,503
音楽学部（２学科）	171
薬学部（２学科）	1,465
合計	8,590

（2011年５月１日現在）

本学は４年制だけの学生規模において、４年制と短期大学を合わせた規模においても、女子大学の中では最も大規模な大学である。短大だけでも５学科を有し、近畿で２番目に大きい募集定員をもつ。さらに、文系のみならず薬学や建築学、食物栄養など理系学部・学科をもつ総合大学であり、新制の大学・短期大学の発足時に創設された伝統校である。その他、武庫川女子大学の特徴として次のような点を挙げることができる。

学院・大学の方針

・４年制と短大だけでなく、幼稚園、中学・高等学校と大学院を有する総合学園である。
・10年間一貫の女子教育を目指しており、附属高等学校卒業生のほとんどが武庫川女子大

学・短期大学に進学する（大学・短大入学者全体の約13～14％を付属出身者。近年では、４年制への内部進学者が増加し、短大への入学者はかなり減少）。

編入

・短期大学部学科から対応する４年制の学科への編入枠がある（短大各学科入学定員の20％前後）。

教学

・社会で自立できる女性を目指し、資格や免許などの取得獲得のサポートに熱心である。
・短期大学部と４年制は同じキャンパスにあり、教員は双方で教え、学生は共通の授業をとることもあるなど、短大と４年制の間の垣根が低い。
・短期大学の学科とそれに対応する４年制大学の学科は、一体となって運営されている（教員等）。
・以前よりクラス担任制を取り入れ、学生間、学生－教員間の意志疎通を図っている。

立地

・大阪市と神戸市の間に位置し、交通機関のアクセスもよく、通学に便利である。

その他

・学生数が多く、歴史もあるので、知名度が高く、近畿地方を中心に卒業生が多い。
・設備や施設が充実している（情報機器の充実、海外に自前の分校をもつ）、など。

以上のように、短期大学としてみれば、かなり有利な特徴、条件を備えている。

２．学生募集の現状と変遷

現在の４年制・短期大学の学部・学科構成および学生数は表５で見たが、2011年度の学生募集定員は表６に示したように大学1,695名、短期大学部870名（附属高校からの入学者を除く）であり、４年制の定員が短大の倍近くとなっている。1999年までは短大の募集定員1,390名、４年制が1,340名と短期大学部の方が多かったが、2000年に４年制1,400名、短期大学1,266名となって逆転した。僅か11年前のことに過ぎない。その後さらに短大の募集定員を減らし、４年制の定員を増やして今日のようになった。短大を併設する４年制大学では、同じような傾向であったと思われる。先に、1996年に初めて女子の４年制進学率が短大のそれを上回ったと述べたが、1970年代、1980年代を通じて女子の４年制進学率は短大進学率の６割強といった状況が続き、女子の大学進学者の主たるターゲットは短期大学であった。その逆転は、1990年代に入ってごく短期間に生じたのである。

表６．短大学科別募集定員の推移

学科＼年	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
日文	200	200	200	160	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
英語	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
幼児教育	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
人間関係	200	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
健康スポーツ	100	100	96	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
食生活	340	240	240	240	180	180	180	180	160	160	160	160	160	160
生活造形	300	300	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180
合計	1,490	1,390	1,266	1,210	890	890	890	890	870	870	870	870	870	870
４年制大定員		1,340	1,400		1,535				1,675					1,695

＊４年制大の定員は、大きな変化のあった年のみの掲載。

先に図１で見たように、私立短期大学全体の定員充足率が90％前後、100％を割る短期大学は全体のおよそ３分の２となった。今日の短期大学にとって、最も大きな課題は受験生集めである。本学短期大学の場合、先に挙げた特徴など有利な条件・特徴を備え、全体としては定員割れを起こしていない。しかしながら、短期大学部の学生募集は徐々に厳しくなっているのが現状（2007年時点）である。

次の図２、図３は、1998年度から2007年度入試まで10年間の短期大学部の入試競争率（受験者数／合格者数）の推移を、推薦入試、一般入試別に示したものである（2007年までとしているのは、後述の学生アンケート調査の実施年に合わせたため）。入学学生のかなりの割合を占め、安定的な学生確保を行っている推薦入試（図２）では、競争率は比較

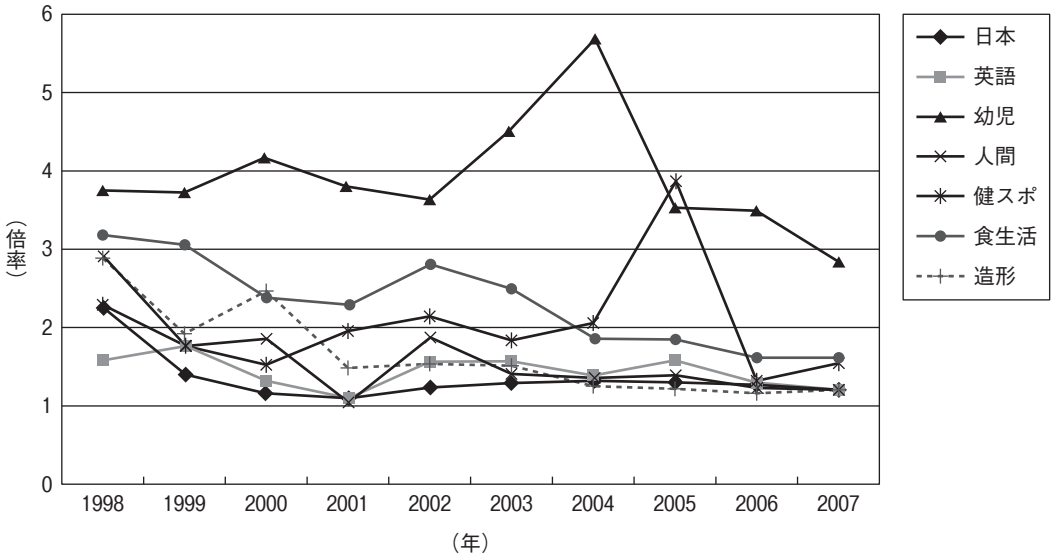


図２．本学短期大学部の推薦入試倍率推移

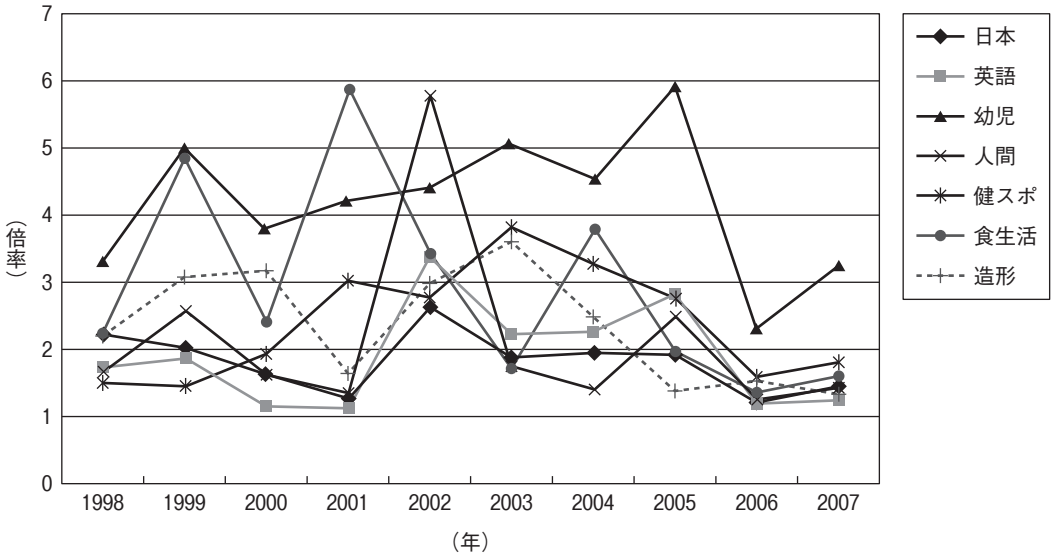


図３．本学短期大学部の一般入試倍率推移

的穏やかに推移をしているが、全体としては徐々に下がっている。1998年度入試において２倍を超える学科は５学科中４学科であったが、2002年度には３学科となり、2007年度では幼児教育学科のみとなった。

一般入試では競争率の変動が大きい（図３）。特に、臨時定員増を削減したり、学科定員自体を縮小するなどした年（2002年など）には、倍率が高くなる傾向にある。さらに、推薦入試での合格者数との兼ね合いで一般入試の合格者数が変動する場合もあり、一般入試が合格者数確定の調整弁となる傾向もあって、変動の幅が大きくなる。1998年度から2000年度まで競争率が１倍台の学科は、2001年、2002年に募集定員の削減を行ったため、以後少し持ち直したが、2007年では１倍台が４学科、２倍以上が１学科と、推薦入試同様、厳しい状況になっている。

以上まとめると、次のようなことが言える。本学短期大学部においては、定員割れを起こすことなく学生を集めてきたのではあるが、推薦・一般入試ともに競争率は低下傾向にある。18歳人口が減少し、女子の共学・４年制志向が高まる中、短大の学科は定員（臨時増を含む）を減らすなどしてきたが（1998年比で約６割）、志願者の減少傾向に歯止めをかけるのは難しい。そうした中にあって、保育士資格と幼稚園教諭免許状が取得でき、就職に直結する幼児教育学科のみが推薦で３倍、一般で２倍以上の競争率（2007年）を確保できている。

Ⅲ．武庫川女子大学短期大学部調査の結果分析

１．調査の目的と方法

（１） 調査経緯と目的

2007年５月、武庫川女子大学短期大学部において先述したような志願者の漸減傾向が続いている現状を鑑み、武庫川学院理事会より教育研究所に対して、次のような要請があった。すなわち、本学短期大学部についての現状分析を行い、その結果に基づいて短期大学部の改善案を提示せよというものである。そこで教育研究所では、友田泰正所長をチーフとして、まず調査計画を策定した。これは大きく四部から成る。すなわち、１）本学短期大学部がもつ特徴、長所や課題を、学院の教学方針、学科の種類や規模、歴史、立地などの諸側面から整理しなおし、明らかすること、２）現役学生を対象として、入学理由、満足・不満足な点、今後の大学への希望などを明らかにすること、３）通学圏内にある近隣府県の女子高校生にアンケートを行い、短期大学一般および武庫川女子大学短期大学部への進学意志や目的、イメージなどを尋ねること、４）本学の短期大学生が就職している企業に対してアンケートを行い、卒業生の長所や短所を尋ねるとともに、今後の短期大学卒業生の雇用見通し、短期大学教育への期待などについて尋ねること、である。この他、少数ではあるが短期大学部学生と高等学校の進路担当教員へのインタビューも合わせて実施した。以上のように本学の特徴を全体として捉えたうえで、短期大学教育における in-put、through-put、out-put それぞれについて明らかにするという研究計画であり、これらの結果を総合して課題や提言をまとめることとした。

報告・提言までの期間が約半年と短かったので、上記の１）と２）の調査については教育研究所の友田所長と安東が行い、３）と４）については調査会社に委託することとした。３）と４）のアンケート調査の質問紙作成に関しては、教育研究所と委託会社とでアンケート原案を検討して作成し、その後、アンケート発送、回収、分析などは委託会社に任せることとした（2007年11月、その報告書は冊子としてまとめられた）。以下、本調査報告においては、主として２）の短期大学生調査結果の分析を掲載するものであるが、３）および４）の結果の一部についてもその一部を使用する。また１）については、前節で本学の特徴としてその一部は述べており、それらは２）のアンケート調査の質問肢にも取り入れられた。

（２） 学生への質問紙調査の概要

１）調査対象：2007年度における武庫川女子大学短期大学部２年生全員

２）調査方法：2007年９月15日に行われた後期授業オリエンテーションにて、２年生クラスの担任教員がアンケート用紙を配布し、回収をした。時間内にアンケートの回答を

終えられなかった者については、９月22日までに所定の場所まで提出するようアンケート用紙に記載した上、担任教員からも指示をしてもらった。

３）質問紙構成：①属性、②高校時代の進学希望、③入学時および現在の満足度（以上、フェイスシート）、④短期大学に入学した理由（16項目、５件法）、⑤武庫川女子大学短期大学部に入学した理由（22項目、５件法）、⑥短期大学部での生活を振り返っての感想（30項目、５件法）、⑦その他（希望進路や短大教育への期待など）、⑧希望や自由記述（上記④～⑥の回答についての理由、４年制大学と比べての短期大学の長所および短所、今後の短期大学に期待する具体的提案、など）、からなる。（アンケート票は、論文末の「資料１」に掲載）

４）アンケート回収率：オリエンテーションには全員参加が原則であるが、当日どれくらいの学生に調査用紙を配布できたかは把握できず、厳密な意味での回収率を出すことは不可能である。よって、2007年度短期大学２年生の在学者数を分母とした際の、有効回答者数の比率を出した（表７）。全体では649名、69.3％の学生から回答を得た。学科別でみると、回答者比率の最も高い学科が80.2％、最も低い学科は50.2％であった。

表７．学科別の有効回答数

	総計	日本語文化	英語ｺﾐｭﾆｹｰ	幼児教育	人間関係	健康ｽﾎﾟｰﾂ	食生活	生活造形
在籍者数	936	108	101	165	102	80	167	213
回収数	649	81	81	128	70	55	127	107
回収割合(%)	69.3	75.0	80.2	77.6	68.6	68.8	76.0	50.2

５）統計分析ソフト：SPSS14.0J for Windows が使用された。

２．短期大学生調査の結果とその検討

（１） 調査者のプロフィール

調査者の属性および志望順位、４年制大学編入希望の有無などに関する質問の回答をまとめたものが表８である。まず学科別の学生数では入学定員の多い幼児教育と食生活の割合が約２割と高く、健康スポーツの割合が8.5％と少し低い。出身地域では兵庫県46.4％、大阪府27.4％で、両府県合計で73.8％となり約４分の３を占める。2006年に行った武庫川女子大学４年生調査では、兵庫県40.6％、大阪府32.3％であったので、短期大学部において兵庫県出身者の比率が少し高まるものの、近隣からの進学者が多いという点では変わりない。それ故、学生の住居形態では自宅が４分の３（74.7％）を占める。出身高校では、公立出身が82.3％、共学の有無では共学が87.2％と圧倒的に多く、附属出身者は2.8％とわずかである（４年生調査で附属出身は約19％－安東 2009）。入試形態では一般入試30.5％、推薦入試69.5％で、推薦入試が一般入試の倍以上、７割近くを占める。

表８．回答者の属性

学科	日本語文化	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	幼児教育	人間関係	健スポ	食生活	生活造形
649	81	81	128	70	55	127	107
100.0	12.5	12.5	19.7	10.8	8.5	19.6	16.5

地域	兵庫	大阪	近畿（兵大除）	その他
649	301	178	89	81
100.0	46.4	27.4	13.7	12.5

住宅	自宅	アパート	本学寮	下宿	その他
645	482	47	45	32	12
100.0	74.7	11.5	7.0	5.0	1.9

設置者	公立	私立
648	533	115
100.0	82.3	17.7

入学形態	一般入試	推薦試
636	194	442
100.0	30.5	69.5

上段：人数
下段：％
＊左端の数字は合計

（２）　受験時の進学志望と４年制編入学の意志

フェイスシートでは、高校時代の希望進路、４年制大学受験の有無、本学短期大学の志望順位、４年制大学編入の意志についても尋ねている（表９）。高校での希望進路では、４年制進学、短大進学それぞれの希望者がほぼ同比率（46.1％と46.6％）で大半を占め、専門学校希望者は3.6％とごく僅かである。実際の受験で４年制大学を受験しなかった者が56.2％と過半数を占めるものの、４年制を受験したとする者も４割強おり、本学の短期大学生の場合、４年制を志望した者は決して少なくない。４年制大学受験者のうち、本学の４年制を受験した者の比率は72.5％で、本学４年制との併願の多さが際立つ。これには、受験において４年制と短期大学部の併願が容易になっていることがその要因だと考えられる。受験時において現在在籍している学科の志願順位は、第一志望であったとする者67.2％、第二志望21.2％であった。推薦入試での入学者が７割と多いことが大きな要因であろうが、４年制との併願が４割強と高かった割には、第一志望の割合は高いといえよう。最後に、入学時において本学４年制への編入を考えたかどうかを尋ねた。本学の編入制度では、他大学からの編入は行われておらず、本学４年制への編入は、本学短大生の特典であるからだ。「真剣に考えた」とする者が24.2％で４分の１おり、「少し考えた」33.7％を加えると、57.9％と過半数の者が入学時に４年制への編入を考えたということである。編入は短大入学後の一つの進路としてかなりの程度意識されている。現在の学科を第一志望とする者が７割強と多いものの、４年制大学受験者は４割強あり、４年制への編入希望を持っている者も６割弱（「少し考えた」を含む）ある。

なお、フェイスシートでは「入学時の満足度」「現在の満足度」についてもそれぞれ４件法で尋ねたが、この結果の検討については、後の(6)で行うこととする。

表９．高校時代の希望進路と４年制編入希望

高卒時希望進路	４年制大	短大	専門学校	その他	特になし
646	298	301	23	5	19
100.0	46.1	46.6	3.6	0.8	2.9

４大受験	有	無
648	284	364
100.0	43.8	56.2

有(284)の内訳

本学受験有	無
206	78
72.5	27.5

志望順位	第一志望	第二志望	第三志望
646	434	137	75
100.0	67.2	21.2	11.6

４大編入	短大入学時に４大編入を		
	真剣に考えた	少し考えた	考えず
649	157	219	273
100.0	24.2	33.7	42.1

上段：人数
下段：％
*左端の数字は合計

上記の結果について、もう少し詳しくみていく。まず、４年制受験（以下、４大受験）や４年制編入希望、志望順位等の関連を示したのが表10である。４大受験の有無と志望順位のクロスでは、当然のことながら、４大受験「無」の者で現在の所属学科を第一志望とした者が88.4％と圧倒的に多く、４大受験「有」では、第二、第三志望の比率が合計で59.7％と、順位が低くなった。しかしながら、４大受験「有」とする者でも、現在の短大を第一志望とする割合が40.3％もあり、高い比率で本学短期大学部を第一に志望しているとの見方もできる。

入学試験の種類と４大受験有無とのクロスでは、一般試験入学者の約８割（77.8％）が４大を受験しており、推薦入学者では当然ながら４大受験をしなかった者の比率が高くなっている。推薦入学者では、４大との併願を行っている者が４分の１強（27.9％）いるものの、短大に的を絞っている者が多い。一般試験入学者では短大のみに絞り込んで受験したのではなく、４大を受験している者が圧倒的に多いことが分かる。

表10－1.　４大受験有無と志望順位のクロス

	計	第一志望	第二志望	第三志望	
４大受験有	283	114	100	69	***
	100.0	40.3	35.3	24.4	
４大受験無	362	320	36	6	
	100.0	88.4	9.9	1.7	

χ二乗検定 ***：ｐ＜.001

上段：人数
下段：％
（以下同様）

表10－2.　４大受験有無と試験種類・編入学希望のクロス

		計	４大受験有	４大受験無	
４大編入を	真剣に考えた	157	128	29	***
		100.0	81.5	18.5	
	少し考えた	218	86	132	
		100.0	39.4	60.6	
	考えなかった	273	70	203	
		100.0	25.6	74.4	
入学形態	一般入学	194	151	43	***
		100.0	77.8	22.2	
	推薦入学	441	123	318	
		100.0	27.9	72.1	

次に、学科と進路志望に関する項目とのクロスをχ二乗検定し、１％水準以上で有意差のあったもののみを示したのが表11である。その一つは高校時希望進路とのクロスであり、「４大進学」を目指した者の割合は、生活造形、健康スポーツ、人間関係、英語コミュニケーションの順で、それぞれ50％台と比較的高く、逆に食生活が31.5％、日本語文化では39.5％と低めの値となった。ここに表として示していないが、学科と４大受験有無とのクロス（有意差ナシ）では、健康スポーツと生活造形のみで、４大を受験した者の割合が50％を上回り（順に56.4％、51.4％）、４年制志向が他学科より幾分高い。

もう一つ有意差があったのは、短大入学時に武庫川女子大学の４年制編入をどの程度希望したかを問う質問とのクロスである。「真剣に検討した」と答えた者の比率を取り上げると、健康スポーツ34.5％、人間関係34.2％、生活造形30.8％の順となった。これらの学科は４大受験率も高い学科であり、入学時より４大への編入を考えている者が多い。逆に食生活は9.4％で、他学科がすべて20％以上である中、飛び抜けて低い数字である。この理由として、食生活と対応する４年制の学科は生活環境学部食物栄養学科であるが、管理栄養士国家試験受験資格付与の人数枠との関係で、現在のところ短期大学からの編入が認められていないという事情がある。よって食生活学科では、受験生に周知の徹底をはかっている。４大への編入希望者は、受け入れ枠のある他の管理栄養士養成大学への編入試験を受験しなければならない。

表11. 所属学科と諸変数とのクロス

	高校時希望進路			短大入学時に大学編入を			
	４大進学	短大進学	他(専門含)	真剣に検討	少し検討	検討しない	
日本語文化	39.5	50.6	9.9	27.2	29.6	43.2	(%)
英語コミュニケーション	51.9	42.0	6.2	24.7	38.3	37.0	
幼児教育	44.4	50.0	5.6	21.1	31.3	47.7	
人間関係	53.6	44.9	*1.4*	**34.3**	31.4	34.3	
健スポ	54.6	36.4	9.1	34.5	38.2	*27.3*	
食生活	*31.5*	**59.1**	9.4	*9.4*	40.9	49.6	
生活造形	**57.0**	*34.6*	8.4	30.8	27.1	42.1	
χ二乗検定 **：p＜.01			**			**	

太字：残差分析で有意に高い値、斜字：残差分析で有意に低い値

（３）「短期大学に入学した理由」の因子分析

女子の４年制大学への進学率が高くなる中（図１参照）、どうして学生たちは短期大学へ入学したのかを問うた。「短期大学への進学」については、二つに分けて考える必要がある。一つはどうして進路選択として「短期大学」を選んだのか、もう一つはどうして「武庫川女子大学短期大学部」を選んだのかである。もちろん両者には共通部分も大きいが、後者の場合、武庫川女子大学（４年制）への編入、就職率のよさ、ブランドや世間体など、「武庫川女子大学の短期大学」であることを意識した進路選択を想定したものであ

る。よって、「短期大学に入学した理由」と「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」との別々の質問項目を設けることとした。本節では前者の結果を検討し、後者は次節の（４）で行う。

以下においては因子分析結果から、「短期大学に入学した理由」に影響を与える共通要因を明らかにし、それをもとに分析をすすめていく。次の（４）、（５）においても同様である。

１）因子命名と全体の傾向

４年制ではなく短期大学へ入学した理由として考えられる16の質問項目を設け、５件法で尋ねた。因子分析による分類にそって、質問項目ごとの回答比率を簡略化して示したものが表12である（なお、各項目の因子負荷量や共通性などの結果は、紙面の都合上、論文末の「資料２」に掲載している。次の（４）、（５）で行う因子分析も同様）。

因子分析（主因子法・ヴァリマックス回転法）の結果、５つの因子が得られた。第一因子は、「４年間も勉強したくなかった」「はやく社会に出たかった」など４つの質問項目から構成される因子なので、「短大積極選択」因子と命名した。第二因子は「親や家族が短大を勧めた」「高校の先生が短大を勧めた」「家庭の経済的事情」など５項目から構成されているので、「短大消極選択」因子とした。さらに「四年制大学より短大の方が入学しや

表12.「短期大学に入学した理由」の因子分析による分類と項目別比率

因子名	質問項目	回答者数	あてはまらない＋あまりあてはまらない	どちらでもない	あてはまる＋やや（%）
積極選択	６．四年間も勉強したくなかった	646	44.9	17.6	37.5
	３．はやく社会に出たかった	642	40.2	20.9	38.9
	９．四年制大学の受験に落ちた	644	58.2	5.3	36.5
	４．四年制大学卒女子よりも就職に有利と思った	634	51.7	29.8	18.5
消極選択	10．親や家族が短期大学を勧めた	648	58.6	16.8	24.5
	11．高校の先生が短期大学を勧めた	645	73.3	16.7	9.9
	12．家庭の経済的状況で四年制でなく短大にした	645	55.8	14.3	29.9
	13．女子の進学は短期大学で十分と思った	644	68.0	18.9	13.0
	15．進路に迷ったので、とりあえず短大にした	645	66.8	15.8	17.4
学力	８．四年制大学よりも短期大学の方が入学しやすい	644	38.0	25.2	36.8
	５．四年制大学に進学するには学力が足りなかった	644	36.5	26.2	37.3
進路模索	14．高校卒業では、よい就職がないと思った	647	50.4	16.8	32.8
	16．短期大学の方が、就職や進学の選択肢広い	622	53.4	25.2	21.4
	７．専門学校に進学するよりも世間がよい	646	44.1	24.1	31.7
資格	１．短い期間で希望する資格や免許が取得できる	647	23.2	20.1	56.7
	２．２年間で学位（短期大学士）が取得できる	648	29.8	26.9	43.4

すい」など２項目からなる第三因子を「学力」因子、「高卒ではよい就職がないと思った」など３項目からなる第四因子を「進路模索」因子、「短い期間で希望する資格や免許が取得できる」など２項目からなる第五因子を「資格」因子と名付けた。この調査結果からは、以上の５つが短期大学への進学に影響を及ぼす要因だと考えられる。

学生の回答は肯定から否定まで分散しており、「あてはまる＋ややあてはまる」の肯定的な回答をした者の比率に注目してみても、それほど高い比率の項目はない。肯定的回答の高い比率の項目は、第五因子「資格」の項目で、「短い期間で希望する資格や免許を取得できる」56.7％、「２年間で学位が得られる」43.4％であり、他の項目の多くは20～30％台が多い。逆に肯定的な回答率の低い項目を挙げると、第二因子「短大消極選択」の「高校の先生が短大を勧めた」9.9％、「女子の進学は短大で十分だと思った」13.0％、「進路について迷ったのでとりあえず短大にした」17.4％などであり、第一因子「短大積極選択」の「四年制卒女子よりも就職に有利」も18.5％と低い。

２）学科による比較

因子によって分類された項目ごとに肯定的回答率（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）を示し、学科による比較を行ったものが表13である。太字あるいは斜字となっている数字は、χ二乗検定をした際に各セルの残差を算出し、その値が±1.98より大きな（あるいは小さな）セルであり、そのセルの数値が統計的に有意に高いあるいは低いことを示すものである。比率を比較していくと、学科の特色が見えてくる。「積極的選択」因子の「４年間も勉強をしたくなかった」との項目には、食生活（46.5％）の比率が高くなっている。「四年制大学に落ちた」で比率が高いのは健康スポーツ（50.9％）と生活造形（47.6％）であり、この２学科は「四年制大卒女子より就職が有利」の比率ではともに一桁と低く、４年制大学志向が強い学生が多いと言えよう。英語コミュニケーションは「四年制大卒女子より就職有利」が有意に高く、「はやく社会に出たかった」が有意ではないものの他より高くなっており、他と比して早く社会に出たいとして、短大を選んだ者が比較的多いようだ。

第二因子の「消極的短大選択」において他との違いが大きい学科は幼児教育と日本語文化であり、対照的な結果となっている。幼児教育の場合、「親や家族の勧め」「女子の進学は短大で十分」「進路について迷ってとりあえず」の肯定比率がいずれも有意に低くなっているのに対し、日本語文化は「親や家族の勧め」「家庭の経済的理由」の比率が有意に高いという結果であった。第三因子の「学力」においては、学科間で統計的な有意差は見られない。

第四因子「進路模索」では、健康スポーツは全３項目で、幼児教育は３項目中２項目で有意に低くなっており、「とりあえずの進路としての短大進学」は比較的少ない。これに

表13. 学科別に見た「短期大学に入学した理由」の肯定回答比率

因子名	質問項目	全体での比率	日本語文化	英語コミュニケーション	幼児教育	人間関係	健康スポーツ	食生活	生活造形	
積極選択	6．四年間も勉強したくなかった	37.5	*25.9*	33.8	43.0	36.2	29.1	**46.5**	36.8	**
	3．はやく社会に出たかった	38.9	38.8	46.9	40.5	32.9	27.3	43.2	36.2	
	9．四年制の受験に落ちた(負荷量一)	36.5	28.4	35.0	35.7	40.0	**50.9**	*26.0*	**47.6**	*
	4．四年制大学卒女子よりも就職有利	18.5	22.5	**30.4**	23.6	19.1	*7.3*	16.9	*7.6*	***
消極選択	10. 親や家族が短期大学を勧めた	24.5	**33.3**	24.7	*16.4*	27.1	*16.4*	24.4	30.2	*
	11. 高校の先生が短期大学を勧めた	9.9	7.5	9.9	5.5	7.1	16.7	12.6	12.4	
	12. 家庭の経済的状況で短期大学	29.9	**39.5**	24.7	28.3	27.1	23.6	34.1	28.6	
	13. 女子の進学は短期大学で十分	13.0	12.5	19.8	*6.3*	12.9	7.4	18.3	13.3	*
	15. 進路について迷ってとりあえず	17.4	18.5	16.0	*7.1*	**35.7**	11.1	19.7	18.1	***
学力	8．四年制よりも短大入学容易	36.8	37.0	*25.9*	34.9	41.4	34.5	43.3	37.5	
	5．四年制に進学には学力不足	37.3	35.0	37.0	38.9	38.6	40.0	34.9	37.7	
進路模索	14. 高校卒業ではよい就職がない	32.8	38.3	33.8	*25.0*	42.9	*18.2*	31.5	39.6	**
	16. 短大の方が就職・進路の選択広い	21.4	**31.6**	27.8	*10.8*	**35.8**	*5.7*	23.8	17.1	***
	7．専門学校進学よりも世間体よい	31.7	32.1	38.3	26.2	37.1	*20.0*	37.8	28.3	
資格	1．短期間で希望の資格・免許取得	56.7	*42.0*	*35.0*	**87.5**	*28.6*	57.4	**85.0**	*31.8*	***
	2．２年間で学位取得	43.4	*31.3*	*29.6*	**53.9**	37.1	47.3	**60.6**	*31.8*	***

χ二乗検定　***：p＜.001, **：p＜.01, *：p＜.05（表15、17も同様）

※1．「当てはまる」＋「やや当てはまる」と答えた者の％。

※2．χ二乗の検定結果は、「当てはまる（「やや」を含む）」「どちらとも－」「当てはまらない（あまり－」を含む）の３カテゴリーと学科で行ったもの（表15、17も同様）。但し、この表には「当てはまる＋やや当てはまる」の比率のみで、「どちらともいえない」「あてはまらない（あまり－）」の比率は掲載していない。

※3．太字の数字は残差分析で +1.98より大きかったセル、斜字の数字は－1.98より小さかったセルで、各セルの期待値より有意に大きい、あるいは小さいことを示す。以下、表15、17も同様。

対し、日本語文化と人間関係では、「短大の方が就職・進路の幅が広い」とする項目の肯定比率は30％台と低いものの、他学科との比較では有意に高く、選択肢の広さをやや肯定的に捉えている。

最後の「資格」に関する第五因子では、学科間の差異が特に明確になった。この因子の項目は、他因子の項目に比して肯定する割合が高い。特に幼児教育と食生活では、「短期間で希望の資格・免許取得」がそれぞれ87.5％、85.0％と非常に高率で、資格や免許の取得が大きな進学理由になっていることが伺える。反対に、健康スポーツを除く他の４学科は有意に低い。英語コミュニケーション、日本語文化、生活造形の各学科は「２年間で学位取得」でも有意に低い比率となっており、資格や学位の取得にそれほど重きを置いていない学生が少なくないようである。なお、自由記述欄を設けて学生の意見を尋ねており、それに関しては（７）で検討する[5)]。

（4）「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の因子分析

上記（3）で検討したのは、他の高等教育機関ではなく「短大に入学した理由」であったが、本節では「他大学ではなく、武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の分析を行う。質問は、Ⅱ-1で述べた本学短期大学部の特徴と思われるものを入れ込んだ22項目（5件法）を作成した。

1）因子命名と全体の傾向

因子分析によって因子の抽出を行った。主因子法・ヴァリマックス回転法ではうまくまとまらなかったので、プロマックス法を用いた（因子負荷量などは「資料2」を参照）。その結果、6因子が抽出され、因子ごとの項目と回答比率は表14に示したとおりである。

第一因子は、「就職率がよいと聞いた」（肯定比率84.5%、以下同様）、「施設や設備がきれいで充実」（75.8%）、「よく名前が知られている短大」（79.4%）、「自分の学びたい学科や専攻がある」（86.0%）など7項目からなる。これらの質問項目内容から判断して、「多様な期待への対応」因子と命名した。この因子の項目は、他の因子の項目と比べて肯定的比率の値が高い。特に「学びたい学科・専攻がある」の肯定比率が高い（86.0%）のは当然として、「就職率がよい」（84.5%）、「名前を知られている短大」（79.4%）、「施設や設備がきれいで充実」（75.8%）といった項目は、4分の3以上の者が肯定的な回答を行っており、これらのことが受験生に高く評価されていることが分かる。

次の第二因子は、「情報教育に力を入れている」「幅広い教養を身につけることができる」「海外施設をもつなど留学制度に魅力」「阪神間の都市部にある」「身近に本学出身者がいた」および「建学の精神・教育理念に共鳴」の6項目からなる。前から3項目と「建学の精神」は大学でのカリキュラムとまとめることもできるが、他の2項目は同じ括りにはなじまない。そこで「阪神間に位置する」は便利な位置にあり、落ち着いて学びやすい環境として捉え、「身近に卒業生がいる」は身近に感じられ安心して学べる環境だと広く解釈し、「学習環境のよさ」と命名してみた。この中で高い比率の項目は、「幅広い教養」44.7%、「阪神間の都市部にある」36.4%で、他項目は10%台で低い値である。なお、「推薦入学制度を利用できた」については、この因子の構成項目としては負荷量が低く曖昧だったので採用しなかったが、比率は示している通りである（資料2参照）。

残りの4因子の命名は次のようにした。第三因子は「高校の先生の勧め」「親や家族の勧め」から構成されるので「他者からの勧め」因子と名付けた。「武庫川女子大学への編入ができると思った」「四年制もある総合大学」からなる第四因子は、「四年制大学併設」因子とした。次の第五因子は「大学の学生寮がある」「自宅から通学できる」から構成されているので、「生活安心」因子と命名してみた。学生寮に入る学生の数は全体からすると小さく、これを支持した回答は8.1%と少ないが、「自宅から通学できる」は55.0%と多くなっており、学生にとって重要な入学理由の一つと言えるだろう。最後の「自分の成績

表14.「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の因子分析による分類と項目別比率

因子名	質問項目	回答者数	あまりなあてはまらない＋はあまいて	どちらでもない	あてはまるやや＋はあまてる
多様な期待への対応	3．就職率がよいと聞いた	644	5.9	9.6	84.5
	4．教育に力を入れていると聞いた	637	15.9	37.0	47.1
	6．伝統のある短期大学である	643	14.0	27.2	58.8
	11．施設や設備がきれいで充実している	645	7.4	16.7	75.8
	7．よく名前を知られている短期大学である	646	7.9	12.7	79.4
	12．様々な資格や免許を取得できる	644	9.9	24.5	65.5
	2．自分の学びたい学科や専攻がある	645	4.7	9.3	86.0
学習環境のよさ	16．情報処理教育に力を入れている	642	52.6	37.1	10.3
	18．幅広い教養を身につけることができる	645	25.6	29.8	44.7
	15．阪神間の都市部にあるから	646	38.7	24.9	36.4
	17．独自の海外施設をもつ等、留学制度に魅力	644	60.7	22.0	17.2
	19．家族や親戚など身近に、本学出身者がいる	646	65.9	16.4	17.6
	1．建学の精神、教育理念に共鳴した	646	48.9	39.8	11.3
	（10．推薦入学制度を利用できたから）	645	34.0	18.9	47.1
他者勧め	22．高校の先生に勧められたから	644	38.8	26.1	35.1
	21．親や家族に勧められたから	644	34.2	25.3	40.5
四大併設	20．武庫川女子大学（四年制）への編入ができる	645	43.3	18.1	38.6
	9．四年制大学もある総合的な大学	643	16.8	31.9	51.3
生活安心	13．大学の学生寮があった	645	75.0	16.9	8.1
	8．自宅から通学できる距離にある	645	29.9	15.0	55.0
学力適合	5．自分の偏差値（成績）にあう	645	14.9	34.7	50.4
	（14．自分が得意な科目で受験する	645	21.1	22.9	56.0

（%）

主因子法、プロマックス回転

にあう大学」「得意科目で受験できる」から構成される第六因子は、「学力適合」因子と名付けることとした。学力に関連するこれら２項目は、いずれも50％台と比較的高い肯定的回答率である。

２）学科による比較

因子ごとに、各項目の肯定比率を学科間で比較したものが表15である。χ二乗検定で有意差のあった項目を中心に、武庫川女子大学短期大学部の特徴も加味しながら、学科間の差異を少し詳しく検討していく。

まず、様々な内容の項目から構成されている第一因子「多様な期待への対応」から見ていく。「就職率がよい」は全体として比率の高い項目であるが、中でも幼稚園教員、保育所の保育士といった専門の就職に直結する幼児教育の比率は93.8％で、一段と高くなっている。これに対し、健康スポーツと生活造形は70％台と高い比率ながら、有意に他学科より低い数値となった。次に「伝統のある短大」を肯定する割合が70.0％と高い人間関係に

対し、健康スポーツでは31.5％と他に比してかなり低い数値となっており、この項目はあまり入学理由となっていないようだ。いわゆる「スポーツの伝統校」として認識されていないのかもしれない。「よく名前を知られた短大」も全体として肯定比率が高い項目（79.4％）であるが、特に食生活での比率は高くなっている。健康スポーツも50.9％と過半数はあるものの、ここでも他と比べれば低い割合である。「様々な資格や免許の取得」では学科間の差が大きい。先ほどの「就職率がよい」と同様、二つの資格・免許を取得できる幼児教育、さらに栄養士資格を取得できる食生活ではともに80％以上が肯定しているが、人間関係（44.3％）、日本語文化（50.6％）、英語コミュニケーション（54.3％）は50％前後とやや低い数値となっている。大学ではエクステンション講座を設けて資格取得を促すなどしているが、就職に直結するような資格はなかなかないのが実情である。「自分の学びたい学科や専攻がある」は、学科間に有意な差異はあったものの、肯定比率が最低でも71.4％あり、選択理由として最も肯定比率の高い項目である。

第二因子「学習環境のよさ」の下位６項目中、３項目で差異がみられた。本学では1400台のコンピュータを備えたマルチメディア館を中心とした情報処理教育に力を入れているので、「情報処理教育に力を入れている」との質問を設けた。しかしながら全体として肯定的回答は10.3％、学科別では人間関係のみが25.7％と、唯一20％台にすぎない。各学科におけるカリキュラム等の関係もあろうが、大学のこうした取り組みが受験生には十分に浸透していないのかもしれない。「幅広い教養を身につけられる」は、学科間で大きな差異がみられる。英語コミュニケーション65.0％、日本語文化56.8％と過半数であるのに対し、健康スポーツと食生活の２学科は、30.9％、36.5％と有意に低く、幼児教育も37.5％である。文学や語学といった教養志向と、スポーツ志向や実学志向との違いが反映されているとも言えよう。もう一つの差異が見られた項目は「独自の海外施設など留学制度に魅力」で、英語コミュニケーションのみが85.2％と他よりも極端に高い。この差異の理由は明快で、英語コミュニケーション学科では１年次の後期に全員がアメリカ分校（ワシントン州 Spokane 市にある Fort Wright キャンパス）に留学することになっているからである。幼児教育では短期の夏期研修プログラムを実施しているので、他学科より少し高くなったのかもしれない。

第三因子「他者からの勧め」の下位項目では χ 二乗での有意差は見られなかった。「高校の教員からの勧め」の肯定的回答が全体で35.1％、「親や家族の勧め」では40.5％であり、家族からの勧めの方が若干高い。高校の先生の勧めでは、幼児教育で有意に高い数字となっている。

続いて第四因子「四年制大学併設」の項目「四年制がある総合的大学である」は、全体で51.3％と半数であるが、英語コミュニケーションが63.0％と少し高い比率であることを除いて学科間の差は小さい。一方の「武庫川女子大学への編入枠がある」では、ほとんど

の学科が40％以上で、中でも人間関係は50.0％と最も高い。これに対し、食生活のみが19.8％と有意に低い数値となっている。先にも述べたが、食生活だけは管理栄養士資格の関係もあって、４年制への編入枠が現在のところないためである。食物栄養学科以外への編入の道もなくないが、専門が大きく異なる。管理栄養士（受験）資格をとるためには、他の４年制大学に進学する必要があり、このことを学生はよく知っている。

第五因子「生活安心」では、地元出身者が多いということもあり、「学生寮があった」の比率は低い。健康スポーツや幼児教育、日本語文化が10％で少し高くなっているものの、統計的な差異はない。これに対し「自宅から通学できる距離にある」は全体で55.0％と過半数、中でも英語コミュニケーションは71.6％と最も高い。幼児教育と食生活はともに40％台で他と比べて有意に低い値となっている。

最後の第六因子「学力適合」の２項目は、全体でともに50％を超えている。「自分の偏差値（成績）にあう」は、入試で実技もある健康スポーツで少し低くなっているものの、

表15. 学科別に見た「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の肯定回答比率

因子名	質問項目	全体での比率	日本語文化	英語コミュニケーション	幼児教育	人間関係	健康スポーツ	食生活	生活造形	
多様な期待への対応	3．就職率がよいと聞いた	84.5	85.2	81.5	**93.8**	88.4	*72.7*	86.4	*76.2*	**
	4．教育に力を入れていると聞いた	47.1	43.0	55.6	53.5	*34.3*	45.5	48.0	43.7	
	6．伝統のある短期大学である	58.8	57.5	58.8	60.9	**70.0**	*31.5*	61.1	61.0	*
	11．施設や設備がきれいで充実	75.8	72.8	81.3	76.6	75.7	67.3	77.6	75.5	
	7．よく名前を知られている短期大学	79.4	78.8	79.0	84.4	85.7	*50.9*	**88.1**	74.5	***
	12．様々な資格や免許を取得できる	65.5	*50.6*	*54.3*	**82.0**	*44.3*	74.5	**83.9**	53.3	***
	2．自分の学びたい学科や専攻がある	86.0	71.6	90.1	**97.6**	*71.4*	90.9	84.9	88.6	***
学習環境のよさ	16．情報処理教育に力を入れている	10.3	16.3	13.8	6.3	**25.7**	3.6	6.4	5.8	***
	18．幅広い教養を身につけることができる	44.7	**56.8**	**65.0**	37.5	45.7	*30.9*	*36.5*	44.8	***
	15．阪神間の都市部にあるから	36.4	42.0	39.5	33.6	**47.1**	27.3	34.1	33.3	
	17．独自の海外施設など、留学制度に魅力	17.2	*5.0*	**85.2**	16.4	*5.7*	*1.8*	*3.2*	*7.2*	***
	19．家族や親戚など身近に本学出身者がいる	17.7	17.3	21.0	16.5	21.4	11.1	23.0	11.4	
	1．建学の精神、教育理念に共鳴した	11.3	**18.5**	17.3	7.8	10.0	7.3	12.7	6.7	
	（10．推薦入学制度を利用できた）	47.1	49.4	50.6	40.6	52.2	41.8	48.8	48.1	**
他者勧め	22．高校の先生に勧められた	35.1	36.7	41.3	**43.0**	35.7	40.0	27.8	*25.5*	
	21．親や家族に勧められた	40.5	48.8	43.8	37.0	48.6	36.4	34.9	39.6	
四大併設	20．武庫川女子大学への編入ができる	38.6	42.0	44.4	37.0	**50.0**	48.1	19.8	43.4	***
	9．四年制大学もある総合的な大学	51.3	55.0	**63.0**	46.1	58.6	44.4	50.0	46.2	
生活安心	13．大学の学生寮があった	8.1	11.1	4.9	11.8	5.7	12.7	4.8	6.7	
	8．自宅から通学できる距離にある	55.0	57.5	**71.6**	*42.2*	58.6	57.4	*46.0*	63.2	***
学力適合	5．自分の偏差値（成績）にあう	50.4	55.6	55.0	52.3	50.0	38.2	53.2	43.8	
	14．自分が得意な科目で受験できる	56.0	**66.3**	61.7	60.2	50.0	61.8	*44.4*	53.3	**

※１．「当てはまる」＋「やや当てはまる」と答えた者の％。
※２．χ二乗検定結果の数字の示し方などについては、表13と同じである。
※３．太字、斜字については、表Ｂの※３を参照のこと。

χ二乗での統計的差異はない。「得意科目で受験できる」で有意に差異があるのは２学科で、日本語文化が66.3％と最も高く、食生活が44.4％で最も低い。ちなみに、短大の推薦入試では１科目のみの選択（日本語文化は国語必須／英語コミュニケーションは英語が必須／健康スポーツは実技が必須で英国から１科目選択か、教科なしの実技のみ／食生活は歴史の選択不可）、一般入試では２科目の選択となっていた（当時）。

以上、学科間の差異を中心に、武庫川女子大学短期大学部に入学した理由に関する項目を因子ごとに検討してきた。就職率のよさや学びたい学科・専攻があること、知名度、設備・施設の充実などの項目は各学科に共通する入学理由として高い肯定比率であったが、これらの項目も含めて学科による差異が認められた。特に、実学志向の学科、教養志向の学科、４年制編入志望の強い学科、留学がカリキュラムに組み込まれている学科などによる違いが確認できる。

（５）「武庫川女子大学短期大学部での学生生活評価」の因子分析

学生生活を振り返って、学生はどのようなことを評価し、あるいは評価していないのかを尋ねた。武庫川女子大学が学生に提供している教育および環境などを全般的に評価してもらい、今後の改善における基礎データとすることを目的としている。武庫川女子大学短期大学部が独自に行ってきた取り組みなどを踏まえながら、学生生活を網羅できるように29の質問項目（５件法）を作成した。本調査研究において重要な部分なので、詳しく検討していく。

１）因子命名と全体の傾向

因子分析（主因子法・プロマックス法）にかけたところ、７因子が得られた。これまで同様、因子の下位項目ごとに学生評価の割合を三段階に分けて示したものが表16である。各因子を構成する質問項目は、因子負荷量の高い順に並んでいる（因子負荷量などの結果は、資料２を参照のこと）。

第一因子は、７項目から構成される。肯定的回答率が大きい順に、「武庫川女子大学の就職枠あり有利」「比較的少人数の授業が多い」「女性を意識した授業が多い」となり、いずれも半数近くが肯定した回答である。その他の項目ではおよそ25～35％とやや低下する。授業内容だけでなく、就職、教員あるいは職員の対応といった多様な質問項目内容と、因子負荷量（資料２別表３）を考慮して考えると、主として学生への支援や対応の熱心さを表す項目で構成されていると判断し、「学生支援」因子と命名する。

第二因子は、因子負荷量が低い「17. 専門学校へ行った方がよかった」を除くと、６項目から構成される。肯定比率が高いものは「入学後親しい友人を得やすい」71.7％、「クラス担任制は学校生活に慣れるうえで役立つ」60.8％、「クラスでの丹嶺合宿がよい思い

出」58.8％で、これらは友人やクラス、行事に関わる項目である。「なんとなくホッとできる雰囲気」は47.9％と約半分が肯定的回答をした。「女子大学のよさ」に関わる項目として設定した「同性ばかりなので周りを気にせず自分らしさを出せる」は、約６割（57.8％）が肯定的回答をしたが、「体育祭や文化祭がよい思い出」とともに、因子負荷量は0.35未満であった。これらのことから判断して、「学生生活安心」因子と名付ける。

次の第三因子は、５項目から構成される。「希望する資格や免許の取得ができる」の比率が63.0％と他の項目より少し高いが、「専門科目での高度な内容の授業が多い」「職業に役立つ知識や技能を身につけられる」「幅広い教養」「情報処理教育の充実」はそれぞれ45～50％の比率で大きな差はない。授業の内容や免許取得に関することなので、「知識獲得」因子とする。

続いて第四因子であるが、「女性としての将来の目標や課題をつかむ」「同性の先輩後輩との交流がある」「働いている先輩に話をきける」「留学制度の充実」の４項目からなる。これらの肯定回答率はすべて20％～40％の範囲にあり、評価の低い項目である。「留学制度の充実」を除き、女子大学として大切にしなければならないものを並べ、それがどれほど実現できているかを確かめる意図の質問項目でもある。それらを学生があまり実感していないというこれらの数字をしっかりと受け止める必要がある。「留学制度」は負荷量が低いことを加味して、「女性支援」因子とする。

第五因子から第七因子はそれぞれ２項目ずつからなる。第五因子は「施設がきれい」「図書館やコンピュータなど設備・施設が充実」から構成されるので、「施設充実」因子とした。前者が65.8％、後者は87.4％であり、設備・施設は高く評価されている。第六因子は「クラブを通して自立心が養われる」「クラブでやりたいことができる」の２項目なので、「クラブ充実」因子である。ただしこれらの項目は肯定比率が低い。クラブに入っていない者が少なくないことに加え、短大生は４年制の学生と一緒にクラブ活動をしており、常に上級生がいるという点も影響しているかと推測される。最後の第七因子は「四年制へ行った方がよかった」「四年制への編入枠を広げる」から成るので「四年制大学志向」因子とした。「四年制への編入枠を広げる」については、46.5％と約半数の者が肯定的に回答している。「四年制へ行った方がよかった」は、「どちらともいえない」の約20％を挟んで、肯定と否定に二分されている。負荷量が小さいので第七因子に入れなかった「３．異性が周りにいないのは不自然」もまた、女子大学であることを意識して設けた項目である。その回答は三分されており、女子だけの環境であることの評価については、様々な意見があるようだ。

以上、このデータから得られた因子は、負荷量が大きい順に「学生支援」「学生生活安心」「知識獲得」「女性支援」「施設充実」「クラブ充実」「四年制大学志向」の７因子であった。これらが短期大学生の学生生活を規定する要因と見ることができる。

表16.「武庫川女子大学短期大学部での学生生活の感想」の因子分析による分類と項目別比率

因子名	質問項目	回答者数	あまりなあてはまらない＋はあまてはまらない	どちらでもない	あてはまる＋やあてはまる	
学生支援	12. 職員の対応が親切である	645	25.3	44.0	30.7	(%)
	6. きめ細かい就職指導を受けられる	647	31.7	34.2	34.2	
	14. 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	645	25.6	46.7	27.8	
	4. 女性を意識した授業などが多い	644	19.3	34.9	45.8	
	2. 教員と話す機会が多く、親しみやすい	646	40.6	34.5	24.9	
	10. 比較的少人数の授業が多い	647	21.2	31.2	47.6	
	11. 本学短期大学部用の就職枠あり有利だ	645	15.0	34.4	50.5	
学生生活安心	9. 入学後、親しい友人を得やすい	644	8.1	20.2	71.7	
	5. クラスでの丹嶺合宿がよい思い出になっている	645	20.0	21.2	58.8	
	8. クラス制は学校生活に慣れるのに役立つ	646	16.9	22.3	60.8	
	25. なんとなくホッとできる雰囲気がある	647	17.6	34.5	47.9	
	26. 体育祭や文化祭がよい思い出になっている	645	23.6	29.5	47.0	
	15. 同性ばかりなので周りを気せず自分を出せる	647	13.8	28.4	57.8	
知識獲得	28. 希望する資格や免許を取得できる	646	9.1	27.9	63.0	
	29. 専門科目では高度な内容の授業多い	645	12.4	40.6	47.0	
	27. 職業に役立つ知識や技能を身につけられる	645	12.6	37.2	50.2	
	18. 幅広い教養を身につけることできる	647	13.0	39.4	47.6	
	30. 情報処理教育が充実している	647	12.5	41.9	45.6	
女性支援	22. 働いている先輩に話を聞き参考になる	646	29.9	47.8	22.3	
	1. 同性の同学年や先輩・後輩の交流がある	647	38.0	28.9	33.1	
	23. 女性として、将来の目標・課題の把握ができる	645	20.2	41.6	38.3	
	21. 留学制度が充実している	645	23.3	45.4	31.3	
施設	19. ゴミなど少なく施設きれいだ	647	8.3	25.8	65.8	
	20. 図書館やコンピュータなど充実	643	2.3	10.3	87.4	
クラブ	13. クラブ等自分たちで行い自立心	644	32.3	46.4	21.3	
	7. クラブでやりたいことが十分できる	644	63.7	28.3	8.1	
志向 四大	16. 四年制大学へ行った方がよかった	645	38.4	22.6	*38.9*	
	24. 本学四年制への編入枠を広げるべきだ	647	19.2	34.3	46.5	
	(3. 異性が周りにいないのは、不自然だ)	645	36.6	31.3	32.1	
	(17. 専門学校へ行った方がよかった)	646	70.4	16.9	12.7	

2）学科による比較

学生生活においても、学科間での差異が明確である（表17）。第一因子「学生支援」においては、幼児教育と食生活が近い関係にあり、いずれも肯定的評価が他より有意に低い項目が多い。特に幼児教育ではその傾向が顕著で、7項目すべてで肯定比率は有意に低くなっている。これに対して英語コミュニケーションは7項目中6項目で有意に高く、「少人数の授業が多い」（77.8%）をはじめ、様々な面から学生支援を高く評価する傾向にある。全体の肯定比率が27.8%と最も低い「授業に熱心な教員が多い」で、日本語文化は41.3%と他よりも有意に高く、「女性を意識した授業が多い」でも66.3%と3分の2が肯定的に答えている。英語コミュニケーション、日本語文化といった教養系の学科で教員に

よる学生支援を高く評価し、幼児教育では低い傾向がみられる。

第二因子「学生生活安心」は肯定比率の高い項目が多く、学科間の差異は少ない。差が比較的大きかったのは「クラスで丹嶺合宿がよい思い出」であり、健康スポーツが80％近く、幼児教育が67.2％と高いのに対し、ここでは英語コミュニケーションが半数以下と低くなった。

「知識獲得」と命名した第三因子では、人間関係が他学科と異なる傾向にある。「専門科目で高度な内容の授業」「資格や免許の取得」で、人間関係は全体比率の半分以下という低い結果であった。逆に食生活ではこの２項目がともに高い肯定比率となっている。「資格や免許の取得」では、幼児教育の94.5％が肯定している。幼児教育、食生活の実学系２学科では、取得すべき資格・免許が明確にあり、他学科との差異は大きい。「情報処理教育の充実」では逆に人間関係と日本語文化で高い。学科の専門教育において、情報機器を用いた授業が開講されていると考えられる。

第四因子「女性支援」で高い比率の項目はないが、学科間の差異はみられる。「働いている先輩に話をきける」「女性として将来の目標・課題の把握ができる」では英語コミュニケーションの率が43.2％、50.0％と高く、「同性の先輩・後輩の交流がある」では健康スポーツが50.0％と高くなっている。英語コミュニケーションでは、学科としてそのような機会を意識的に設けていると考えられ、健康スポーツはクラブなどを通じての交流が影響を与えていると思われる。「留学制度」は、英語コミュニケーションが必修として課しているので、この学科だけ92.6％と極端に高い。

第五因子「施設充実」に関連する項目は全体的に高い評価であるが、「図書館やコンピュータなどの充実」で日本語文化が他よりプラスに評価する率が高い。第六因子の「クラブ充実」では、２項目とも健康スポーツの比率が30％台と他に比して高い。日本語文化において有意に高い比率となっていることも注目される。学科別のクラブ加入率は不明だが、文化系クラブ加入率の影響かとも思われる。最後に「四年制大学志向」因子では、人間関係で「四年制大学の方がよかった」が51.4％と統計的に有意に高く、生活造形も有意ではないものの同様の傾向がある。「編入枠の拡大」では差異があり、現在のところ編入枠のない食生活（62.7％）と４年制大学志向の強い生活造形（56.1％）で有意に高い値となった。これに対し、英語コミュニケーションと日本語文化は30％未満で、そうした希望は相対的に低くなっている。

なお、因子項目に入れなかった２項目をみると、「３．異性が周りにいないのは不自然」との意見を肯定する比率が高いのは幼児教育の42.5％、健康スポーツと英語コミュニケーションでは20％程度と低い。「17．専門学校へ行った方がよかった」とする比率はいずれも低いが、その中で生活造形が24.3％と４分の１がこれを肯定した。アパレルやインテリアなどなど、専門学校が得意とする授業内容と重なる部分が多いためかと推測できる。

表17. 学科別に見た「武庫川女子大学短期大学部での生活を振り返っての感想」の肯定回答比率

因子名	質問項目	全体での比率	日本語文化	英語コミュニケーション	幼児教育	人間関係	健康スポーツ	食生活	生活造形	
学生支援	12. 職員の対応が親切である	30.7	38.8	**46.9**	*18.9*	24.6	27.3	34.1	28.0	***
	6. きめ細かい就職指導を受けられる	34.2	34.8	**60.5**	*10.9*	44.3	*20.0*	35.7	33.6	***
	14. 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	27.8	**41.3**	34.6	*18.9*	30.0	*16.4*	27.8	27.4	***
	4. 女性を意識した授業などが多い	45.8	**66.3**	**60.5**	*24.4*	53.6	30.9	39.7	**54.7**	***
	2. 教員と話す機会が多く、親しみやすい	24.9	27.5	**40.0**	*16.4*	21.4	27.3	22.0	36.4	***
	10. 比較的少人数の授業が多い	47.6	45.0	**77.8**	*32.0*	40.0	56.4	49.2	43.9	***
	11. 本学短期大学部用の就職枠あり有利だ	50.5	55.0	**64.2**	*37.0*	61.4	40.7	56.3	43.9	***
学生生活安心	9. 入学後、親しい友人を得やすい	71.7	68.8	72.5	72.7	62.9	69.1	**79.2**	70.8	
	5. クラスでの丹嶺合宿がよい思い出だ	58.8	61.3	*44.4*	**67.2**	50.7	**79.6**	57.5	53.8	**
	8. クラス制は学校生活に慣れるのに役立つ	60.8	66.3	56.8	59.4	51.4	63.6	62.4	64.5	
	25. なんとなくホッとできる雰囲気がある	47.9	**61.3**	56.8	43.8	47.1	*32.7*	45.2	47.7	
	26. 体育祭や文化祭がよい思い出だ	47.0	48.8	42.0	45.7	50.0	**61.1**	48.4	40.2	
	15. 同性ばかりなので周りを気せず自分出せる	57.8	61.3	**69.1**	64.1	52.9	58.2	52.4	48.6	
知識獲得	28. 希望する資格や免許を取得できる	63.0	56.3	*45.7*	**94.5**	*25.7*	74.5	**77.8**	*44.9*	***
	29. 専門科目では高度な内容の授業多い	47.0	43.0	48.1	50.8	*22.9*	41.8	**63.5**	43.4	***
	27. 職業に役立つ知識や技能を身につけられる	50.2	48.8	59.3	52.0	45.7	51.9	50.0	44.9	
	18. 幅広い教養を身につけることできる	47.6	**61.3**	**59.3**	40.6	48.6	*32.7*	44.4	47.7	*
	30. 情報処理教育が充実している	45.6	**57.5**	51.9	40.6	**57.1**	23.6	47.6	39.3	***
女性支援	22. 働いている先輩に話を聞き参考になる	22.3	22.8	**43.2**	18.8	22.9	21.8	*14.3*	19.6	***
	1. 同性の同学年や先輩・後輩の交流がある	33.1	41.3	33.3	30.7	40.0	**50.9**	31.5	17.8	***
	23. 女性として、将来の目標・課題の把握ができる	38.3	45.6	**50.0**	37.4	*25.7*	29.1	34.1	43.0	**
	21. 留学制度が充実している	31.3	*17.7*	**92.6**	*23.4*	22.9	*16.4*	*20.0*	30.8	***
施設	19. ゴミなど少なく施設きれいだ	65.8	72.5	71.6	67.2	75.7	56.4	*53.2*	68.2	
	20. 図書館やコンピュータなど充実している	87.4	**96.2**	85.2	83.5	92.8	*74.5*	85.7	92.5	*
クラブ	13. クラブ等自分たちで行い自立心を養える	21.3	**30.4**	27.2	*12.6*	18.6	**38.2**	19.8	15.1	***
	7. クラブでやりたいことが十分できる	8.1	**15.2**	4.9	*1.6*	8.6	**30.9**	6.5	*2.8*	***
四大志向	16. 四年制大学へ行った方がよかった	38.9	31.3	32.5	35.3	**51.4**	32.7	40.5	47.2	
	24. 本学四年制への編入枠を広げるべきだ	46.5	30.0	*29.6*	*38.3*	52.9	50.9	**62.7**	**56.1**	***
	(3. 異性が周りにいないのは、不自然だ)	32.1	26.3	*21.0*	**42.5**	31.4	*20.0*	35.7	34.9	**
	(17. 専門学校へ行った方がよかった)	12.7	7.5	*5.0*	11.7	14.3	12.7	11.1	**24.3**	***

※1.「当てはまる」+「やや当てはまる」と答えた者の%。
※2. χ二乗検定結果の数字の示し方などについては、表13と同じである。
※3. 太字、斜字については、表13の※3を参照のこと。

(6) 学生の満足度と短期大学教育への期待、その他

ここでは、フェイスシートで尋ねた、入学時および現在の「満足度」と、質問肢の最後で尋ねた「短期大学教育への期待」を中心に検討する。

1）学生の満足度

ⅰ）入学時と現在の満足度

入学時と現在（2007年、２年生の９月）における満足度を４件法で尋ねた結果が表18である。入学時に「満足」とした者は29.2％で約３割、「どちらかというと満足」の44.7％を足すと73.9％となり、約４分の３が肯定的に答えている。現在の満足度は、「満足」31.8％、「どちらかというと満足」46.5％で、いずれも入学時より２％ほど上昇し、その合計は78.3％であった。入学時においても肯定的率は高いのであるが、それほど明確な上昇は見られない。「満足」だけで見ても、上昇もごくわずかでしかなかった。

現在の満足度は入学時の満足度とつながっているのか、あるいは４大受験の有無や志望順位との関係あるかを確かめるため、現在の満足度とのクロスを行った（表18）。現在と入学時の満足度は関係が大きく、入学時と現在とで同じ評価が多い。少し詳しくみると、入学時に満足度の低かった者が、現在は肯定的な評価を行う比率は高くなっており、例えば入学時に「どちらかというと不満」としていた者では、その６割が評価を上げ、「満足」（21.5％）あるいは「どちらかというと満足」（38.9％）としている。その半面、入学時に「満足」とした者のうち、38.6％が評価を下げているのは気になる点である。入学前の４大受験の有無や志望順位が影響しているとかいうとそうではなく、これらとのクロスでは有意差は認められなかった。

表18. 入学時と現在の満足度のクロス

		合計	現在 満足	どちらかというと満足	どちらかというと不満	不満	入学時の満足度比率
入学時	満足	189	116	59	10	4	189
		100.0	61.4	31.2	5.3	2.1	29.2
	どちらかというと満足	289	56	171	55	7	289
		100.0	19.4	59.2	19.0	2.4	44.7
	どちらかというと不満	144	31	56	48	9	144
		100.0	21.5	38.9	33.3	6.3	22.3
	不満	25	3	15	2	5	25
		100.0	12.0	60.0	8.0	20.0	3.9
現在の満足度		647	206	301	115	25	647
比率		100.0	31.8	46.5	17.8	3.9	100.0

χ二乗検定　　***：ｐ＜.001　　***

ⅱ）学科別に見た満足度

次に学科と満足度の関連を見るため、入学前と現在とでそれぞれクロスしたものが表19である。その結果、学科と入学前の満足度とのクロスの検定で有意差はなかったのだが、現在の満足度とのクロスでは0.1％水準で有意差があった。「満足」との答えは、英語コミュニケーションで53.1％と唯一過半数を超え、入学時と比べると20％以上高くなってい

る。日本語文化と健康スポーツでも40％を超え、このカテゴリーの比率が他よりも高い。これに対しての「満足」との回答が最も低いのは幼児教育で15.7％、さらに人間関係の24.3％が続く。入学時と比べ、幼児教育では10ポイント下がっている。「やや不満」のカテゴリーでは、幼児教育30.7％、食生活25.2％と他より高くなっている。食生活は入学時とそれほど変わらない値であるが、幼児教育では「満足」が10ポイント下落した分、このカテゴリーで12ポイント上昇した。これに対して英語コミュニケーションは20ポイントも減少している。

幼児教育で「満足」が低下し、「やや不満」が増えた原因として考えられるのは、学生の多忙感である。資料５－２で示した、「短大の短所」に関する自由記述からも明らかなように、実習等での忙しさや実習期間と試験期間との関連などの要因が、「不満」との回答を増加させたと思われる。このアンケートを実施時期（９月）も、夏の実習や試験などによる多忙感、疲労感が強かった時期であったことも影響を与えているかもしれない。一方、英語コミュニケーションの学生は、全員が１年次後期にアメリカキャンパスへの留学を経験した後であり、そうした経験がかなり満足度を押し上げたと考えられる。

表19. 学科別に見た満足度（入学時と現在）

	入学時満足度				現在満足度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	満足	やや満足	やや不満	不満
日本語文化	27.5	53.8	15.0	3.8	44.4	43.2	12.3	0.0
英語コミュニケーション	30.9	43.2	22.2	3.7	**53.1**	42.0	2.5	2.5
幼児教育	26.8	51.2	18.1	3.9	*15.7*	49.6	**30.7**	3.9
人間関係	25.7	41.4	24.3	8.6	24.3	54.3	14.3	7.1
健スポ	32.7	36.4	29.1	1.8	41.8	36.4	16.4	5.5
食生活	32.3	42.5	23.6	1.6	27.6	42.5	**25.2**	4.7
生活造形	29.0	40.2	26.2	4.7	29.9	54.2	12.1	3.7

χ二乗検定　***：p＜.001　　ナシ　　***

ⅲ）現在の満足度の規定要因（重回帰分析の結果から）

満足度を、個別の変数とクロスさせてみてきたが、全体としてどの要因が大きな影響を与えているかを確認するため、重回帰分析を行った（表20）。従属変数は「現在の満足度」で、満足を１、不満を４とする４件法で尋ねたもの。満足度が高いほど点数は低くなる。独立変数は「志望順位」、「高校時希望進路」、「入学時満足度」、「入学形態（ダミー）」、「６学科（ダミー）－健康スポーツを除く」[6]、「学生生活７因子の得点」を採用し、これから３つのモデルをつくり、それぞれ分析した。VIF（Variance Inflation Factor）によって多重共線性を確認したところ、学生生活の第一因子においていずれのモデルも5.5前後となり、少し高い値ではあるが、10より小さく、他変数の符号にも影響はないとみられたので、これらのモデルを使用する。

モデル１では、「入学時満足度」と「入学形態」を除く変数が投入された。調整済決定

係数（R^2値）は 0.340 となり、統計的に有意であった。標準化係数が大きい変数は「学生生活安心」因子（－0.314）、続いて「四年制志向」因子（0.219）であり、ともに0.1%水準で有意であった。最も影響が大きかった「学生生活安心」因子は、「入学後親しい友人を得やすい」「クラス担任制は学校生活に慣れるうえで役立つ」「クラスでの丹嶺合宿がよい思い出」「なんとなくホッとできる雰囲気」「同性ばかりなので周りを気にせず自分らしさを出せる」などの項目から構成される。この因子得点が高い者ほど満足度が高くなっている（満足度は数字が低いほど満足の度合いが大きいので、係数はマイナスである）。次に大きな影響を持つ「四年制志向」因子の標準化係数はプラスであり、四年制大学への入学志向が強いほど、不満の度合いが強いことを示している。三番目に大きな影響をもつのは幼児教育（0.183）であった。この場合、符号がプラスになっているということは、幼児教育学科所属の者ほど不満（不満が強いほど得点が高い）との回答が多くなっていることを意味する。他学科では有意差はみられなかった。続いて５％水準で有意となった変数は「女性支援」因子（－0.145）と志望順位（－0.077）の二つであり、符号はともにマイナス、志望順位の重みは、女性支援の半分ほどである。「女性支援」得点が高い学生、

表20.「現在の満足度」を従属変数とした重回帰分析結果

従属変数：満足度	N＝609 モデル１		N＝609 モデル２		N＝608 モデル３	
独立変数	係数 (B)	標準化係数 (β)	係数 (B)	標準化係数 (β)	係数 (B)	標準化係数 (β)
(定数)	1.858	***	1.443	***	1.358	***
志望順位　1：第一，2：第二，3：第三	－.088	－.077＊	－.142	－.125＊＊	－.129	－.113
高校時希望進路　1：大学，2：短大，3：他	.056	.043	.075	.058	.060	.047
入学時満足度　1：満足　～　4：不満			.230	.236＊＊＊	.227	.234＊＊＊
入学形態（ダミー）1：一般，2：推薦					.058	.034
日本語文化(ダミー)1：日文，0：他学科	－.074	－.031	－.074	－.031	－.067	－.028
英語コミュニケーション(ダミー)1：英語，0：他学科	－.129	－.054	－.126	－.053	－.124	－.053
幼児教育(ダミー)1：幼児，0：他学科	.366	.183＊＊	.368	.184＊＊＊	.363	.181＊＊＊
人間関係(ダミー)1：人間，0：他学科	.065	.025	.070	.027	.053	.021
食生活（ダミー）1：食生，0：他学科	.221	.111	.225	.113＊	.232	.117＊
生活造形(ダミー)1：造形，0：他学科	－.013	－.006	－.007	－.003	－.010	－.005
第一因子（学生支援）得点	－.080	－.095	－.074	－.088	－.071	－.085
第二因子（学生生活安心）得点	－.281	－.314＊＊＊	－.248	－.278＊＊＊	－.269	－.303＊＊＊
第三因子（知識獲得）得点	－.094	－.110	－.066	－.077	－.031	－.037
第四因子（女性支援）得点	－.126	－.145＊	－.120	－.138	－.123	－.143＊
第五因子（施設充実）得点	.052	.057	.043	.047	.018	.020
第六因子（クラブ充実）得点	.054	.058	.051	.055	.050	.054
第七因子（四年制大志向）得点	.202	.219＊＊＊	.176	.190＊＊＊	.181	.198＊＊＊
重相関係数(R)		0.597		0.635		0.646
調整済みR^2値		0.340＊＊＊		0.387＊＊＊		0.400＊＊＊

＊＊＊：p＜.001，＊＊：p＜.01，＊：p＜.05

すなわち学生生活の中で女性支援を感じた学生ほど、満足度が高いことを意味する。志望順位については、第一志望から第三志望までを設定し、１～３の整数を割り振っているので、符号がマイナスということは志望順位が高いほど満足度が低いこととなる。二変数のクロスを見ても、χ二乗検定で有意差はないが、志望順位が低い者の方が、「満足」の割合が高い傾向のあることを確認した。標準化係数の値は小さいながら、低い志望順位で入学してきた者の方が、第一志望で入学した者より満足を得たこととなる。

モデル２は、モデル１に「入学時満足度」を投入し、モデル３はさらに「入学形態（推薦・一般）」を加えたものである。モデル２の調整済み決定係数は0.387、モデル３では0.400となり、ある程度の説明力をもつ。「入試形態」の標準化係数は0.034と小さく、ほとんど影響はない。モデル２、モデル３とも、有意差のある独立変数はほぼ同じなので、ここではモデル３を検討する。

モデル１と同様、最も大きな影響を持つのは「学生生活安心」因子で、標準化係数は－0.303であった。これに次ぐのが新たに投入した「入学時満足度」の0.234であり、入学時の満足度は現在の満足度にも大きな影響をもっている。さらに「四年制志向」0.198、「幼児教育」0.181の値が大きく、いずれも0.1％水準で有意となっている。この他、有意差のあった変数を挙げると、標準化係数の大きい順に「女性支援」（－0.143）、「食生活」（0.117）、「志望順位」（－0.113）となる。「食生活」はモデル１では有意差がなかったが、モデル２とモデル３ではともに５％水準で有意となり、符号はマイナスなので、食生活に所属する学生ほど満足との回答が少ない傾向がある。

モデル３の結果から、短期大学２年生の９月時点での満足度に影響を及ぼしているものを、以下のようにまとめることができる。

①変数の中で「学生生活安心」因子が最も大きな影響をもっており、学生生活全般において安心して過ごし、充実を感じている学生ほど満足度が高い。これと比べて程度は下がるものの、大学での「女性支援」を高く評価している者ほど満足度が高いということも明らかになった。

②「入学時の満足度」は、現在の満足度に少なからぬ影響を与えており、入学時の満足度が高いほど、現在の満足度も高くなっている。

③「四年制大学志向」を強く持つ学生ほど、現在の満足度が下がる傾向が強い。

④入学時に「志望順位」が低かった学生が、満足度を上げている。

⑤幼児教育の学生は、現在において不満とする傾向が強く、食生活でもその傾向が認められる。

２）希望進路と短期大学教育への期待

卒業後の希望進路に関する質問を行ったところ、２年生の９月時点でもあり、未定の者

は少なった。最も多いのはやはり「正社員・正職員」であり、68.2％であった（表21上段）。４年制への編入希望は本学が14.7％、他大学は3.7％で合計２割弱（18.4％）、専門学校4.2％、留学0.8％まで加えると23.4％となり、４人に１人が短大卒業後もさらに勉強を続けることを希望していることとなる。その他の割合は極めて低い。

現在、短大から４年制への編入数は、短大学科定員の15～25％ほどであり、編入受け入れが不可能な学科もある。そうした制限を除いた場合、本学４年制への編入希望がどれほどあるのかを知るため、「本学への編入がスムーズであれば」という条件をつけ、編入の希望を３件法で尋ねた（表21中段）。結果は三分され、「希望する」36.1％、「希望しない」30.1％、「どちらとも言えない」33.8％の割合であった。先述のように、フェイスシートで「入学時に編入を希望したか」と尋ねた結果が、「真剣に考えた」24.2％、「少し考えた」33.7％、「考えず」42.1％であったことを参考にすると、希望する者の割合は若干増える計算になる。しかしながら、希望しないとする者も３割以上はおり、編入枠を増やすなどしても、現実には経済面の懸念もあるので、それほど劇的に志願者が増すということはないであろう（本学では他大学からの編入は受け入れていない）。

最後に、「短期大学教育への期待」を尋ねた。10の選択肢をつくり、その中から３つまで選ぶことができる設問である。結果として、太線で囲った二つの選択肢の比率が他を引き離して多かった（表21下段）。一つは「資格・免許等の資格取得の充実」で47.5％、もう一つが「職業指導の充実」の44.4％であり、他の選択肢はすべて30％未満だった。短大教育には、やはり資格と就職への期待が大きいことが伺える。特に就職に関しては、「卒業後の就職支援」という選択肢も22.8％選ばれており、就職への関心は高い。他には学校行事の充実が27.9％、先に取り上げた４大への編入も26.0％で、４分の１ほどの者が期待として挙げている。教育では、専門教育の充実が24.1％と最も多く、教養教育の充実16.8/％、語学教育の充実14.7％であった。

表21　卒業後希望進路、編入希望、短期大学教育への期待

卒後希望進路	正社員	本学編入	他大編入	専門学校	非正規常勤	不定期	留学	未定	その他
648	442	95	24	27	12	9	5	29	5
100.0	68.2	14.7	3.7	4.2	1.9	1.4	0.8	4.5	0.8

	編入がスムーズな場合		
編入希望	編入希望	希望せず	どちらとも言えぬ
612	221	184	207
100.0	36.1	30.1	33.8

上段：人数
下段：％

短大教育への期待	資格等の取得充実	就職指導の充実	学校行事の充実	4大編入の拡大	専門教育の充実	卒後の就職支援	教養教育の充実	語学教育の充実	職員の対応改善	少人数教育
619	294	275	173	161	149	141	104	91	76	73
100.0	47.5	44.4	27.9	26.0	24.1	22.8	16.8	14.7	12.3	11.8

＊「短大教育への期待」については、３つまでの複数回答が可能

（7） 自由記述から

質問項目の中に８つの自由記述欄を設け、学生の率直な意見をできるだけ得ようとした。ここではそのうちの３つを取り上げ、簡単にその内容を述べていく。アンケートに答える時間が十分に取れなかった中で、百数十名の者が回答してくれており、問いの選択肢だけでは十分に拾いきれない学生たちの声を知ることができる。実際の回答については、資料３～５－２として掲載している。

１）短期大学への入学理由

まず、上記（３）で取り上げた「短期大学への入学を決めた理由」についてである。そこで尋ねた質問項目、あるいはその他の理由を含めて短大への入学理由を自由に答えるように求めた（資料３）。113名から回答があり、それをキーワードにすると135ほどに分かれた。以下の記述で、（　）内はおおよその意見数を示す。

学力レベルや４年制大学受験の失敗など「学力・４大失敗」(20）といった理由、学びたい授業・内容や獲得したい専門性などの「学科・希望」(18)、さらには「資格獲得」(9)、「就職有利」(8）などの理由もさることながら、ここでは最も数が多く、どの学科にも見られる「短期・集中」(21）に注目したい。具体的には「２年間で４年制と同じくらいの勉強ができると思ったから」「短大の方が忙しいけど充実した学生生活を送れると思った」「２年間の方が内容の濃い授業が受けられると思った」「早く社会人になりたかった」「短い期間で資格がとれる」などで、２年間で準備ができる短期大学を積極的に選んだとする理由である。「早く社会に出て自立したかった」「２年で済むし、早く働きたかった」など「自立」をキーワードとした意見（10）は、先の「短期・集中」という言葉と一緒に使われることが多く、短大での教育を積極的に捉えている。この他、「経済的な理由」を挙げる意見も少なくなかった（15)。

２）武庫川女子大学短期大学部への入学理由

（４）で取り上げた「他の短期大学ではなく本学の短期大学部に入学を決めた理由」を、自由記述で尋ねたものである（資料４）。この質問には137名の回答があり、そのキーワードの数は約202にのぼった。一番多かった理由は、「有名な大学だから」「よく名前が知られていたから」「有名だし評判がよかった」など、「知名度・伝統」(36）であり、他より断然多かった。先ほどの「短大入学理由」と同様、「授業・学科」(21)、「就職」(16)、「資格」(10）も多い。その他本学である理由としては、「自宅から近い」「通える」など「通学・場所の便利さ」(19)、「施設などが整っていてよい環境だと思った」「施設が充実している」「オープンキャンパスに来た時、めっちゃきれいだった」など「施設・設備」(15）が挙げられ、これらも評価されているようだ。学科の特徴では、英語コミュニ

ケーションではほとんどが「留学」を挙げており、健康スポーツでは「スポーツ」ができる、さらには「教師」からの推薦といった理由が多くを占める。

3）短期大学の長所と短所

アンケート調査の最後に、「４年制大学と比べて、短期大学の長所および短所であると思う点はどのようなことですか」として、学生の自由な意見を書いてもらった。これについては、長所と短所に分けて検討していくこととする。まず長所である（資料５-１）。「短期間」であることを理由として指摘する意見が圧倒的に多かった。具体的には「短期間でいろんなことが学べる」「早く（２年で）自立できる（社会に出られる、就職できる、資格が得られる、卒業できるなど)」「短期間で集中的に学べる」などの意見であり、学科を問わず見られた。４年制に比べ、その半分の２年という短期間で資格や免許をとり、社会に出る準備ができることを最大のメリットと捉えている。その他のキーワードは分散しているのであるが、「資格」の取得（幼児教育に多い）や「就職」、「社会」に出るなど、「短期間」でできる内容に関するものが多い。「社会」という言葉も多く使われており、「就職」同様、早く一人前となり自立したいとの意志が背後にあるように思われる。さらには、「経済的負担の軽減」をメリットとして挙げた者も、多くはないがあった。

短所はどうか（資料５-２）。これについては意見にバラツキがあり、学科による差もあるようだ。どの学科にも共通して見られるのは、「短期間」ということである。具体的には、「短すぎて時間が足りない」「就活までの期間が短い」「短期間でやることが多い」「学べる期間が少ない」「遊ぶ時間が少ない」などといった理由が書かれていた。長所としても「短期間」での資格取得や早く就職できるなどが多く挙げられていたが、当時就職活動中で、１年生の終わりから準備にかかり、半年後に就職を控えた２年生９月時点での実感であろう。さらに「短期間」とも関わる「就職」に関する準備不足や、「４年制に比べ就職できる企業が限られる」「４大卒の求人が多い」など短大に対する「求人枠」狭さの指摘もみられた。またどの学科にもあるものの、特に幼児教育と食生活での比率が高いキーワードは「詰め込み」「多忙」である。「授業が詰まり過ぎてしんどくなる」「スケジュールが詰まり過ぎて就活ができない」「できないまま時間が過ぎることも多い」、あるいは「授業が詰め込まれている」「時間割が大変だった」などの言葉が並んでいる。できるだけ資格を取得したいが、そのための授業や実習が多く入り、実習が入った分、授業の補講が必要となり、夏休みや春休みも少なくなる。そうした中で、就職活動もしなければならない。これは武庫川女子大学短期大学部だけの問題ではないが、２年間という間での取得すべき単位や実習の多さ、就職活動の長期化は、多忙感、追い立てられている感覚を学生にもたらせている。

Ⅳ．企業アンケートと高校生アンケートの結果

先にⅢでも述べたように、本研究は調査会社に委託し、企業と高校生を対象とするアンケート調査を行った。対象は以下のように設定した。企業アンケートでは、近年において本学短大生が複数就職した会社および幼稚園・保育所の人事担当者（幼・保は園長）とした。高校アンケートでは、近畿圏内に限定し、武庫川女子大学短期大学部に卒業生を送り込んでいる高校の３年生女子および、調査会社が独自に持っている高校３年生女子のモニターとした。

調査期間及び調査方法、回収率は以下の通りである。

・企業アンケート調査

方法：郵送法、 発送数：346、 有効回答数：167、 有効回答率：48.3%

（回答のあった167のうち、幼稚園・保育所は66で、39.5%を占める）

期間：2007年７月19日～８月10日

・高校アンケート調査１（本学短大に卒業生が入学している高校の高校生）

方法：郵送留置法、 発送数：880部（21校）、 有効回答数：678、

有効回答率：77.0%

期間：2007年８月24日～９月21日（アンケート実施前の７月、高校に調査協力依頼）

・高校アンケート調査２（近畿圏に住む高校生・調査会社のモニター）

方法：郵送法、 発送数：96、 有効回答：55、 有効回答率：57.3%

期間：2007年７月19日～８月10日

上に示した企業と高校を対象とする調査結果は既にまとめられているが（教育研究所2007a）、本節ではその中から短期大学に関わる質問内容の一部について、ごく簡単に紹介していく。

１．企業アンケート

アンケートでは、企業の属性や採用学生の出身学科や人数の他、主として以下のような内容の質問をした。①女性の採用基準として、人柄以外に重視している項目、②今後の求人募集の予想（短大・４大別に）、③入社後に女性の４大卒と短大卒で職種や仕事内容を区別しているか、④女性の４大卒と短大卒の職務遂行能力に差があると思うか、⑤女性の４大卒と短大卒を比べたときの違い（21項目、５件法）、⑥今後の短大の教育内容に期待すること（11項目、４件法）、⑦武庫川女子大学短期大学部卒業生に対する評価（20項目、５件法）、⑧本学短大卒業生の特長、長所、短所（自由記述）、⑨本学短大の教育内容・学生指導についての要望（自由記述）

ここでは①、⑥、⑦のみを取り上げ、簡略にその結果を示す。⑧の自由記述、「本学短

大卒業生の特長、長所・短所」については、論文末の資料６に示している[7)]。

（１） 女性の採用基準

女性を採用する際の採用基準を尋ねる設問で、人柄の他に重視することは何かを、12項目（「その他」含む）の選択肢から複数回答（３つまで）で答えてもらう設問である。上位３つの選択比率が飛び抜けて高く、全体では**「意欲・バイタリティ」74.3%**、**「一般常識」67.1%**、**「コミュニケーション能力」64.7%**の順となる。幼稚園・保育所だけに限ってみれば、その割合はそれぞれ57.6%、69.7%、37.9%となり、「バイタリティ・意欲」と「コミュニケーション能力」は企業よりも低い数字となっている。

他の項目はすべて30％以下で、**「資格・免許」26.3%**、**「専門分野の知識・技能」21.0%**、**「社会経験（アルバイトやインターンシップ）」13.8%**と続き、さらに「学生時代の成績」8.4%、「文章力」6.0%、「語学力」0.6%となる。しかし、これらの項目が重要でないというのではなく、回答数を３つまでと限定したことで、最も重視されるべき項目に集中した結果である。「資格・免許」と「専門分野の知識・技能」については幼稚園・保育所の選択率が高く、それぞれ54.5%、42.4%であった。

まとめると、以下のようになる。**「一般常識」は企業、幼・保ともに重視**されている。**企業のみ（幼・保を除く）では「意欲やバイタリティ」と「コミュニケーション能力」を重視する率が80%以上**と非常に高い。**幼稚園・保育所では、「一般常識」に次いで「意欲・バイタリティ」57.6%**、さらに**「資格免許」54.5%**、**「専門分野の知識・技術」42.4%**の順となった。

（２） 短期大学教育の内容への要望

短期大学卒業生を採用するに当たり、「今後の短期大学教育の内容としてどのようなことを要望するか」を尋ねた。内容として11項目を挙げ、４件法（要望する、ある程度要望する、あまり要望しない、要望しない）で回答を求めた。ここでは「要望する」との回答比率のみに着目していく（百分率には、無回答も含まれているが、いずれの項目も５％未満とごく僅かである）。

多いのは、**「社会人としての一般常識」63.5%**、**「規律やマナーなどの学生指導の充実」61.7%**、**「人間性や倫理意識」59.3%**が上位の３つで、それ以下の項目とは10ポイント以上の差がある。第二グループは**「キャリア教育の充実」37.1%**、**「文章力などの基礎学力」36.5%**、**「心身の健康についての教育」34.1%**であった。さらに９ポイントの差があって、**「専門知識・技術の充実」25.7%**、**「教養教育の充実」25.1%**、**「女性としての教育の充実」25.1%**、**「IT 教育の充実」21.0%**が続く。**「英語など語学力の充実」は6.0%**と最も低い。

先の（1）の結果と同じく、「一般常識」を筆頭に、「マナー」や「倫理意識」といった項目が上位を占め、謂わば人間としての基礎・基本が最も求められていると言える。とはいえ、これらは家庭や学校、社会における成長過程で徐々に身につけられるものでもあり、短期大学だけで獲得させることは難しい。こうした要望が強いということは、逆に言えば、これらの基礎力が身についていないと考える人事担当者が多いということでもある。短大のみならず、大学にとっても大きな、難しい課題であり、大学教育ばかりでなく家庭との連携も視野に入れる必要がある。

「キャリア教育」「文章力など基礎学力」は30％以上、「専門知識・技術」「教養教育」「IT 教育」などは20％以上あり、これらは大学で身につけることが目的とされる知識や技能であるが、**一般常識やマナーよりもかなり低い数字となった。人間としての基礎・基本があり、その上に知識や技能が求められる**ということであろう。**「心身の健康についての教育」も34.7％**あるが、これは食事や睡眠、感情などをうまく自らコントロールできる力と見ることができ、一般常識や規律・マナーに近いものと位置づけることができるのではないか。

幼・保と企業の違いは、いくつかの項目で認められる。**幼・保で「専門知識・技能」とした割合が48.5％となって、全体での数値の２倍近い数字であり、「文章力などの基礎学力」も48.5％で、やはり全体の1.5倍**となっている。幼・保を除いた企業のみの数字と比べれば、その差はさらに大きくなる。幼・保の「一般常識」の選択率は72.7％で、職種別で見ても最も高い数字であった。

ここで見てきたのは、あくまでも就職先の企業（幼・保含む）からの要望である。そうした要望は重要ではあるが、高等教育機関として、あるいは武庫川女子大学として身につけてもらいたいものは必要であり、そのバランスをうまく取らなければならない。

（3） 本学短期大学部卒業生の評価

近年就職した短期大学部卒業生について、忌憚のない評価を得るため、20項目を示し、５件法（優れている、やや優れている、どちらでもない、やや劣っている、劣っている）で問うた。先の（1）、（2）で検討した「採用基準」や「教育内容への要望」で尋ねた項目を含めて尋ね、本学の卒業生がどれほど期待に応えているかを問うものである（ここでも百分率に無回答を含めているが、いずれの項目も８％～６％である）。

「優れている」との回答は、全ての項目で25％以下と低かったので、ここではこれに「やや優れている」の％を加えた数字を目安として見ていく。参考として、（　）内には「優れている」のみの％も示した。**一番評価が高かった項目は「明るさ」67.1（24.0）％、続いて「仕事への真摯な取り組み」66.5（23.4）％、「協調性」64.7（22.2）％**であり、（　）内に示した「優れている」の数字でも、この３項目のみ20％以上であった。これら

が、本学短大卒業生に対して高く評価されている項目である。さらに、「マナー」60.5（12.6%）、「身だしなみ」60.5（13.2）%、「仕事への向上心」57.5（14.4）%、「周りへの配慮」50.3（12.0）%と続く。

先に（1）の「採用基準」で多かった答えは、「意欲・バイタリティ」「一般常識」「コミュニケーション能力」であった。これらの項目の評価を見ると、「意欲・バイタリティ」は49.1（11.4）%、「一般常識」43.1（6.0）%、「コミュニケーション能力」47.3（12.0）%と、それほど高い数字ではない。特に「一般常識」の評価は43.1%ではあるが、「優れている」とする評価に限ると6%に過ぎない。「基礎学力」44.9（6.6）%、「専門的知識・技能」33.5（4.2）%、「論理的思考」31.7（5.4）%、「IT操作能力」22.8（2.4）%、「リーダーシップ」22.8（3.0）%などは、大学で身につけることを期待される項目であるが、これらの数字をどう読むかは難しいところである。「優れている」との評価だけ見れば、非常に厳しい評価である。

幼・保と企業の差を見ると、「専門的知識・技術」において幼・保は45.5（7.6）%となり、全体の数字よりも12ポイント高くなっている。他の項目ではそれほど差異はない。

2．高校生アンケート

高校生調査1）と2）のサンプルに重複はなく、これらをまとめて分析している。サンプルは近畿圏内（主に兵庫と大阪）の高校3年生で、進学を希望している女子生徒である。

この調査では、①進学目的、②進学先選びで重視すること、③進学希望の学問系統、④取得したい資格・免許、⑤高校卒業後の進路希望、⑥短期大学進学希望の理由（短期大学進学希望者のみ）、⑦短期大学を希望しない理由（短期大学への進学を希望しない者のみ）、⑧武庫川女子大学および短期大学部のイメージ、を尋ねた。本節では、⑥、⑦、⑧のみを取り上げる。

（1） 短期大学進学希望の理由

「短期大学を希望する理由はどのようなことですか」との問いに対して16項目を設け、4件法（あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない）で答えを求めた。この質問では、本学の短期大学生アンケートで同じ理由を尋ねた質問（5件法）と共通する項目を多く採用している。これに答えた高校生サンプルは、4年制との併願を含めて短期大学進学を希望する者に限定した242名で、内訳は「短期大学のみ志望」61名、「大学との併願」121名、「専門学校との併願」34名である。なお、この質問では無回答率が約25%あるため、無回答を除いた回答者を分母とした百分率を使用する。

「あてはまる」と答えた者の%を見ていくと、「2年間で取得したい資格や免許を取れ

る」が42.8％と最も多く、他と15ポイント以上の差がある。次に、「できるだけ早く働きたい」26.6％、「４年間学ぶより２年で集中的に学びたい」26.3％、「学費などの面で４年制進学が難しい」24.0％といった項目が続く。短期大学生への調査でも、一番多かった答えは「短い期間で希望する資格や免許を取得できる」であり、高校生調査の結果と一致している（表12参照）。「早く社会に出たかった」も同様に、短大生調査でも非常に比率の高い項目であった。「４年間学ぶより２年間で集中的に」との質問は短大生調査にないが、「２年間で資格や免許取得」「早く社会に出たい」の意味に近いのではないか。「学費の面で４年制進学は難しい」については、短大生調査と選択肢が異なるので比較は困難だが、「あてはまる」とする比率は高校生調査の方が大きいようだ。

続いて高校生調査で比率の高い項目は、「自分の学力では４年制に進学が難しい」18.4％、「学びたい学科が短大にしかない」17.5％、「専門学校より社会的評価が高そう」14.8％、「推薦入学など４年制より入学が簡単そう」12.7％などの項目が続く。それ以外の項目は全て10％未満となる。

このように見てくると短大進学理由は大きく二分される。一つは「２年間で資格や免許」「２年間で集中的に」「早く社会に出たい」のように、短期高等教育を肯定的に捉え、それを利用しようとする積極的な選択であり、もう一つは「自分の学力」「専門学校より社会的評価」「推薦入学など入学が簡単そう」といった消極的な選択である。

上の問いに続き、「短期大学卒業後に４年制大学へ編入したいと思うか」を、３件法（編入学したい、したくない、わからない）で尋ねたところ、「編入学したい」との回答は19.6％（無回答を除く）であった。本学短大生調査の場合、受験時に編入学を「真剣に考えた」「少し考えた」「考えなかった」で尋ねたのだが、「真剣に考えた」とする者の割合は24.2％であった。少なくとも、２割前後にそうした希望はある。

さらに重ねて、「奨学金などの充実により学費や生活費の負担が解消されたと仮定して、希望進路を変えるか」を尋ねると、「４年制大学を希望する」へと進路を変えた者が18.2％、「短大希望で進路を変えない」者が53.6％、「どちらともいえない・わからない」28.2％となった。短大への進学希望を変えない者が過半数おり、明確に４年制大学への進学に乗り換える者は２割弱と少ない。

（２） 短大進学を希望しない理由

この調査では、短期大学進学を希望しない者、すなわち４年制進学希望者、専門学校進学希望者にもアンケートを行っているので、彼女たちが短期大学への進学を希望しない理由も尋ねている。対象は491名で、このうち４年制大学のみの志願者が317名と、全体の約65％を占める。「短期大学を希望しない理由はどのようなことですか」と質問し、13項目について４件法（あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらな

い）で答えを求めた。この質問では無回答が15％前後あるので、これを除いた回答者のみを対象とし、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計比率を見ていく（「あてはまる」のみの比率は（　）内に示した）。

「希望する専攻分野がない」53.3（34.4）％、「取得したい資格が取れない」47.8（32.0）％の二つが多い。「あてはまる」だけに限定すると、比率は他と比べ15ポイント以上の差となる。これらは短大にはないもの、短大では取得できないものであり、至極当然の答えである。その他、割合の高い項目を順に拾うと、**「専門知識・技術が身に付きにくい」42.8（17.0）％、「短大卒では専門教育や学歴でも中途半端」37.2（13.6）％、「短大卒では就職に弱い」35.7（13.7）％、「親や周りが短大への進学を勧めない」35.5（15.5）％、「女子ばかりのイメージがある」30.0（12.7）％**となる。答えは同じような率で分散しているものの、本音に近い理由が出ているように思える。「専門知識・技術が身につきにくい」「就職に弱い」「専門教育や学歴が中途半端」と、短大を否定的に捉える見方が並ぶ。また、「親や周りが勧めない」の割合が35.5％で、少なくない数字となっているのも目を引く。親を含めた周りの意識が少なからず変化しているようだ。さらに、「女子ばかりのイメージ」が希望しない理由として挙げられることは、共学校を望んでいるとも取れる。この他の項目の比率は30％未満となる。

（3）　武庫川女子大学・短期大学のイメージ

調査対象の高校３年生女子は、兵庫県が約７割、大阪府を含めると９割となる。本学に卒業生が入学している高校の在学生であり、ほとんどの回答者が本学の名前くらいは知っていると思われる。そこで、**「次の項目について、武庫川女子大学および短期大学部のイメージとしてあてはまるものはどれですか」**として23項目を設け、あてはまるものにすべてに○を付けてもらった。本学短期大学部に対するイメージではなく、４年制を含む武庫川女子大学全体に関するイメージである。対象者は733名、無回答の割合が46.4％と半分近かったが、これも事実であるので、無回答340名を含んだ733名を母数とする比率で見ていく。

本学に対して持つイメージで最も多いものは、**「キャンパスがきれい」26.7％**であった。キャンパスガイドやパンフレット、インターネットを通じて、あるいは調査時期が８月末から９月なのでオープンキャンパス参加を通じて知った者もあろうが、外見的な印象が最も強く働いている。続いて**「学部・学科の種類が豊富」が17.9％**となっており、理系から文系、芸術系まで、あるいは教養系学科から実務系学科まで幅広い、総合的な大学であることが認識されている。**「女性のための教育が充実」15.7％、「施設・設備が充実」13.8％**がこれらに続く。「女性のための教育が充実」という項目がなぜ選ばれたのかは不明であるが、女子大学であることも関係していると推測できる。あるいはキャンパスガイ

ドやHPでのアピール文言が印象に残っているのかもしれない。いずれにしろ、こうしたメッセージがある程度伝わっていることが確認できる。「施設・設備の充実」も、マルチメディア館や図書館、フォートライトキャンパスの充実など、本学が力を入れているものの一つである。この他、「在学生の雰囲気、校風がよい」11.1%、「歴史・伝統がある」「就職状況・就職先がよい」がいずれも10.8%であり、こうした印象も比較的もたれているようだ。

各種媒体を通じて教育内容の充実についても発信しているのであるが、「IT教育が充実」「実習が充実」「少人数教育が充実」「語学教育が充実」といった教育内容に関する項目の選択比率は5%以下にとどまっている。生徒たちはこうした事柄への関心が乏しいのか、あるいは本学への入学を本格的に検討し始めてから詳しく調べるのかもしれない。こうした内容はインパクトをもって伝えられにくい内容であるとも言えようか。本学が力を入れてアピールしている「資格や免許取得に有利」も7.8%にとどまっている。

兵庫県と大阪府を中心とする女子高校生が対象であるとはいえ、国公私立大学、共学大学など数ある大学の中の一大学の印象を尋ねたのであり、情報の選択権は高校生側にあるのだから、それほど高い認知度は期待できない。そうした中で、ある程度の認知度があるとは言えよう。ただ、もっとアピールしたくとも伝わっていない項目もあるので、伝達の仕方にはさらなる工夫が必要であろう。

Ⅴ．まとめに代えて

1．日本における短期大学の位置づけ

短期大学を取り巻く状況は厳しい。女子の短期大学への進学率が停滞し、4年制への進学率が伸びるようになった頃から、その将来を見据えて調査がされ、今後の短期大学のあり方について研究がなされ、議論がなされてきた[8)]。最もよく引用される提案は、現状にアメリカのコミュニティ・カレッジなどを参考にして、短期大学を高等教育の「ファーストステージ」として位置づけ、それをステップとして多様な選択肢につなげる、あるいは生涯学習、リカレント教育の拠点として位置づけようとする舘ら（1998、2002など）のものであり、大いに参考となる情報が提示され、議論がなされている。しかしながら、日本とアメリカ、あるいは他の諸外国との高等教育を取り巻く現状や歴史は大きく異なる。例えば、アメリカでは私立の2年制短期大学も多いものの（721校 -2010年、 NCES)、公立のコミュニティ・カレッジの数はそれを上回り（1163校、公立のみだと993校 -2011年統計、 AACC)、州によって独自のシステムをもつ場合も多い。納税者が高等教育にアクセスし、学習する機会を保障する機関として、公立のコミュニティ・カレッジが設けられているのである。日本の短期大学は私立がほとんどを占め（全387校中、私立は363校で、全

体の93.8％ -2011年、文部科学省)、授業料も高く、専攻も偏っている。日本には短期大学以外の高等教育機関として、専門学校や専修学校などが多くある。これらは職業準備の教育機関であり、ほとんどが私立である。教養や趣味を習う場としては、カルチャーセンターや各種教室などが発達している。また、アメリカでは大学への編入学を準備する場として、あるいは補習の場として短期大学が機能することも多いが、日本では大学間の移動は制限されており、編入学の規模も小さい。特に短期大学を経由して威信の高い大学に入ることは極めて稀である。こうした歴史的経過を含めた様々な違いを踏まえて議論しないと、どんな優れた構想も絵空事になってしまう。アメリカのようなシステムにしようとするならば、国が主体となって極めてドラスティックな変革が必要となり、時間もかかる。そうした議論がされている間にも、短期大学は急速に減少し、その定員充足率が低下していったのは、「Ⅰ 短期大学の動向」でみた通りである。広い視野を持った将来構想が大切なことは当然であるが、もう一方では、各大学が現状を分析し、現実的な視点からできうる改善に取り組み、対応していく努力が求められている。

2．本学の取り組み

本報告では、そうした改善への取り組みの一環として行った、本学短期大学生へのアンケート調査を中心とする調査研究の結果を示してきた。都市部に位置し、伝統もあり、4年制大学と併設されている本学の短期大学部は、他の短期大学から見ればまだ余裕があるように見えるであろうが、とても楽観視できるものではない。むしろ厳しいとの状況認識があったからこそ、2007年に本学短期大学調査を行うこととなったのである。なぜ4年制ではなく短期大学に進学するのか、何を求めて短期大学に進学するのか、なぜ本学の短期大学部なのか、その魅力はどのようなことなのか、本学短期大学部での学生生活はどのようなものだったのか、どのような点に満足し、何を不満と思っているのか。学生へのアンケートを通じて、こうした様々な点について現状を把握し、そうした事実をもとにして様々なレベルでの改善策を提言し、短期大学部の改革を図っていこうとしたのである。

はじめに述べた通り、アンケート調査結果は2007年11月、理事会にて報告され、12月には短期大学改善案をまとめて提出した。これを受けて短期大学改革委員会が設けられ、学科長他の委員が任命されて議論するとともに、各学科、他の各種委員会等で短期大学改善のための話し合いがもたれた。そうして、可能なものから改革・改善が行われており、現在も進行中である。本学のように4年制大学と短期大学が併設されている場合、2年間と在学期間が短く、入学志願者や定員が減少している短期大学への関心が薄れやすく、その一方で、定員も大きくなり、主体となってきた4年制大学への関心が強まる傾向にあるのではないか。そうした中で、本調査の実行とその報告は、短期大学の存立意義を見直し、現状を直視する機会になったのではないかと考える。

現在、議論がなされ、進行中の改革も多く、その改革の全体構造を示すことはできないが、いくつかの具体例を示すことは可能である。例えば、本学短大のメリットの一つは4年制への編入枠をもつことなので、その編入枠の拡大や手続きのあり方を含め、議論がなされている。広報についても、結果として4年制大学中心のパンフレット（キャンパスガイド）となっていたとの反省から、短大の魅力を4年制と同等にアピールするなどの改善がなされている。アンケートの中で出てきた不満点に関しても、できるところから改善を行い、不満が出にくい仕組み、サポート体制を取るような努力が各学科で進行中である。今日、同じアンケートをとれば、少し違った結果になるかと思われる。さらには、短期大学学生にゼミのような学習機会をつくる試みなども始まっている。本学のもつメリット、リソースを自覚し、様々な取り組みが展開されていくことを期待している。

3．今後に向けて

「早く社会に出たい」「2年間で集中的に学びたい」と思い、短期大学への入学を希望する学生たちは確実にいる。あるいは十分に学力はあっても短期大学に進学せざるを得ない学生もいる。様々な事情を抱えた学生たちが短期大学には在籍しているのである。企業や幼稚園・保育所での採用も、4年制大学卒一辺倒になっているわけでは決してなく、力のある学生であれば就労年限も長い短期大学卒業生を雇用しようとする意欲はある。しかしながら、そうした現実よりも、これからは「進学するなら4年制大学」という意識が、学生だけでなく、親や教師にも植えつけられてしまっているのかもしれない。

高等教育の多様性を担保するものとして、高等教育のファーストステップとして短期大学は重要である。完結する教育だけではなく、各種機関とさらに連携する、あるいは18歳人口が減少する中で大人の学習者を受け皿とする生涯学習やリカレント教育の場としての可能性を十分にもっている。しかし、そうした実現のためには授業内容や授業料をどうするか、どれだけ公的補助を提供できるか、他大学への編入を拡充できるかなど、現実には様々な課題と問題が横たわる。本報告は本学の学生を中心とする調査の分析であったが、ここで取り上げたような足元にある具体的な課題を直視して、その対応を考えることがまずは肝要である。しかしそればかりではなく、将来に向けたより大きな構想・見取り図を全国レベルで考えながら、より多角的に短期大学について考えていく必要がある。

注

1）例えば、日本私立学校振興・共済事業団は、2006（平成18）年度の文部科学省委託研究報告として『大学経営強化の事例集』（2007）を出版している。これは国公私立大学、短期大学すべてを対象とするものであるが、大学設置基準の緩和などで大学経営環境が厳しくなる中、経営基盤強化の取り組みを行い、成功した事例を取り上げて紹介

し、各大学の自主的な取り組みを促すとともに、支援しようとするものである。短期大学では、目白大学・短期大学、修紅短期大学、高崎商科大学短期大学部、金城大学・短期大学部、聖和学園短期大学、北海道武蔵女子短期大学、名古屋柳城短期大学が取り上げられている。

また、文部科学省は2003（平成15）、2004（平成16）年度より、大学や短期大学を対象に優れた教育改革の取組を選び、それを支援するとともに、そうした取組についての情報を広く情報提供しようとしてきた。いわゆるGP（Good Practice）プログラムである。「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」、「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」などが行われてきた。その中に、短期大学の取組も多く紹介されている。その内容については、文部科学省の「GPポータル」サイト（http://gp-portal.jp/src/ippan/home.cfm）、あるいは、財団法人文教協会のHPにも開設されている（http://www.bunkyokyokai.or.jp/gp/view.cgi）。

2）短期大学の定員充足率は、学科系統によって少なからず異なる。調査時の2007年と2011年の充足率を比べてみる（私学経営情報センター 2011）。全国の合計では、2007年91.0％、2011年には89.6％であった。過去5年で、最も定員充足率が高い学科系統は保健系であり、2007年に95.2％、2011年には101.7％となっている。幼児教育などの教育系は、2007年－97.3％、2011年－99.7％で他と比べて高い数字を維持している。とはいえ、2009年のみ84.3％と全国での平均を下回った。ちなみに、短期大学に多い家政系では、2007年－85.6％、2011年－84.8％という数字である。

3）1996年度を基準に比較を行うつもりでいたが、18歳人口の増加に伴い、1992（平成4）年から1999（平成11）年までの7年間の予定で、短期大学でも臨時定員増が認められたという事情があったため、急きょ1991年の定員を入れることとした。そのため、表3と表4に1991年度の「共学有無」がなく、いびつな形になった。「共学有無」については、1991年度においては、兵庫県、大阪府とも1996年度と同じだと思われる。表3の近畿大学豊岡短期大学は、1989年に共学されている。

4）藍野学院も4年制大学を創設したのであるが、短期大学の定員も増加させた点で例外的である。この大学は、看護・医療に特化した大学・短大であり、看護系学部・学科の人気が続く中で、2007（平成19）年には短大に第二看護学科を設置するなど、定員の拡大を図っている。

5）「短期大学への入学理由」、「武庫川女子大学短期大学部への入学理由」「短期大学の長所と短所」については、それぞれ自由記述欄を設けて学生の意見を尋ねている。意見をすべて書き出し、それらにキーワードをつけてまとめ、一覧表にしたものが資料3～資料5－2である。自由記述欄の整理とキーワード付けについては、2007年度当時、教育

研究所の助手であった藤村真理子さんと藤原綾子さんが主として行い、安東が修正をした。前二者については、概数であるが、表中にキーワード数も示している。

6）7学科すべてをダミー（0、1）で投入すると、多重共線性の問題が出てくる。そこで、いくつかの組み合わせを実施した中、標準化係数が最も小さかった健康スポーツを除くこととした。

7）企業アンケートから得られた卒業生に対する意見を書き出し、キーワードを付けてまとめたものが資料6-1～6-3である。このキーワードの抽出と表の作成は、教育研究所助手の末吉ちあきさんに行ってもらい、教育研究所長の友田と安東も加わり検討をした。社会人となった本学短大卒業生を身近でよく見ている企業や幼稚園・保育所の担当者からの貴重な意見なので、整理して掲載することとした。

8）短期大学については、いくつかの重要な調査研究がなされている。大きなインパクトを与えた研究として、高島・舘編の『短大ファーストステージ論』（1998）がある。これは平成6（1994）年に設立された短期大学基準協会の「調査研究委員会」を中心に行われた諸研究をまとめたものである。短期大学への進学率がピークを過ぎ、4年制への女子進学率が上昇していく中、「短期大学の衰退」が言われ始めていたころ、また高等教育の構造転換が議論される中で、アメリカなどの前期高等教育を参考にしながら、短期大学を高等教育の「ファーストステージ」として位置づけ、様々な可能性をもつことを教育機関としての在り方を提示した。短期大学基準協会ではその後も研究を継続して行い、2000年に出された報告書『先進5カ国における短期高等教育の現状と動向の調査研究』では、イギリス、アメリカ、カナダ、ドイツ、フランスの短期高等教育が調査され、その動向や特質についてまとめられている。この成果は、舘編『短大からコミュニティ・カレッジへ』（2002）として出版され、日本における今後の短期大学の在り方に対する示唆を与えている。さらに2005年には、短大ファーストステージ論を土台として、9短期大学の卒業生を対象とした調査を行い、『短大卒業生の進路・キャリア形成と短大評価調査研究報告書』をまとめた。そこでは短大卒業生の社会における活躍の実態と、短期大学教育への評価を明らかにし、今後の短大教育発展の方向を探っている。

引用・参考文献

安東由則　2009、「『女子大学』に関する意見の因子分析：女子大学生への調査と他大学調査との比較」『研究レポート』（武庫川女子大学教育研究所）39号、pp.1-29.

学習研究社　2010、『2011年度用短大受験案内』学習研究社

原書房　2005、2010、『全国学校総覧　（2006年度版・2011年版）』原書房

日本私立学校振興・共済事業団　2007、『大学経営強化の事例集』日本私立学校振興・共済事業団

武庫川女子大学教育研究所　2007a、『武庫川女子大学「短期大学に関する調査」結果報告書＜企業編・高校編＞』武庫川女子大学教育研究所（進研アドへの調査委託研究）
武庫川女子大学教育研究所（研究代表：友田泰正・安東由則）　2007b、『女子大学の存立意義に関する調査研究報告書』武庫川女子大学教育研究所
晶文社　1991、1996、2000、『全国短期大学受験案内（'92年度用、'97年度用、'01年度用）』晶文社
高島正夫・舘昭編　1998、『短大ファーストステージ論』東信堂
短期大学基準協会調査研究委員会（代表：高島正夫）　2000、『先進５カ国における短期高等教育の現状と動向の調査研究報告書』短期大学基準協会
短期大学基準協会調査研究委員会（編集：吉本圭一）　2005、『短大卒業生の進路・キャリア形成と短大評価』短期大学基準協会
舘昭編　2002、『短大からコミュニティ・カレッジへ』東信堂

＜ネット資料＞
American Association of Community Colleges（AACC）H.P.（http://www.aacc.nche.edu/AboutCC/Documents/FactSheet2011.pdf　2012月１月20日アクセス）
文部科学省『学校基本調査』文部科学省 HP（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm　2011年11月～2012年１月アクセス）及び、統計センター「政府統計の総合窓口」HP（http://www.e-stat.go.jp/　2011年11月～2012年１月アクセス）
文部科学省 「GP ポータル」サイト（http://gp-portal.jp/src/ippan/home.cfm　2012年１月）
National Center for Education Statistics（NCES）H.P.（http://nces.ed.gov/programs/digest/d10/tables/dt10_275.asp　2012月１月20日アクセス）
私学経営情報センター（日本私立学校振興・共済事業団）　2011、『平成23（2011）年度私立大学・短期大学等入学志願動向』日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター（http://www.shigaku.go.jp/files/nyuugakushigan_2011.pdf）
文教協会 「大学教育改革プログラム選定取組一覧」（http://www.bunkyokyokai.or.jp/gp/view.cgi　2012年１月アクセス）
各短期大学（表３、表４に掲載した兵庫県および大阪府）のホームページ（2011年12月～2012年１月にアクセス）…大学数が多いので、アドレスについては省略する。

資　料

資料１　武庫川女子大学短期大学部２年次生用調査票（2007年９月実施）

資料２　学生調査における三つの因子分析結果
（短期大学入学理由、武庫川女子大短期大学部入学理由、学生生活）

資料３　学生調査・自由記述１：短期大学入学理由

資料４　学生調査・自由記述２：武庫川女子大学短期大学部入学理由

資料５－１　学生調査・自由記述３：短期大学長所

資料５－２　学生調査・自由記述４：短期大学短所

資料６－１　企業調査・自由記述１：本学短大卒業生の長所（図あり）

資料６－２　企業調査・自由記述２：本学短大卒業生の短所

資料６－３　企業調査・自由記述３：本学短大卒業生の特長

資料１　武庫川女子大学短期大学部２年次生用調査票（2007年９月実施）

以下のⅠ～Ⅵの問いについて、あなたがあてはまると思う番号に○をつけ、自由記述欄には率直な意見をお書き下さい。

Ⅰ．最初に、あなた自身についてうかがいます。当てはまる番号に○を付けて下さい。

1　あなたが所属している学科は次のどれですか。

１．日本語文化学科　２．英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科　３．幼児教育学科　４．人間関係学科

５．健康・スポーツ学科　６．食生活学科　７．生活造形学科

2　あなたの自宅（実家）がある地域は次のうちどれですか。

１．兵庫　２．大阪　３．１、２以外の近畿地方（三重県含む）　４．中国・四国地方

５．九州・沖縄地方　６．中部地方　７．その他（　　）

3　あなたの出身（実家のある）市町村の規模はどのくらいですか。

１．100万人以上の大都市　２．１以外の阪神間の都市（芦屋・西宮・尼崎・宝塚・伊丹・川西）　３．30万以上、100万人未満の都市

４．10万以上、30万人未満の都市　５．10万人未満の都市　６．町・村

（※「２」に該当する方は、「３」「４」「５」を選択せず、「２」を優先させて下さい。）

4　あなたは現在、次のどこから通学をしていますか。

１．自宅　２．親戚の家　３．アパート・マンション　４．下宿

５．本学の学生寮　６．民間の学生寮　７．その他（

5　あなたの出身高校の設置主体（者）は次のうちどれですか。

１．私立　２．公立（都道府県立・市立）　３．国立

6　あなたの出身高校は共学でしたか、女子校でしたか。

１．女子校（本学附属）　２．女子校（本学附属以外）　３．共学校　４．共学だが男女別学（女子クラス）

7　高等学校であなたが卒業したのは次のどれですか。

１．普通科　２．専門学科　３．総合学科　４．その他（大学検定や通信制、定時制の場合はここに○をして下さい）

Ⅱ．あなたの大学受験について尋ねます。当てはまる番号に○を付けて下さい。

1　あなたの武庫川女子大学短期大学部への入学形態は、次のどれでしたか。

１．一般入試（ｾﾝﾀｰ試験除く）　２．センター試験入試　３．内部推薦（附属高校）　４．公募制推薦入試

５．自己推薦入試　６．指定校推薦入試　７．スポーツ推薦入試　８．その他（

2　高校卒業後、あなたが最も望んだ進路は次のどれでしたか。

１．４年制大学進学　２．短期大学進学　３．専門学校進学　４．その他（　　）　５．特になし

3　あなたは４年制大学を受験しましたか。

１．受験した　２．受験しなかった

4　上の質問３で、「１．受験した」と答えた方に尋ねます。あなたは武庫川女子大学（4年制）を受験しましたか（併願を含む）。

１．受験した　２．受験しなかった

5　大学・短期大学受験において、現在、あなたが在籍している学科の志望順位は、次のどれでしたか

1．第一志望　　2．第二志望　　3．第三志望以下

6　上の質問５で、あなたが在籍している学科が第二志望以下であった方（質問５で「２」または「３」と答えた方）に尋ねます。
よろしければ、あなたの第一志望・第二志望校をお書き下さい（本学４年制を含む）。大学の場合は学部、短大の場合は学科までお願いします

第一志望（　　）、　　第二志望（　　）

7　あなたは短期大学を受験する際、大学への編入学を考慮しましたか。

1．真剣に考えた　　2．少し考えた　　3．考えなかった

8　あなたは武庫川女子大学短期大学部に入学したわけですが、入学直後と、現在の気持ちをきかせて下さい。

8-1・入学直後

1．満足　　2．どちらかというと満足　　3．どちらかというと不満　　4．不満

8-2・現在

1．満足　　2．どちらかというと満足　　3．どちらかというと不満　　4．不満

8-3・現在の気持ちを尋ねた上の質問 8-2で、「３」または「４」と答えた方に尋ねます。それはどのような点ですか。具体的に書いて下さい

Ⅲ．あなたが短期大学に入学した理由について、あなたの気持ちに近いものを率直にお答え下さい。

	あてはまる		ややあてはまる		どちらでもない		あまりあてはまらない		あてはまらない	
1. 短い期間（２年間）で、希望する資格や免許が取得できるから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	①
2. ２年間で学位（短期大学士）が得られるから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
3. はやく社会に出たかったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
4. ４年制大学卒女子よりも就職に有利だと思ったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
5. ４年制大学に進学するには学力が足りないと思ったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑤
6. ４年間も勉強したくなかったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
7. 専門学校に進学するよりも世間体がよいから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
8. ４年制大学よりも短期大学の方が入学しやすいから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
9. ４年制大学の受験に落ちたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
10. 親や家族が短期大学を勧めたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑩
11. 高校の先生が短期大学を勧めたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
12. 家庭の経済的状況で４年制ではなく短期大学にした	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
13. 女子の進学は短期大学で十分と思ったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
14. 高校卒業では、よい就職がないと思ったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
15. 進路について迷ったので、とりあえず短期大学に入った	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑮
16. 短期大学に入った方が、就職や進学の選択肢が広いと思ったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑯

あなたが短期大学への入学を決めた理由について、上の項目、あるいはその他の理由を含めて、自由にお書き下さい。

Ⅳ．あなたが武庫川女子大学短期大学部に入学した理由について、あなたの気持ちに近いものを率直にお答え下さい。

	あてはまる		やや あてはまる		どちらでも ない		あまり あてはまらない		あてはまらない	
1. 建学の精神、教育理念に共鳴したから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	①
2. 自分の学びたい学科や専攻があったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
3. 就職率がよいと聞いたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
4. 教育に力を入れていると聞いたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
5. 自分の偏差値（成績）にあう大学だったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑤
6. 伝統のある短期大学であるから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
7. よく名前を知られている短期大学であるから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
8. 自宅から通学できる距離にあったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
9. ４年制大学もある総合的な大学であるから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
10. 推薦入学制度を利用できたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑩
11. 施設や設備がきれいで充実していると思ったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
12. 様々な資格や免許を取得することができるから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
13. 大学の学生寮があったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
14. 自分が得意な科目で受験することができたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
15. 阪神間の都市部にあるから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑮
16. 情報教育に力を入れていると聞いたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
17. 独自の海外施設をもつなど、留学制度に魅力を感じたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
18. 幅広い教養を身につけることができるカリキュラムがあるから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
19. 家族や親戚など身近に、本学出身の人がいたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
20. 武庫川女子大学（４年制）への編入ができると思ったから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	⑳
21. 親や家族に勧められたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	
22. 高校の先生に勧められたから	5	—	4	—	3	—	2	—	1	22

あなたが他の短期大学ではなく、本学短期大学部に入学を決めた理由は何ですか。上の項目、その他の理由を含めて、自由にお書き下さい。

V．武庫川女子大学短期大学部での生活を振り返って、次の各項目についてあなたの率直な感想をお聞かせ下さい。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	
1. 同性の同学年や先輩・後輩の交流があり、参考になる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	①
2. 教員と話す機会が多く、親しみやすい雰囲気がある	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
3. 異性が周りにいないのは、不自然だと思う	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
4. 女性を意識した授業、女性として関心が高い授業が多い	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
5. クラスでの丹嶺合宿がよい思い出になっている	5 —	4 —	3 —	2 —	1	⑤
6. きめ細かい就職指導を受けることができる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
7. クラブでやりたいことが十分できる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
8. クラス制（担任制）は学校生活に慣れる上で役に立つ	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
9. 入学後、親しい友人を得やすい	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
10. 比較的少人数の授業が多い	5 —	4 —	3 —	2 —	1	⑩
11. 武庫川女子大学短期大学部用の就職枠があって有利である	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
12. 職員の対応が親切である	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
13. クラブや自治会など、全部自分たちで行わなければならないので、自立心が養われる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
14. 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
15. 同性ばかりなので、周りの目を気にしないで自分らしさを出せる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	⑮
16. ４年制大学へ行った方がよかったと思う	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
17. 専門学校へ行った方がよかったと思う	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
18. 幅広い教養を身につけることができる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
19. ゴミやいたずら書きなどが少ないなど、施設がきれいである	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
20. 図書館やコンピュータなどの設備や機器が充実している	5 —	4 —	3 —	2 —	1	⑳
21. 留学制度が充実している	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
22. 働いている先輩に話を聞くことができ、働くことの参考になる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
23. 女性として、将来の目標や課題をつかむことができる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
24. 本学４年制への編入枠をもっと広げるべきだ	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
25. なんとなくホッとできる雰囲気がある	5 —	4 —	3 —	2 —	1	25
26. 体育祭や文化祭がよい思い出になっている	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
27. 職業に役立つ知識や技能を身につけることができる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
28. 希望する資格や免許を取ることができる	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
29. 専門科目では高度な内容の授業が多い	5 —	4 —	3 —	2 —	1	
30. 情報教育が充実している	5 —	4 —	3 —	2 —	1	30

VI. あなたの就職準備および進路について尋ねます。

1-1 あなたは大学で用意したエクステンションを受講しましたか。受講した方は受講した講座数もお答え下さい。

1. 受講した（　　）講座くらい…数字を入れて下さい　　2. 受講しなかった

1-2 上の質問1-1で、「1.受講した」と答えた方に尋ねます。受講した講座の中で、特に役立ったと思った講座名とその理由を書いて下さい。（複数可）

2-1 大学が用意したエクステンション講座の他に、資格取得や就職のための学校に通いましたか。

1. 通った　　2. 通わなかった

2-2 上の質問2-1で、「1.通った」と答えた方に尋ねます。あなたが特に役立ったと思ったものは、どのような内容でしたか。

3 今後、大学でのエクステンション講座として、どのような講座を望みますか。望まれる方は、具体的な内容を書いて下さい。

4 短期大学卒業後、あなたはどのような進路を考えていますか。（既に確定している方は、その進路を答えて下さい）

1. 正社員での就職　　2. 正社員ではないがフルタイムの就職（嘱託など）　　3. 不定期な仕事への就職（パート、アルバイトなど）

4. 本学4年制への編入学　　5. 他の4年制大学への編入学　　6. 専門学校への進学

7. 留学　　8. 未定　　9. その他（　　）

5 上の質問4で、雇用形態にかかわらず「就職する」と答えた方に尋ねます。就職に際して、重視することはどのようなことですか。（複数回答）

1. 安定性　　2. 企業のブランド力　　3. 自分の時間を確保できる　　4. 責任ある仕事　　5. 仕事のやり甲斐

6. 長期雇用　　7. 自宅からの通勤　　8. 給料のよさ　　9. 職場の雰囲気　　10. その他（　　）

6　4年制大学への編入学がもっとスムーズであるならば、あなたは4年制大学への編入学を希望しますか。

1. 希望する　　2. 希望しない　　3. どちらとも言えない

7-1　今後、短期大学の教育や学生指導で特に期待することは何ですか。3つまで○をつけて下さい。

1. 教養教育の充実　2. 専門教育の充実　3. 語学教育の充実　4. 資格・免許取得の充実　5. 補習教育など教育支援の

6. 少人数教育の充実　7. 就職指導の充実　8. 卒業後にも就職支援　9. 4年制への編入学の拡大　10. クラブ活動の充実

11. 文化祭・体育祭など学校行事の充実　12. 教員との交流の増加　13. 職員の対応の改善　14. 留学制度の充実

15. 新しい学科の創設（例えば　　）　16. その他（　　）

7-2　上の7-1で挙げた項目について、今後の本短期大学に期待する、より具体的な提案があれば、自由にお書き下さい。

8　4年制大学と比べて、短期大学の長所および短所であると思う点はどのようなことですか。自由にお書き下さい。

長所:

短所:

ご協力、ありがとうございました。

資料２　学生調査における三つの因子分析結果

別表１.「短期大学に入学した理由」の因子分析結果（主因子法・Varimax 回転後の因子負荷量）

N＝649

	因子					因子抽出後の共通性
	1	2	3	4	5	
6. 四年間も勉強したくなかったから	.742	.119	.282	.069	.096	.660
3. はやく社会に出たかったから	.735	.002	－.044	.237	.234	.517
9. 四年制大学の受験に落ちたから	－.580	－.230	.055	－.058	－.172	.653
4. 四年制大学卒女子よりも就職と思った	.371	.070	－.025	.319	.172	.274
10. 親や家族が短期大学を勧めたから	.070	.676	.055	.100	－.020	.422
11. 高校の先生が短期大学を勧めたから	－.038	.547	.188	.135	.061	.658
12. 家庭の経済的状況で四年制でなく短大に	.204	.501	－.008	.102	.121	.274
13. 女子の進学は短期大学で十分と思ったから	.296	.442	.118	.277	.119	.699
15. 進路について迷ったのでとりあえず短大	.082	.352	.237	.322	－.036	.425
8. 四年制大学よりも短大の方が入学しやすい	.040	.156	.792	.207	.052	.476
5. 四年制大学に進学するには学力不足	.022	.084	.630	.126	.029	.358
14. 高校卒業では、よい就職がないと思った	.037	.185	.216	.547	.094	.317
16. 短期大学の方が、就職や進学の選択肢広い	.239	.323	.019	.528	.061	.388
7. 専門学校に進学するよりも世間体がよい	.139	.079	.214	.446	.065	.390
1. 短い期間で希望する資格や免許取得	.204	.060	.003	.033	.784	.291
2. ２年間で学位（短期大学士）が得られる	.247	.091	.104	.173	.638	.444
因子負荷量の平方和	1.890	1.587	1.323	1.251	1.199	7.249
分散の％	11.81	9.92	8.27	7.82	7.49	
累積の％	11.81	21.73	30.00	37.82	45.31	

別表２．「武庫川女子大学短期大学部に入学した理由」の因子分析結果（主因子法・Promax 回転後の因子パターン）

N＝649

	因子					
	1	2	3	4	5	6
3. 就職率がよいと聞いた	.685	−.091	−.052	−.102	.043	.269
4. 教育に力を入れていると聞いた	.646	.154	−.112	.067	−.075	.140
6. 伝統のある短期大学である	.621	.029	.091	−.048	.114	.150
11. 施設や設備がきれいで充実	.602	.144	.034	−.176	.041	−.067
7. よく名前を知られている短期大学	.572	−.114	.180	−.045	.166	.176
12. 様々な資格や免許を取得できる	.568	.034	.004	.037	−.083	−.095
2. 自分の学びたい学科や専攻がある	.561	−.199	−.100	−.004	−.218	.120
16. 情報処理教育に力を入れている	−.098	.817	−.117	−.001	.030	.093
18. 幅広い教養を身につけることができる	.255	.535	−.077	.114	.067	−.200
15. 阪神間の都市部にあるから	−.027	.499	0.000	−.114	.035	.246
17. 独自の海外施設など、留学制度に魅力	−.050	.456	−.004	.212	−.037	.045
19. 家族や親戚など身近に、本学出身者	−.121	.420	.189	.016	−.002	.129
1. 建学の精神、教育理念に共鳴	.230	.389	.050	.002	−.078	−.014
(10. 推薦入学制度を利用できた)	.159	.325	.190	−.288	−.078	−.200
22. 高校の先生に勧められた	.041	−.096	.799	.060	−.151	−.146
21. 親や家族に勧められた	−.085	.040	.718	.107	.075	−.010
20. 武庫川女子大学への編入ができる	−.157	.029	.108	.658	−.034	.175
9. 四年制大学もある総合的な大学	.297	.109	.078	.471	.130	.057
13. 大学の学生寮があった	.005	.277	.085	.005	−.693	.309
8. 自宅から通学できる距離にある	−.099	.271	−.022	.003	.550	.099
5. 自分の偏差値（成績）にあう	.394	−.041	−.030	.157	−.051	.432
(14. 自分が得意な科目で受験できる)	.158	.089	−.105	.130	−.115	.334
因子間相関行列	1	2	3	4	5	6
1	1.000	.472	.291	.224	.207	−.005
2		1.000	.398	.255	.076	.022
3			1.000	−.088	.223	.336
4				1.000	.018	−.148
5					1.000	.374
6						1.000

※１．濃い網掛けは、因子負荷量0.35未満のもの。

別表３．「武庫川女子大学短期大学部での学生生活評価」の因子分析結果（主因子法・Promax 回転後の因子パターン）

N＝649

	因子						
	1	2	3	4	5	6	7
12. 職員の対応が親切である	.876	−.058	.029	−.243	.004	.083	−.058
6. きめ細かい就職指導を受けられる	.726	.036	−.148	.016	.028	.040	−.044
14. 授業に熱心な教員が多く、理解しやすい	.627	−.059	.161	−.030	−.073	.100	−.031
4. 女性を意識した授業などが多い	.568	.044	−.076	.143	−.079	−.162	.038
2. 教員と話す機会が多く、親しみやすい	.532	.162	−.040	.357	−.302	−.030	.025
10. 比較的少人数の授業が多い	.505	.212	−.149	−.083	.086	−.018	.100
11. 本学短期大学部用の就職枠あり有利	.381	.030	−.036	−.020	.168	.083	.053
9. 入学後、親しい友人を得やすい	.106	.678	−.012	.088	.057	−.098	−.003
5. クラスでの丹嶺合宿がよい思い出	−.106	.633	.010	.010	.029	.058	.026
8. クラス制は学校生活に慣れるのに役立	.129	.561	.055	−.089	.052	.105	−.022
25. なんとなくホッとできる雰囲気	.219	.359	.059	.122	.161	−.062	.073
26. 体育祭や文化祭がよい思い出に	−.097	.343	.275	.089	−.030	.221	−.004
15. 同性ばかり…周りを気せず自分出せる	.182	.326	.117	.012	.077	.003	.009
(17. 専門学校へ行った方がよかった)		−.166	−.087	.162	−.037	.051	.160
28. 希望する資格や免許を取得できる	−.232	.129	.857	−.158	−.050	−.023	.064
29. 専門科目では高度な内容の授業多い	.043	.005	.781	.015	−.064	−.064	.043
27. 職業に役立つ知識や技能を身につけられる	.134	.030	.619	.069	−.036	−.021	−.126
18. 幅広い教養を身につけることできる	.208	−.113	.370	.216	.164	−.081	.049
30. 情報処理教育が充実している	.106	−.087	.370	.132	.137	.036	−.004
22. 働いている先輩に話を聞き参考に	.041	−.142	−.005	.703	.047	.113	.017
1. 同性の同学年や先輩・後輩の交流	−.153	.204	−.090	.640	−.091	.136	−.026
23. 女性として、将来の目標・課題の把握	.159	−.022	.151	.524	.067	−.048	−.045
21. 留学制度が充実している	.113	−.176	−.099	.380	.316	.059	.024
19. ゴミなど少なく施設きれい	−.092	.120	−.090	.004	.735	−.021	−.038
20. 図書館やコンピュータなど充実	.055	.083	.039	−.065	.606	−.026	.000
13. クラブ等自分たちで行い自立心	.170	−.040	.034	.061	−.013	.638	−.037
7. クラブでやりたいことが十分できる	−.063	.102	−.127	.186	−.023	.626	.012
16. 四年制大学へ行った方がよかった	.120	−.091	−.044	−.064	−.066	−.033	.803
24. 本学四年制への編入枠を広げるべき	−.066	.047	.161	−.009	.037	.103	.646
(3. 異性が周りにいないのは、不自然)	−.069	.112	−.021	.063	.006	−.121	.223
因子間相関行列	1	2	3	4	5	6	7
1	1.000	.477	.661	.713	.567	.490	−.019
2		1.000	.509	.361	.324	.302	.014
3			1.000	.631	.547	.419	−.004
4				1.000	.464	.517	.031
5					1.000	.166	.139
6						1.000	.063
7							1.000

※１．「17　専門学校へ行った方がよかった」「３　異性が周りにいないのは不自然」は因子の項目から外した。

※２．網掛けは、因子負荷量0.35未満のもの。

資料３　学生調査・自由記述１：短期大学入学理由（自由記述Ⅲ）

自由記述Ⅲ「あなたが短期大学への入学を決めた理由について、上の項目、あるいはその他の理由を含めて、自由にお書き下さい。」

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
日本語	14	家の経済状況をみて。	経済	
	20	女子大かつ短期大学の方が就職に有利だと思った	就職	
	23	オープンキャンパスに来て感じがよかったから。いい学校だと思ったから。	オープンキャンパス	
	26	最初は漠然と「短大でいい」と思っていたけれどオープンキャンバスで校風などを見て、感じて進学したいと思いました。	オープンキャンパス	
	30	６月頃に行こうと思っていた進路を親から反対されて名前も有名で実践のあるこの大学をえらんだ。	親	名前
	40	親に勧められて自分も気に入りだした。	親	
	45	第一志望校の偏差値が武庫女の四大より下で短大より上だったためすべり止めとして決めた。	学力（４大）	
	47	国文の学科のある短大が２つしかなかった。	学科	
	56	自分のレベルにあっていたから	学力	
	61	４年間も勉強するのは辛そうで早く働きたいと思ったから。 短大の方が忙しいけどその分充実した学生生活を送れると思った。	自立	短期
	64	高卒ではよい就職がないと思った	就職	
英　語	87	短期大学で留学ができることも大きな魅力、だったから。	留学	
	90	留学があったから	留学	
	101	集中して勉強できると思ったし、少しでも長く自分の就職場にいたいと思ったから。	自立	集中
	104	経済的な理由が一番大きいです。	経済	
	105	短大で十分だと思った	短大	
	107	浪人して武庫女に入るよりも短大に行って編入した方が確立は高いと思ったから。	編入	
	108	女子は短期大学のほうが就職率も良く、勉強内容も短期間で集中的に学ぶことができ充実していると思ったから。	就職	集中
	113	学生のうちに英語にふれたく、留学制度があったから。	留学	
	115	親への経済負担を考えた上で	経済	
	121	MFWI への短期留学ができるから	留学	
	126	すべりどめ（４年制のための）	学力（４大）	
	128	受かった大学で、一番就職率が良かったのが武庫女の英語だったので、入学を決めた。	就職	
	129	社会へ出るにあたっていろいろ考えができるから	猶予	
	137	２年間で４年制と同じぐらいの勉強ができると思ったから	短大	
	153	大学を卒業してから専門学校に進学したかったので、４大に行くより短大の方がいいと思ったから。	専門学校	
	154	早く社会に出て自立したかったから。	自立	
	158	自分の今の英語力に合っていると思ったから	学力	
	161	専門学校に進学しようと考えていたが、親に大学や短大をすすめられ、短大２年、専門学校２年で丁度良いと思ったから。	親	短大

N=113　延べ約135

21	短期・集中
20	学力（４大）
18	学科・希望
17	資格・就職
15	経済
10	自立
10	親＋教師＋姉
6	猶予、選択肢
4	留学
4	編入
3	入試
3	名前・ブランド
2	世間体
2	オープンキャンパス

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
幼　児	167	入りたかったから	希望	
	186	保育士と幼教の資格が両方とれるから。	資格	
	196	４年制より就職率がよいときいたから。 経済面から。	就職	経済
	197	保育士資格と幼稚園教諭二種免許が２年間で取得できるから。	資格	
	198	指定校があったから	入試	
	203	早く自立したかったから	自立	短期
	204	４年制大学の受験に落ちたから	学力（４大）	
	227	幼児教育について専門的に学べるから	希望	
	242	２年間で保育士、幼稚園教諭の免許を取得し、さらに編入学をしてより多くのことを学びたいと思ったから。	資格	編入
	247	学費のこと	経済	
	264	はやく資格を取りたかったから	資格	短期
	266	４年制大学におちました。	学力（４大）	
	267	４大に落ちたから。	学力（４大）	
	269	ここしかなかったから	学力（４大）	
	283	早くはたらきたかった。	自立	短期
人　間	293	選択肢が広いから。 心理学に興味があったから。	選択肢	学科
	298	大学へ入るための学力が無かったから	学力（４大）	
	304	４年大落ちたから。高卒は嫌やったから。	学力（４大）	
	305	あねがいってたから	姉	
	314	心理学を学んでみたいと思ったから。	希望	
	322	しょうがくきんをもらわずに進学したかったため。 大学を考えてたが、親がたおれて金銭的にやむをえず短大に入った。	経済	
	326	４年制へ行っても就職する企業は大して変わらないと思ったから。 妹がいるので、少しでも学費をおさえたかったから。	就職	経済
	336	経済的な理由で短大進学に決めた。	経済	
	339	卒業後専門学校に進学するつもりだったので２年で勉強できるし、視野も広げたいと思ったから。	専門学校	視野
	346	短期大学を卒業してから専門学校に行こうか考えていたから。	専門学校	
	360	勉強できるのも、もう最後になり社会にでてからはなかなか時間がなくなるので自分が最も勉強したい分野を学びたいと思ったから。	学科	
健スポ	1003	武庫川女子短大の健スポがいい！！と確信していたから。	希望	
	1007	短期大学に入ってから次の進路事を考えようと思ったから	選択肢	
	1009	他にどこも受験しなかった。武庫女一本にしぼっていたから。	希望	
	1012	教職のとれる短大が良いと思いました。	資格	
	1013	自分には、大学より短大の方が合っていると思ったから。	短大	
	1014	進学、就職で決めていなかった時に、学校の先生に聞いたため。	教師	
	1015	短大に入って、編入をしようと思ったから	編入	
	1026	四年制大学に落ちたから	学力（４大）	
	1027	先生にすすめられた	教師	
	1028	自分の学力レベルが足りなかったから。	学力（４大）	
	1036	今でも少し大学に行きたかった行けばよかったとは思うし、心残り。	学力（４大）	
	1039	県外なら短大と言われたから。	親	経済
	1042	まだ社会に出たくなかったから。	猶予	
	1048	スポーツの勉強がしたかったから	希望	
	1051	健スポがよかった（絶対に）	希望	

学科	サンプル	意見内容	キーワード		
食生活	1063	４年制大学に魅力がある学科がなかったため。早く社会に出たかった。	自立	短期	
	1066	名の通った大学で、資格も取れるし、就職率もよかったから	名前	資格　就職	
	1074	世間体がよいから。	世間体		
	1078	家庭の経済状況がおもわしくないので、早く社会に出て働きたく、短大は専門学校より世間体がよく、幅広く勉強できると思ったので。	経済	自立	世間体
	1082	女の子だから短大で充分だと思ったから。	短大		
	1085	高校の先生に勧めていただいたのが大きな理由です。	教師		
	1090	行きたい学科があったから。	希望		
	1094	経済的に厳しいから。	経済		
	1095	専門科目だけを勉強することができるから。	学科		
	1100	行きたい学科が短大だったから。	学科		
	1116	武庫女ブランド	名前		
	1136	高校が進学校だったので、もう少し勉強したいと思ったが、４年制だとお金がかかるから	経済		
	1137	短い期間（２年間）で、希望する資格や免許が取得できるから。	資格	短期	
	1138	専門学校と迷い、資格が取れて４年制よりはとりかえしがつきそうだったから	資格	選択肢	
	1139	将来の選択肢を広めるため	選択肢		
	1143	体調が思わしくなく、４年間の通学は困難だと感じていたから。	体調		
	1144	早く卒業して社会に出たかったから。進学校だったため、就職という考えはなかった。	自立	短期	
	1145	施設の充実さ等の理由で武庫女の４年制に進学したかったが、受験に落ちたので短大に入学を決めた。	施設	学力（４大）	
	1149	大学とは別にやりたいことがあったから			
	1155	就職希望だったが、高校の先生に勧められたので。	教師		
	1157	４年制に落ちたので仕方なく。	学力（４大）		
	1164	２年で、得たい知識が十分に得られると思ったから。	学科	短期	
	1170	短い期間で資格がほしかったから。	資格	短期	
造　形	1194	大学が落ちて、短大が受かって、受験勉強するのが嫌だったから。	学力（４大）		
	1196	はやく社会に出たかったが高卒では、はやすぎると感じたので短大に入学した。	猶予	短期	
	1197	高校の専門科で学んできたので、４年制でなくてもよかった。	学科		
	1198	２年間の方が内容の濃い授業が受けられると思ったから。	短期	集中	
	1199	２年で済むし早く働きたかったから	自立	短期	
	1200	４年制大学に落ちたから。	学力（４大）		
	1201	専門ではやらない、一般教養を学びたかった。	教養		
	1205	はやく働きたかったから。	自立	短期	
	1206	４年制大学に落ちてしまって短大に入ったけど、２年間アパレルの勉強をしっかりできて、よかったと思います。	学力（４大）		
	1208	４年制大学の受験におちたから。	学力（４大）		
	1209	入りたい学科だったから。	希望		
	1215	この学校に自己推せんがあって勉強しなくてよかったから	入試		
	1225	武庫川は遠いので、通うなら２年間にしようと最初から思っていました。	経済		
	1231	周囲に勧められたから。自分の学びたいことにも当てはまったから。	親	教師	学科
	1239	学費が安いから	経済		
	1255	ムコ女は就職率もいいので、短期大でも十分安心して入学できました。今もとても「入れてよかった」と思っています。	就職		

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
造　形	1266	私が短期大学の入学を決めた理由は武庫川女子大学の編入学を希望していたから。	編入	
	1269	４年制に入るのは難しいと思っていたところ、短大の指定校推薦がきていたので、編入という道を考えて、まず短大に入ろうと思った。	入試	学力(4)
	1270	家計の事情	経済	
	1272	早く社会人になりたかったから。	自立	短期

資料４　学生調査・自由記述２：武庫川女子大学短期大学部への入学理由（自由記述Ⅳ）

自由記述Ⅳ「あなたが他の短期大学ではなく、本学短期大学部に入学を決めた理由は何ですか。上の項目、その他の理由を含めて、自由にお書き下さい。」

学科	サンプル	意見内容	キーワード	
日本語	1	元々武庫川女子大学短期大学部に入学して卒業して大学編入ができるからです。もっともっと本学４年制大学の編入枠をしたい‥。お願いします。	編入	
	2	自分の偏差値に合っていたし、真面目な校風が魅力的だったから。	学力	校風
	6	よく名前が知られていたから。	知名度	
	10	有名だから	知名度	
	12	共通教育科目に魅力を感じたから	共通教育	
	14	姉が通っていたことで親近感をもったから	姉	
	23	有名な大学で評判がよかった。科目が充実していた。	知名度･評判	授業
	26	オープンキャンパスで説明を聞いたり、学校の方達の優しく、親切に対応する姿を見て、勉強面だけでなく、人として成長できると感じたので。後、自己推薦制度も高校時代力を入れて取り組んだことをアピールできるのでぜひ受けたいと思いました。	OC	入試
	29	学校の整備が整っていたから。入りたい部活があったから。	施設	クラブ
	30	親を説得できる位の短大が京女とここしかなかったから。	知名度	
	37	書道の授業があったから。	授業	
	39	有名だし、評判がよかったからです。	知名度･評判	
	40	評判が良かったので憧れの大学だったから。	評判	
	41	他の短大よりも、共通科目などで様々な勉強ができるからです。	共通教育	
	43	両親の実家が西宮市内だったので、自宅から遠かったけれど、よく知っている土地だったし、本学が身近な存在だったから。	身近	通学
	45	名前が大体の人に知られているから。	知名度	
	49	有名だから	知名度	
	56	就職に有利だったため	就職	
	61	有名な伝統ある学校だから。自分の学びたい科目がある（書道、日本語）。 先生の強いすすめ。自宅から通える。キレイ。	知名度･伝統	授業
	64	自分の学びたい学科があったから	授業	
	66	一番自宅から近いから！	通学	
	80	司書の資格が取れるから	資格	
英　語	87	早く社会に出たいという気持ちもあるが、英語を勉強したかった。 本学は就職率も良いので決めた。	語学	就職
	90	留学がプログラムの中に入っていたから。英語だけでなく他の言語も学ぶことができるから。	留学	
	103	私の実力を伸ばすことができる環境だと思ったから。留学制度。	留学	環境整備
	105	留学制度があったから	留学	
	107	どうしても武庫女に行きたかったから！！！ オープンキャンパスでのゴロウ先生のミニ授業が楽しかったので。	憧れ	OC

N=137　延べ202

36	知名度・伝統
21	授業・学科
19	通学・場所
16	就職
15	施設
12	留学
10	資格
10	偏差値・レベル
7	入試
6	教師
4	雰囲気
4	編入

学科	サンプル	意見内容	キーワード		
英　語	108	短期大学で留学もでき就職率も良く、有名な女子大は、武庫女しかないと思ったので。	留学	就職	知名度
	111	海外施設があり、留学制度が充実しているから。	留学		
	115	名前が知られている事。大阪に近い事。女子大という事。	知名度	場所	女子大
	120	外部も内部からも評判が良かったから	評判		
	128	就職率が一番高かったから。	就職		
	129	留学できるから	留学		
	132	学生がしっかりとしているから	学生		
	139	アメリカ留学（MEWI）ができる為	留学		
	140	MFWI に留学できるチャンスがあったから。設備などが整っていて良い環境だと思ったから。	留学		
	141	場所、受験内容を考慮して	場所	入試	
	143	短大を受けたのは武庫女だけだったので			
	146	留学制度を利用できるから	留学		
	150	家からより近かったから	通学		
	151	留学できるから。	留学		
	154	姉も通っていたし、伝統もあるし安心だから。	姉	伝統	
	158	留学制度があるから。	留学		
	161	英語の短期大学で関西圏でそこそこの偏差値がここしかなかったから。	偏差値	知名度	
幼　児	163	武庫女にオープンキャンパスに来たとき、めっちゃきれいだったから。	OC	施設	
	167	なんとなく、キリスト教じゃないから			
	174	自分の学力に合っていたことと、資格が多くとれるから。	レベル	資格	
	186	保育士と幼稚園教諭の免許が両方とれ、施設も十分に整っていると思ったため	資格	施設	
	196	就職率がよいと聞いたから。ピアノの実技試験がなかったから。	就職	入試	
	197	オープンキャンパスに来て、いいと思ったから。	OC		
	203	就職率がたかいから	就職		
	204	希望の学科があり、大学へ編入する制度もあったので	学科	編入	
	213	偏差値	偏差値		
	242	就職率が良く、施設や整備が充実しているから。	就職	施設	
	244	自分のやりたい授業がいっぱいあったから。 自分のとりたい資格や免許があったから。	授業	資格	
	263	自分の取得したい資格が全て取れるから。また高校のクラブの先生より、本学のクラブのすばらしさ、先生の人柄の良さを伺い、本学への入学を進められたから。	資格	教師	
	264	家から通えるので	通学		
	267	就職率が良いから	就職		
	283	ブランド大学だから名前にひかれた	知名度		
人　間	291	有名だから。４年制大学もあるから。	知名度	４年制大	
	293	設備がきれいで知っている先輩も何人かいたから	施設	先輩	
	295	有名な大学だったから	知名度		
	298	名前がよく知られている大学だから	知名度		
	300	学校名がやや知られているから。編入ができるから。	知名度	編入	
	301	他の短期大はよく名前も知らないところばかりだったから。	知名度		
	302	学校の雰囲気にひかれたから	雰囲気		

学科	サンプル	意見内容	キーワード		
人　間	304	学びたい学科があったから	学科		
	305	姉がいっていて家から近かったから	姉		
	314	短大で心理学を学べるから。	授業		
	322	実家から近く、かよいやすいと思ったため。	通学		
	326	就職率が他の短大と比べて段違いに高かったから。サポートが充実していると感じ、心強い印象を受けた。大学名を言うだけで一目落かれるブランド力に惹かれた。	就職	支援体制	知名度
	328	本学が第一志望で、他の大学を受けると、本学のテストに100％出せないと思ったので本学のみにしました。	第一志望		
	329	偏差値が他の短大より良い。親戚が良い就職ができたときいた。	偏差値	就職	親戚
	331	評判よさそうだったから。	評判		
	332	環境も良さそうだし、知り合いに本学の方が在席して話を聞いていたから。	環境	知り合い	
	336	就職率がいいから。	就職		
	337	心理が学べる短大はそう多くはないから。	授業		
	338	○○だと、けばい子が多い、△△だと、おじょうさま、武庫川はカジュアルな子が多いから。服装。	服装		
	344	伝統があるから。	伝統		
	352	自宅に近い上、学びたい心理学科があった為。	通学	授業	
	360	家から通学できる距離で入学するかどうか悩んでいる時に入試センターの方が学校内を丁寧に説明しながら案内をしてくださいました。学校を見て入学しようと決めました。	通学	職員	
健スポ	1003	スポーツが好き。武庫女だと可能性が広がる。資格が取れる。	スポーツ	資格	
	1007	体育の先生になるにはいいと聞いたから	教職		
	1008	サッカーができるから。	スポーツ		
	1009	きれいで学ぶ環境がとても整っていたから。	環境・施設		
	1011	中学体育の教職免許がとれる大学で、九州から一番近かったから。	資格		
	1013	スポーツ関係の勉強ができ、家から近い短大だから。	スポーツ	通学	
	1016	スポーツ科があり、伝統のある短期大学で家からかよえる距離だったから。	スポーツ	伝統	通学
	1017	恩師が本校卒業であったため。短大で教職を取れる一番近い学校だったから。	教師	教職	
	1026	四年制大学に落ちたから	受験失敗		
	1027	先生にすすめられた	高校教師		
	1039	よく名前も知られていて、スポーツ科では一番偏差値も高かったから。	知名度	偏差値	
	1043	家から一番近い	通学		
	1048	部活のこもんにすすめられたから	高校教師		
	1051	落ちた	受験失敗		
食生活	1063	高校から、内部推薦があったから。	内部進学		
	1066	有名な大学だったから	知名度		
	1074	就職率がよいと聞いたから。	就職		
	1078	自宅に近く、偏差値も低く、学校の雰囲気が自分に適当だったため	通学	偏差値	雰囲気
	1082	名前が知られていたし、高校の先生が勧めてくれたから。	知名度	高校教師	

学科	サンプル	意見内容	キーワード		
食生活	1085	短期大学では有名だったので、就職率もいいという点に魅力を感じた。	知名度	就職	
	1090	学科に必要に設備が充実してそうだったから	施設		
	1094	関西にあるから。	場所		
	1100	伝統もあるし、有名だったから。	伝統	知名度	
	1111	２年間で集中して勉強したいと思ったから。	集中		
	1112	推せん（指定校）をすすめられたから。	入試		
	1116	偏差値	偏差値		
	1118	名前のある学校だったから。	知名度		
	1133	指定校がきてたし、行っている人の話をきいて、いってみようと思ったから。	入試	本学学生	
	1136	卒業後に資格がとれるから	資格		
	1138	知名度、家からかよえる、学びたい学科があった	知名度	通学	授業
	1139	入試制度がよかった。	入試		
	1144	甲子園に近いから。近くに親戚がいるから。	場所	親戚	
	1145	４年制もある総合的な大学で、施設も充実しているから。	４年制大	施設	
	1149	名の通った大学だから	知名度		
	1157	就職率も上がったし、４年制に編入できたらいいなと思ったから。	就職	編入	
	1158	施設が充実している。まじめそうな生徒が多いから。	施設	学生雰囲気	
	1161	施設がどの学校より整っていると思った。	施設		
	1164	本学の学科の偏差値が他の同じ学科がある短期大学の中で最も高かったから。	偏差値		
造　形	1191	施設や訓練が充実していたから。	施設	授業	
	1194	他の短大に比べると偏差値が高かったから。	偏差値		
	1196	資格を取得する事が出来るから。	資格		
	1198	ファッションを学びたく、専門学校以外のところで考えていたところ姉にこの学校のことを教えてもらい、自分に合っていると思い入学を決めた。	姉		
	1199	服のことが勉強できて設備がきれいだから	授業	施設	
	1200	家から通えるから。実験の授業があるから。	通学	授業	
	1202	学校名で	知名度		
	1205	学びたい学科があったから。	学科		
	1206	自分が学びたい学科があったから。就職率がよいから。	学科	就職率	
	1225	生活造形学科があったから。	学科		
	1231	指定校推薦枠があいていて周囲に強く勧められたから。 学びたいことがあり、考えていた大学と比べても全てにおいて好条件だったため。	入試	他者の薦め	
	1239	レベルの高い大学だったから	レベル・偏差値		
	1255	就職率がとても高いので。	就職		
	1266	設備が優れていていろいろな教養が身につけられると思ったから。	施設	教養	
	1270	学科があったから。伝統があるから。	学科	伝統	
	1271	学内から上がったため。学力が足りなかったのと、早く就職したかったから。	内部進学	学力不足	
	1272	有名で伝統のある学校だから。	知名度	伝統	
	1272	資格が充実してると思った。	資格		

資料５－１　学生調査・自由記述３：４年制と比べての短期大学の長所（自由記述Ⅵ－８）

自由記述Ⅳ－８「４年制大学と比べて。短期大学の長所および短所であると思う点はどのようなことですか。自由にお書き下さい。」

長所に関する意見とキーワード

学科	No.	意見内容	キーワード			
日本語	2	早く社会に出られるし、就職に関する知識が早く付けられる。	就職	社会	短期間	
	4	だらだらとせず､気を引き締めて授業に望めたこと。	引き締まり			
	6	４年制ほど時間がないのでつめこめる。	詰め込み			
	7	短い時間に色んな体験ができる。友人関係が親密になりやすい。	短期間	友人		
	12	短期間で様々なことが学べる	短期間			
	13	短い期間で資格が取れること	短期間	資格		
	14	早く働くことの大切さについて学ぶことができる。就職活動をし始め、自己を見つめ直すチャンスが２年間早くなること。	就職	社会		
	21	忙しいがそれなりに充実した日々を送ることができる。	充実			
	29	就職に有利	就職			
	30	早く就活が出来ること。２年しかない分授業内容がダラダラしないのでとてもまとまっている。	授業内容	就職		
	36	短期間で社会に出ることができる	社会			
	37	時間があと少ししかない！と思うので、（２年は短い）有効に時間を使おうと思うところ。→計画的に行動できる！！	短期間			
	39	入りやすい	入学容易			
	40	社会に出る意識を早く持つことができる。	社会			
	41	大学生より社会に出るのが早いので、早くから就職について考えることができる。	就職	社会		
	43	入学して２年後にまた進路を考えられる。	進路			
	45	広く浅く知識が得られる	知識			
	53	早い時期から将来について考える機会があり、卒業後の進路の選択肢が多い点	進路	将来		
	54	短期間で、色んな事が、学べる。	短期間			
	61	実践的な科目が多く身についている気がする。必修科目がわりと少ないので自由に時間割が組める。	授業内容	カリキュラム		
	64	早く自立できる	自立			
	66	早く社会に出られる	社会			
	67	学校推薦やとりまとめの就職枠が４大よりあること	就職			
	70	短かい期間でいろいろ学べる	短期間			
	74	就職までの時間が短い分、社会人としての自覚が早く芽生える。	社会			
英　語	83	早く働きたい人には就職指導も充実しているので良いと思う。	就職	短期間		
	84	すぐに就職できる。少人数制	少人数	就職	短期間	
	86	短期間で集中して学べる	短期間			
	87	２年間むだのない時間をすごすことができた。本学で充実した日々を過ごせた。	充実			

学科	No.	意見内容	キーワード			
英　語	88	早く社会へ出ることによって親への経済的ふたんにならない。短期だからこそ遊ぶ暇もなく集中して学べる。就職の時に、周りの人より興味深く質問された。	短期間	就職	社会	経済的負担減
	90	短い間ぎょうしゅくして学ぶことができる。濃い思い出が作れる。	短期間	思い出		
	103	就職率が良い	就職率			
	104	早く就職できる。忙しい分、内容の濃い充実した２年間が送れた。	就職	充実		
	105	就職率が良い	就職率			
	108	短期間で集中的に学べる。就職率が良い。	短期間	就職率		
	109	大学の方よりも早く将来について考えるようになる所	将来			
	115	気が楽。２年だけで卒業できる利点。	短期間			
	119	就職率が良い	就職率			
	121	短い期間に色んな事を学べ、貴重な体験ができる。	短期間			
	126	がんばれる。				
	132	専門的に勉強ができるところ	専門的			
	137	２年間で就職できる	就職			
	141	早く社会に出れる	社会			
	143	就職率がいい。少人数制でわかりやすい。	少人数	就職率		
	146	２年間無駄な時間がない。	短期間			
	150	お金がかからない。	経済的負担減			
	151	２年間いっぱい学べる。	短期間			
	158	早く社会に出れる。	社会			
	159	みんな仲良くまじめ！！	まじめ	友人		
	162	クラス替えがなく。クラスが仲良い。中だるみがない。	友人			
幼　児	178	保育士資格が確実に取得できる	資格			
	180	すぐ就活できる	就職			
	186	短い期間で資格が習得できる。	短期間	資格		
	191	内容が充実している	充実			
	192	時間がある	時間がある			
	196	少人数	少人数			
	197	短期間で資格、免許がとれること。	短期間	資格		
	204	友人との親密度がアップ	友人			
	211	早く就職ができる	就職			
	228	少ない余裕を効率的に使おうとするようになる。	短期間			
	234	２年の方がメリハリがつき１つ１つに集中できる	短期間			
	237	早く卒業できる	短期間			
	242	２年間で授業を集中して受け、実習ですぐに現場での体験ができ、免許を取得できるところ。	短期間	資格		
	249	忙しい分、充実感があること	充実			
	262	途中でだれてる場合でないところ	短期間			
	264	短い期間で資格が取れる。	短期間	資格		
	267	２年間で免許がとれる	短期間	資格		
	269	友だち	友人			
	270	学校生活が充実する	充実			
	282	すぐ就職できる。	就職			
	283	すぐ就職できる。	就職			
	284	短い期間で資格が習得でき充実している	短期間	資格		
	286	短い期間で資格を取得できる	短期間	資格		
	290	だらけず、毎日学校に通える。専門知識をいっきに入れることができる。	専門性			

学科	No.	意見内容	キーワード			
人　間	292	短期間でより多くのことを学べる	短期間			
	293	将来の選択肢が広い	将来			
	295	情報（パソコン）が充実している。就職率が良い。	就職率			
	296	62単位で卒業でき、短期間ではば広い分野勉強できる	短期間			
	300	専門的な知識を身につけたいと思わない人には２年くらいでちょうど良いと思う。	専門的			
	301	早く働ける	社会	短期間		
	302	本学の就職支援	就職			
	305	そつろんがない	卒論なし			
	309	早く社会に出れる。	社会	短期間		
	311	早いうちから社会に出れるので就職のチャンスも多い。	就職	社会		
	314	はやくに社会に出られる。	社会			
	315	就職率が良い事	就職率			
	317	４年制に比べると比較的早い期間で就職先が決まったように思う。	就職	短期間		
	323	早く社会に出れる。	社会	短期間		
	326	短期間でたくさん学べる。	短期間			
	327	短い期間で資格を取得することが出来る。	短期間	資格		
	328	就職率が良い。	就職率			
	330	すぐ社会に出られる。	社会			
	331	楽しく、遊びながら学校生活をできた。	遊び			
	332	早く社会にでることが出来る。集中して学べる	短期間	社会		
	337	早く社会に出て仕事をすることができる。就職に短大枠があるから有利。	就職	社会		
	339	２年間で、さまざまな専門の勉強が学べ、教養も身につき、早く社会人になれる。	教養	社会	専門的	短期間
	347	短い期間で集中して勉強ができる。	短期間			
	350	卒業する年齢が20歳なので就職以外の道も考えやすい。	将来			
	351	就職が有利であると思った。	就職			
	359	就職について早くから考えること。	就職			
	360	２年間のあいだで学びたいものが学べるし、充実した生活が送れる。	短期間	充実	充実	
健スポ	1003	将来を見据えて行動する子が多い！！４年制よりもシャキシャキしていると思う。 ２年しかないので、勉強・行事全てにおいて、意欲的！！！⇒とっても濃くて充実した２年間に！！！	短期間	充実	将来	
	1005	団結力や将来を真剣に早くから考えている子が多い。	団結力	将来		
	1007	短期間で学ぶことが出来る	短期間			
	1008	大学より人数が少なくクラスのまとまりがあるし、団結力がある。	少人数	団結力		
	1014	いつも同じメンバーで勉強ができ、親しみやすくて、とてもよかった。	友人			
	1017	早く社会に出れる。	社会	短期間		
	1022	短期間で集中できる	短期間			
	1025	短大でも教員免許をとれること	資格	教職		
	1026	大学と同じだけの授業を受ける事が出来る	短期間			
	1027	２年しかないから、自分でやらなければならないことが多く、自立できる。	自立			
	1028	暇な時間が少なくていい。	充実			
	1031	短期間で集中して、勉強に取り組むことができる。	短期間			

学科	No.	意見内容	キーワード			
健スポ	1033	短い期間でたくさん学べる	短期間			
	1034	大学と比べてのりがいいし、一生懸命で明るい。	一生懸命			
	1040	早く就職できる	就職			
	1043	短い期間で色んな事が勉強できる。	短期間			
	1046	２年しかない学生生活なので、何事にも真剣に取り組めること。	充実			
	1047	人数が少ないから、よかった。	少人数			
	1051	仲よし、何事も一生懸命	友人	一生懸命		
食生活	1061	短期間で必要な知識を学び､資格を習得することができる。	短期間	資格		
	1062	クラス制だから友達と仲良くなれる。	友人			
	1065	短期間で様々な勉強を出来、凝縮された内容。	短期間			
	1066	早く社会に出れる。忙しいので、逆に友達と仲良くなれる。	友人	社会	短期間	
	1068	短い期間で専門的な知識を身につけることができる。	短期間	専門的		
	1071	短時間で圧縮された授業がうけれるので、頭に入りやすい。	短期間			
	1072	授業の数が多く、充実している	カリキュラム	充実		
	1076	短期間で資格がとれる。	短期間	資格		
	1077	短い期間充実させることができる。	短期間	充実		
	1078	早く社会に出れる。	社会			
	1081	早く自立できる。	自立			
	1082	２年という短期間で免許取得が可能。卒論がない。大学より早く社会に出られる。	短期間	資格	社会	卒論なし
	1085	就職に有利。編入や専門に行くなど、卒業後の進路に幅がある。	進路	就職		
	1086	短期間で希望する資格が得られる。	短期間	資格		
	1092	就職率が良い	就職率			
	1100	短いから仲よくなりやすいと思う。	友人			
	1105	短期間で資格が取得できる。	短期間	資格		
	1109	２年間なので授業の内容が濃い｡卒論がないので楽。	短期間	卒論なし		
	1110	２年で社会に出る	社会			
	1111	早く社会にできる。	社会			
	1112	早く卒業できる	短期間			
	1116	学費がはんぶんですむ	経済的負担減			
	1119	卒論がない。	卒論なし			
	1124	大学と比べて、２年短いため進路について、選択出来るゆとりがある。	進路			
	1129	短期間で資格がとれる。	短期間	資格		
	1139	将来の選択肢が広がる	将来			
	1144	早く社会に出れる	社会			
	1145	短期集中できる。	短期間			
	1147	早く社会に出ることができる	社会	短期間		
	1149	２年後にまた新しいことにチャレンジできる。	将来			
	1157	実践的なものを学べる	実践的			
	1158	短期間で自分の学びたい分野が学べる	短期間			
	1163	ゆっくりと時間をとって学ぶ事ができる。就職についてじっくり考えられる。	就職			
	1164	授業内容がとても密なので、短期間でためになる。	短期間			
	1165	短かい期間で集中して学べる	短期間			
	1170	短い期間で資格を修得できる。	短期間	資格		
	1174	毎日充実している。	充実			

学科	No.	意見内容	キーワード			
造　形	1193	社会に早くから出ていけたり、卒業後の進学も考えることができる。	進路	社会	短期間	
	1196	短期間で多くを学べる。	短期間			
	1198	２年しかないという思いから、充実した内容の濃い学校生活が送れる。４年制と同じように資格が取得できる。	資格	充実		
	1199	充実している	充実			
	1200	専門的な技術を身につけることができる。	専門的			
	1203	あっという間に卒業！よくもわるくも早い！	短期間			
	1204	学生生活が満キツできる。	充実			
	1205	就職率が良い。	就職率			
	1206	つめて勉強できる。くわしくできる。	短期間			
	1214	２年間で色々な事を学ぶため、充実しムダのない日々になる。	充実	短期間		
	1215	長い間学校に行かなくていいから	短期間			
	1216	短い期間でたくさんのことが学べる。	短期間			
	1217	短い期間で色々なことが学べる。	短期間			
	1222	２年間という短い期間で、深い専門知識を得ることができる。	短期間	専門的		
	1223	短い期間でたくさん学ぶことができて、早く社会に出れる。	短期間	社会		
	1224	短い間なので、その分仲が深まる。	友人			
	1225	短期間で充実している。	短期間	充実		
	1228	授業内容が濃い。	授業内容			
	1230	２年間毎日たくさん授業が入っているので充実した日々をすごせた。	充実			
	1231	短期間の間にたくさんのことを学ぶので充実した生活がおくれる。	短期間	充実		
	1240	早く社会に出ることができる	社会	短期間		
	1248	はやく就職ができる	就職			
	1260	一年生から専門的な事を学べる	専門的			
	1265	２年なので、とても短く、計画を立ててすることを意識できること。2年で十分いろんなことを学べる。	短期間			
	1266	まじめで熱心な人が多いところ。	まじめ			
	1271	早く就職ができ、社会経験ができる。４年は長い気がするので勉強は２年間で十分。	就職	短期間		
	1272	短い期間で専門的な分野を学べるので、将来の目標を明確にしている人にとっては良いと思う。入学した段階でアパレルとインテリアのコースに別れているので周りには同じ分野に興味を持っている人たちが多いので良い刺激になる。	短期間	専門的		
	1282	短時間で知識が得られる。	短期間			
	1283	短いじかんでさまざままなべる。	短期間			
	1284	短期間で多くの学問を学ぶことができる。	短期間			
	1288	幅広く、色々なことにふれることができる。	経験			
	1289	４年制大学だと必然的に次は就職を考えがちだけど短大だと少し余裕を持って考えられる‥？	余裕？			

資料５－２　学生調査・自由記述４：４年制と比べての短期大学の短所（自由記述Ⅵ－８）

自由記述Ⅳ　４年制大学と比べて。短期大学の長所および短所であると思う点はどのようなことですか。自由にお書き下さい。

短所に関する意見とキーワード

学科	No.	意見内容	キーワード		
日本語	2	４年制大学より時間が短い分、学ぶ事が詰め込まれること。	短期間	詰め込み	
	4	あっというまであったこと。	短期間		
	5	“大学でまなんだこと”と言われても、時間が短いためとくに思い浮かばない。	短期間	学び	
	6	深く学べるというよりは浅く広くというかんじ。	学び		
	7	２年は少し短い。行事がおしこまれるようにあっという間にくるので、色々と大変に感じた。	短期間	詰め込み	
	12	就職活動が大変	就職		
	13	２年になってから課題が増えて忙しくなりおろそかになった授業もあった	多忙		
	14	学生生活のゆとり感が少ない。	ゆとりなし		
	20	４年制短期大学問わずに日文は授業数が少なく興味のある授業が少ない	授業		
	21	「忙しい」だけです。	多忙		
	29	教職、司書課程の両方をとれない。	資格		
	30	つめこみすぎ	詰め込み		
	34	とれる授業が少ない。あわただしい。	多忙	授業内容	
	36	期間が短いため、深くまで知識を身につけることができない。	短期間	知識不足	
	37	単位とるのは大変。。	単位		
	39	入学して、学生生活になれてきてすぐに就活がはじまること。	就職	忙しさ	
	40	就職の幅が大学に比べて狭い。	就職		
	41	就職活動の時、４年制大学の募集はあるのに短期大学の枠がないことがあること。	求人枠		
	43	就活の時、年齢が若いので子供っぽさが残る。	就職		
	45	就活までの期間が短い	短期間	就職	
	52	就職のときには不利。募集の時点で４年制大学卒以上と書かれていることが多いように思う。	求人枠		
	53	就職が４年制より難しいと感じる点。学ぶ量が少ない点。	求人枠	勉強量	
	54	大学に比べて、就職できる所が、限られる。	求人枠		
	56	短大ではとれない資格がある。	資格		
	60	資格を取得するのに、卒業ギリギリまでかかり、不安。もう少し余裕を持ちたい。	資格	ゆとりなし	
	64	資格取得が難しい	資格		
	66	忙がしい	多忙		
	67	短大という理由で受けられない会社があること	求人枠		
	70	単位が大変	単位		
	74	留学に関するチャンスが少ない。	留学		
英　語	83	単位が結構、簡単にとれるので、その後あんまり勉強しなくなりがち。	単位	学び	
	84	勉強、就職活動の両立	両立難		
	87	２年間はあっという間だった。	短期間		
	88	短かすぎて時間がたりない。あわただしい。	短期間	多忙	

学科	No.	意見内容	キーワード		
英　語	90	忙しくていろいろなことをするよゆうがない。	多忙	ゆとりなし	
	103	クラス制	クラス制		
	104	給料が安い。	給料差		
	107	将来についてじっくり考える時間がない。浅い専門教育	ゆとり	専門性薄い	
	108	ゼミがない。	ゼミなし		
	109	２年間で将来のことを決めることは難しく、早すぎると思います。	短期間		
	115	単位を落としたら次年上がれないかもしれないという不安。	単位		
	121	色々な事が学べる反面中途半端になってしまうことがある。	知識		
	126	あわてる。あせる。わずらう。	多忙	ゆとりなし	
	132	幅広い知識はつきにくい	知識少		
	137	短い期間でやる事が多い	短期間	多忙	
	141	つめこみ授業	詰め込み		
	142	留学などもあり、あまりきちんと就職活動が出来ない	就職	留学	
	143	留学で同じ短大生に比べ就職対策が遅れる。	就職	留学	
	146	４年制卒の人と給料に差が出る。	給料差		
	150	より専門的なことが学べないまま卒業してしまう	専門性少		
	151	学生期間が短く、あそべない。	短期間	遊びなし	
	158	のんびり遊ぶ時間が少ない。	遊びなし	ゆとりなし	
幼　児	178	実習やテストで忙しく自分の時間が持てない	多忙	ゆとりなし	
	180	短教は忙しい！	多忙		
	186	授業がつまりすぎてしんどくなる。もっと余裕を持って取り組みたい。	詰め込み	ゆとりなし	
	188	忙しい	多忙		
	190	忙しい	多忙		
	191	２年の後期にいろいろつめこみすぎる。	詰め込み		
	192	時間がない	多忙		
	195	忙しい。	多忙		
	196	ハードスケジュール	多忙		
	197	忙しいこと。	多忙		
	203	ゆとりがない（夏休み）。実習の期間を変えてほしい。	ゆとりなし	実習	
	204	社会に出るのが早い	社会		
	206	就職について考えたり、よくえらぶ時間がない。忙しい。	就職	ゆとり	多忙
	211	短い	短期間		
	228	あっという間すぎるし、できないまま時間が過ぎることも多いように思ったこと。	短期間	未消化	
	230	忙しい	多忙		
	234	スケジュールがつまりすぎて就活がしにくい。	多忙	就職	
	237	いそがしい	多忙		
	242	長期の休みがない。	長期休暇		
	249	授業が多すぎて休む時間がないこと	詰め込み	ゆとりなし	
	261	時間がなく勉強に追われ、クラブ活動などあまり参加できない。	多忙	クラブ活動	
	262	授業が詰まっていて大学時代にしかできないアルバイトやボランテイアに参加できないこと。	詰め込み	多忙	課外活動
	264	時間割がつまっている。	詰め込み	時間割	
	266	早すぎて遊べない。	短期間	遊び	
	267	忙しい	多忙		

学科	No.	意見内容	キーワード		
幼　児	269	自由満の先生	教員		
	270	時間にゆとりがない。ハードスケジュール。	ゆとり	多忙	
	275	お金が高い	学費		
	280	スケジュールがつめつめ	詰め込み		
	281	ゆっくりとできる時間があまりもてない	ゆとり		
	282	時間がない	多忙		
	283	時間がまったくない！！	多忙		
	284	忙しすぎる‥。	多忙		
	285	時間に追われる	ゆとりなし		
	286	長期休暇が少ない	長期休暇少		
	290	いそがしい。特に２年の夏～秋にかけて‥就活ができない	多忙	就職	
人　間	291	２年間で４年間分やらなければならないので、自分の時間の余裕が持てない。	短期間	ゆとり	
	292	使える資格がない	資格		
	293	期間が短くあわただしい	短期間	多忙	
	295	学べる期間が少ない。	短期間		
	296	１つのものに集中して勉強できない	学び難		
	301	期間が２年間だから短く感じることもある	短期間		
	302	２年間という短い期間で卒業してしまうこと	短期間		
	304	就活で苦労する。『私』じゃなくて『短大』という名前だけで落とされるから。	短大求人枠		
	305	あそぶじかんがすくない	遊び少		
	309	学生生活が短い。	短期間		
	311	求人の制限に引っかかる。	短大求人枠		
	314	４年生には、勉強量はかなわない。	勉強量		
	315	２年間という短い期間で単位をすべて、取得しなければいけない事	短期間	単位	
	317	就職先が限定されてくる。	短大求人枠		
	322	短すぎてやることがたくさん残る。４年制のようにゆっくり物事をすすめられずおおざっぱになってしまう。	短期間	ゆとりなし	
	323	大手企業にエントリーすらできないこと	求人枠		
	326	つめこみ教育になってしまう。	詰め込み		
	327	あっという間に２年がたち、毎日とても忙しくてゆっくり学生生活が送れない。	短期間	ゆとり	多忙
	328	学べる科目が少ない。	授業内容少		
	330	すぐ社会に出ないといけない。	社会	短期間	
	331	２年だけなので将来についてしぼりこめない。	短期間	将来	
	332	時間によゆうがない。	多忙	ゆとりなし	
	337	短大不可の企業も有る。	求人枠		
	339	学校以外で自分の時間を使うことがむずかしい。	ゆとりなし		
	341	実習などをする時間がない。（講義が多いので）	実習	カリキュラム	
	342	就職活動は積極的に紹介があるが、編入に関する紹介が少ない。	編入		
	343	４年制の方が、ゆっくり就職のことなど考えられると思います。	就職	ゆとり	
	348	就職で大卒が多いこと。	短大求人枠		
	350	就職先が限られる。仕事にいかせる資格をあまりとれない。	短大求人枠	資格	
	359	学べる時間が短いこと。	短期間		
	360	あっという間に時間がすぎてしまうこと。	短期間		

学科	No.	意見内容	キーワード		
健スポ	1002	２年間と短いので、忙しい気がする。	短期間	多忙	
	1005	思い出づくりが少ない	思い出		
	1007	取れる資格が少ない	資格少		
	1008	授業が少しハード	授業多い	多忙	
	1009	いそがしい。	多忙		
	1013	卒業するまでの時間が短い。	短期間		
	1014	みんなといる時間が２年間しかなく短く思える。	短期間		
	1017	忙しい。	多忙		
	1022	短すぎる	短期間		
	1025	教育実習中公欠で試験で容赦ないこと	カリキュラム		
	1026	就職活動をもっと責極的に指導してほしい	就職指導		
	1028	短かすぎる。 就活があっという間にきて、出おくれてしまった。	短期間	就職	
	1033	期間が短いので単位などが大変	短期間	単位	
	1040	専門的なことが詳しく学べない	専門性		
	1046	授業などがつめてあり、いそがしい。	詰め込み	多忙	
	1047	４大よりもつめてやらないといけないから、大変！	詰め込み		
食生活	1061	入学してから就職活動の時期などが非常に早くやりたい仕事が定まらない。	短期間	就職	社会
	1062	あまり遊ぶ時間がない。	遊び		
	1065	時間に余裕がないので、4大の方が様々な経験ができる。	ゆとり	経験	
	1066	忙しいので、自分の時間があまりない。帰りが遅くなることが多い。	多忙	帰宅時間	
	1067	やっぱり就職の際に差がでる。給料など職種にも限りがある。	求人枠	給料差	
	1068	覚えることが多くて大変。	勉強量		
	1071	授業がつまっている。	詰め込み		
	1072	２年間では短い。	短期間		
	1076	２年の間につめこみ式の勉強をするためゆとりがない。	詰め込み	ゆとりなし	
	1077	２年で期間が短く、忙しい。	短期間	多忙	
	1078	就職に不利。	就職		
	1081	あまり深くは学べない。	学び		
	1082	大学に比べて初任給が少ない。大手の企業には就職しにくい。	就職	給料差	
	1085	“学生生活に物足りなさがある。(２年という短かさ) 授業が忙しい。(十分に理解できない)”	短期間	多忙	積み残し
	1086	授業が忙しくてあまり就職活動ができない。	多忙	就職	
	1098	つめこみ型すぎる	詰め込み		
	1100	授業の早さについていけなかったり、本当につめこみだと思う。 毎日が授業ありすぎてしんどい。テストも多い。	授業内容	詰め込み	多忙
	1105	多忙。就職活動まで間がない。	多忙	就職	
	1109	短大は４大に比べて、学生生活にゆとりがなくて、忙しい。	ゆとりなし	多忙	
	1110	授業が詰まっている	詰め込み		
	1111	授業数がどうしても多くなる。	詰め込み		
	1112	授業がつまっていて、朝がつらい	詰め込み		
	1116	授業がつめこみである。就職難	詰め込み	就職	
	1119	授業がつめこまれている感じがする点。	詰め込み		
	1124	忙しい！！	多忙		
	1125	時間割が大変だった	詰め込み		

学科	No.	意見内容	キーワード		
食生活	1129	時間がつまってる。	詰め込み		
	1131	時間がなさすぎる	多忙		
	1138	就職に不理	就職不利		
	1139	早い！	短期間		
	1144	時間が短いために、大学生活を楽しむ時間も短い授業がつまっているため、落としたとき大変	短期間	ゆとり	詰め込み
	1145	２年間という短い期間で専門的なことを学ぶのは大変。	短期間	専門性	
	1147	授業が詰まっていて忙しい	詰め込み	多忙	
	1149	世間での風あたりがよくない	世間の評価		
	1157	知識の幅がせまくなる	知識		
	1158	試験が大学と比べて不利になる	就職		
	1164	他の学科の人との関わりの時間が持ちにくい。	他学科交流		
	1165	就職とかは４年を出た方が有利かなと思う	就職		
	1169	余裕がない	ゆとりなし		
	1174	授業がつまってて大変。	詰め込み		
造　形	1184	忙しい。	多忙		
	1193	就職先が４年制からいると限られてくる。	求人枠		
	1194	忙しい。	多忙		
	1196	かけ足で授業をうけるので、身につきにくい。	学び		
	1198	短大卒を採用していない企業が多い。	求人枠		
	1199	忙しい。準備ができてないまますぐに就活が始まる。	多忙	就職	
	1200	専門的なことばかりで、幅広い知識を得られない。	知識		
	1203	充実感がない。	充実感		
	1205	忙しい。他業界でも就職率が良い。	多忙		
	1206	授業が多い。	詰め込み		
	1209	忙しい	多忙		
	1214	２年間で短いため、ゆっくり理解する時間が少ない	短期間	理解不足	
	1215	受講がたいへん	詰め込み		
	1216	就職するときに、短大卒を募集していないところが多かった。	求人枠		
	1217	就職募集が４年制大学の方が有利だと思う。	就職	短大求人枠	
	1222	時間割がハード。	詰め込み		
	1224	少し忙しいかなと思う。	多忙		
	1225	就職の時、給料が４万くらい違う。	給料差		
	1228	時間割が辛い。	詰め込み		
	1230	あっという間だった。	短期間		
	1231	高校卒業してから社会に出るまでの期間が短い	短期間	社会	
	1240	就職が不利	就職不利		
	1248	専門性に欠ける	専門性少		
	1260	２年間は短い	短期間		
	1265	就職で給与が大学生よりも安いこと	給料差		
	1266	授業中でもしゃべっている所。	私語		
	1271	２年の前期は就職活動もしながら大学生よりも多い授業をこなさなければならないところ。	就職	多忙	
	1272	大学に比べて忙しい‥。	多忙		
	1282	短い分、内容が浅い。	短期間	学び不足	
	1283	あっといまに社会人にならなければならない。	短期間		
	1284	授業内容が大学よりも薄い。	授業内容薄		
	1288	あまり時間がなく、あまり詳しく習えない。	短期間	学び不足	
	1289	授業内容がつめこまれつぎていて大変	授業	詰め込み	

資料６　企業調査・自由記述

大学側は、学生を社会に送り出すことだけに終わり、社会人となった後の卒業生の様子をあまり知らない。送り出した後には関心が薄れるということもあろうが、知りたくてもその実態を知ることは難しいのが現実である。本調査においては、卒業生が働く職場の担当者から貴重な声を聴くことができたのであり、社会に出た短期大学部の卒業生がどのように働き、それがどう評価されているかを大学関係者に広く知ってもらうためである。ここに示した自由回答には、採用者側のリップサービスが入っているかもしれないし、指摘されている長所や短所は本学での教育や学生生活で身に付いたものだとは限らないことの方が多いかもしれない。そうであっても、彼女たちは「武庫川」の卒業生という看板を背負って働き、評価されているのであり、そこには「武庫川」で身に付けたことが何らかの形で反映されていると考え、真摯に受け止めるべきだろう。職場からの卒業生に対する評価から、社会人となった彼女たちの実態を知ってもらうとともに、今後における大学での教育の課題が検討される材料になることを期待して、友田教育研究所長がこのまとめを企画した。

資料６は 2007年７月～８月に行った企業アンケートの結果の一部で、３部から構成される。

ここに示した資料は、アンケートの中で尋ねた次のような自由記述である。

「Q10　近年の武庫川女子大学短期大学部卒業生について、お気づきの点（他の短期大学卒業生と比較してお気づきになられた特長、長所・短所など）をできるだけ具体的にご記入ください。」と尋ね、その後に「特長」「長所」「短所」と書き込んだ自由記述欄を設けた（資料１参照）。

三項目それぞれにおいて、記述内容をカテゴリーに分け、記述内容を整理して示した。**資料６－１**は**「長所」**に関する自由記述で、これにはカテゴリー間の関係を示した図も付け加えている。**資料６－２**は**「短所」**に関する自由記述、**資料６－３**は**「特長」**に関する自由記述をまとめたものである（なお、自由記述のカテゴリー分けの検討については、教育研究所長の友田泰正教授、助手の末吉ちあきさんとともに行った。末吉助手にはキーワードの抽出から表の作成まで、たいへん骨の折れる作業をしていただいた）。

・長所：「明るい、元気」といった点を長所として指摘する声が最も多く、特に企業においてその傾向が強い。続いて多いのは「素直、まじめ」といった評価で、これは幼稚園・保育所からの回答で多くなっている。その他、「しっかり、頑張り屋」「意欲的、前向き」「しつけ、マナー」といった点が、本学短大卒業生の長所として捉えられている。

・短所：「向上心・意欲に欠ける、おとなしい」および「柔軟性、忍耐力の不足」との回答が最も多く、企業と幼保に共通している。続いて「常識がない、マナーがよくない」で、特に企業からは厳しい声がある。さらに、「専門的技量不足、仕事覚えの悪さ」が企業からあり、「おとなしい」という評価とも関連するが「リーダーシップ不足」との評価もあった。

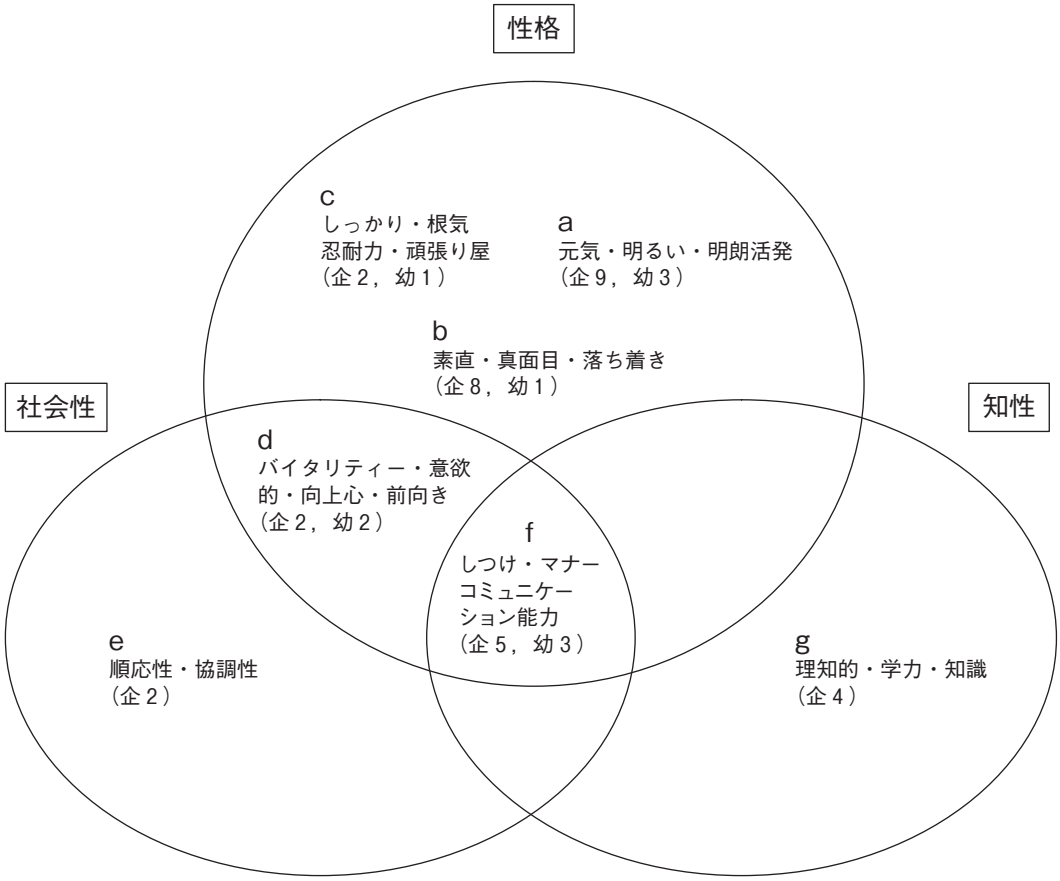
（「特長」については省略）

資料６－１　企業調査・自由記述１：企業から見た武庫川女子大学短期大学部卒業生の長所
全体66件（企41件、幼・保25件）

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
性格	a 元気 明るい 明朗・活発 （計12件）	企業 ９件	元気のある学生が多い。	元気	○					
			明るい子が多く、気持ちのいい学生が多い。	明るい	○					
			元気で明るいし、仕事に対しての意欲が感じられる。目立つ存在である。	元気・明るい・意欲	○			○		
			明るく素直で協調性がある。	明るい・素直・協調性	○	○			○	
			明るい雰囲気を持つ、協調性、マナーが身についており、誰とでも人当たり良く接する事が出来る点。	明るい・協調性・マナー	○				○	○
			電話応対等、すぐに慣れきちんと取次が出来ている。明るくあいさつができる。基本的ルーチンワークの習得は非常に早かった。	明るい	○					
			・明るく協調性のある方が多いので、職場に馴染みやすく評価が高いです。・入社後教育etcでは指示を含め、素直に受け止め頑張ろうとする姿勢は周りにも好影響を与えます。・環境への順応性は高いと思います。	明るい・協調性・素直・順応性	○	○			○	
			明るい雰囲気をもっている。	明るい	○					
			・とにかく明るい（事務所の雰囲気が変わった）・誰にでも気後れすることなく接している・何事にも積極的に取りくんでいる	明るい・積極的	○			○		
		幼保 ３件	明るく何でも吸収しようとする努力。	明るい・努力	○		○			
			明るく、コミュニケーション能力もあり、反応も適格。	明るい・コミュニケーション能力	○					○
			常に明朗活発で行動を起こされる前に思考されます。他の職員とも、とても良く馴染んでおられ、コミュニケーションをとられるのに富んでおられます。	明朗活発・コミュニケーション	○					○
	b 素直 真面目 落ち着き （計９件）	企業 ８件	素直なので、アシスタント業務には最高。	素直		○				
			真面目。	真面目		○				
			真面目で素直な人の割合が相対的に多いというのが実感です。	真面目・素直		○				
			真面目で芯がしっかりとした方が多いと思います。	真面目・芯がしっかり		○	○			
			落ち着いた行動、考え方。	落ち着き		○				
			素直で明るく、礼儀正しい方が多い。職場の雰囲気にも早く溶け込み、協調性もある。	素直･明るい･礼儀正しい･協調性	○	○			○	○
			知識はしっかりして素直で、のみ込みが早く、明朗活発で、２名ともすばらしい人材を採用させて頂き、ありがとうございます。	素直・明朗活発	○	○				
			真面目に仕事に取り組む姿勢は良いと思います。	真面目		○				

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
		幼保 1件	8年目、おとなしい性格だが仕事がきっちりとでき、何を任せても安心していられる。3年目、元気で前向き。乳児クラスを任せている。1年目、真面目に何事にも取り組んでいる。	きっちり・元気・真面目	○	○				
	c しっかり 根気 頑張り屋 （計3件）	企業 2件	態度、言葉遣い等に「しっかり教育されている」という印象を受ける。	しっかり			○			
			本年採用者以前は、根気があり採用して良かったと思える人材だった。	根気			○			
		幼保 1件	頑張り屋さんです。自分の意志を通す。（人にもよりますけれども）	頑張り屋			○			
社会性	d バイタリティー 意欲的 （計4件）	企業 2件	テキパキとした動きとバイタリティーを感じます。	テキパキ・バイタリティー				○		
			色々と学内セミナーに（他大学・短大）伺いましたが、就職（働く）することに対しての意識（意欲）は高い学校だと思います。	意欲				○		
		幼保 2件	本年で2年目ではありますが、後輩への優しさも持つ中、先輩としての姿勢についても、意欲を高めているように伺えます。	意欲				○		
			他の短期大学卒業生との比較ではなく（他が劣っているわけではない）仕事に対する意欲もあり、取り組みの姿勢や態度も優れている	意欲・取り組む姿勢や態度				○		
	e 順応性 協調性 （計2件）	企業 2件	職場に順応し、協調性がある。	順応・協調性					○	
			協調性、コミュニケーション能力に優れている。	協調性・コミュニケーション能力					○	○
	f しつけ マナー コミュニケーション能力 （計8件）	企業 5件	業務態度は良好で、仕事の覚えも早い。挨拶は進んでできる。身だしなみがよい。	業務態度・仕事の覚え・挨拶・身だしなみ						○
			一般常識やマナーなど、いわゆる「しつけ」の部分がしっかりとされている印象があります。	しつけ						○
			周りの従業員と積極的にコミュニケーションをとれていると思います。	コミュニケーション						○
			一般常識・礼儀等が長けています。	常識・礼儀						○
		幼保 3件	武庫川女子大学卒業生というのではなく、個人の性格だと思います。挨拶をするということは当たり前のことですが、それができない人が多くなっていると思います。その中で自分から大声でできることはいいことだと思います。また、すぐに「すみません」「有難うございます」の言葉がでてくるのは、家庭でのしつけが行き届いていることだと思います。	挨拶・しつけ						○
			他の学校の卒業生と比較して育ちが良いと感じている。	育ち						○
			責任感がある。コミュニケーション能力がある。※1名しか採用しておりませんが。	責任感・コミュニケーション能力						○

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
知性	g 理知的 学力 知識 （計４件）	企業 ４件	他大学と比較して非常に理知的なイメージがあります。	理知的						○
			基礎的な学力水準が高く、信頼できる。	学力水準・信頼						○
			学力的に優れている方が多い。	学力的						○
			基本学力、知識を身につけている。	学力・知識						○



＊企は企業、幼は幼稚園と保育所を表す。数字は意見の数を示す。

図　本学短期大学卒業生の職場での長所（2007年調査より）

資料６－２　企業調査・自由記述２：企業から見た武庫川女子大学短期大学部卒業生の短所
全体44件（企業25件、幼・保19件）

分類	業種	記入内容	キーワード
向上心・意欲に欠ける 自主性不足 おとなしい のんびりしすぎる （計９件）	企業 ６件	今の自分に満足しているのか、向上心、意欲に欠けていると思われる。	向上心・意欲
		コミュニケーション能力が低い。無気力。自主性不足。最近（'06）の入社した者です。	コミュニケーション能力・無気力・自主性
		失敗やうまくいかない事例にぶつかると、そのままネガティブな思考に陥る事が少なくないように思われます。	ネガティブな思考
		若干向上心に欠ける。	向上心
		ややおっとりとした感じの方が多く見受けられます。（入社後の取組み姿勢は徐々に向上してきてますので、特に大きな問題ではありませんが） もう少し専門分野への関心、こだわりを持ってもらえると良いと思います。	おっとり・関心・こだわり
		落ち着いているので、一見若さが感じられない印象があります。（決してそうではありませんが）	若さ
	幼保 ３件	のんびりしすぎて、仕事が遅くなる時がある。	のんびり
		おとなしすぎて、保育園向きでない。子供をまとめる事ができず、クラス担任を持つ事ができない。	おとなしい
		まだ１名なので大学の特長かどうかは分かりませんが、又他大学生も同じですが、仕事に対する意欲に大きく欠けています。	意欲
専門的技能不足 実践力不足 仕事の効率悪い 仕事の覚えが遅い （計４件）	幼保 ４件	専門的技能のより一層の習得。	専門的技能
		新任の時に短大で学んだ事がすぐに実践として表れて来ない傾向があるので、実習等子どもと触れ合う機会を増やして実践力をつけて頂きたい。	実践力
		すごくスローペースで一つのことに時間がかかりすぎて仕事の効率が悪い。性格的には協調性がある方だと思いますが、仕事面では理解できないことが多く、何度も同じ失敗を繰り返し、その都度確認したり、周りの仕事量や負担が大きくなっている。責任感が薄く、誤字、脱字が多く、書類や事務的な仕事ができない。掃除や片付けができない。ピアノが苦手。	スローペース・失敗・誤字脱字・責任感・事務的な仕事・掃除・片付け・ピアノ
		覚え込むまで、時間がかかり過ぎる。	時間
生活能力に欠ける （計１件）	幼保 １件	もう少し生活能力を身につけること。（これは大学で教えるべきものではなく、家庭でのしつけである）＝炊事、洗濯、家事、清掃、整理整頓がきっちりとできること。	生活能力
リーダーシップ 不足 （計４件）	企業 ３件	リーダーシップが少し不足かな？と思います	リーダーシップ
		リーダーシップの面で、他の短期大学卒業生と比較して、劣っていると思います。	リーダーシップ
		比較的物静かな方が多くリーダーシップ能力にかける。	リーダーシップ
	幼保 １件	リーダーシップをより一層発揮して頂けると、尚、教育者としての向上につながります。	リーダーシップ

分類	業種	記入内容	キーワード
常識を理解していない マナーが良くない （計６件）	企業 ５件	社会人としての言葉遣いが出来ない場合がある。一般常識を理解していないと感じられる場合がある。	言葉遣い・常識
		専門的な知識、一般的な常識にやや欠く	知識・常識
		目立って周囲にかわいがられる反面、「親しき仲にも礼儀あり」というぐらいにマナーに注意できればなお良い。	マナー
		少しハデな者がいる。	ハデ
		卒業後、社会人としての経験が浅いため仕方のない事とは思いますが、社会人としての人との接し方、言葉の使い方については今後身につけていってもらいたいと思います。	人との接し方・言葉の使い方
	幼保 １件	今時の学生さんなので、どこでもそうですが、採用試験に来られる方の中には歩き方や身のこなしが少しだらしない方もおられました。（ペタペタ歩きなど）	歩き方・身のこなし
コミュニケーション不足 （計２件）	幼保 ２件	もう少しコミュニケーション力を広げられると、保護者との信頼関係も深まることでしょう。	コミュニケーション
		御学に限りませんが、明るく自然なコミュニケーションがとれる方の割合が、四大生対比少ないように感じます。	コミュニケーション
柔軟性不足 忍耐力不足 協調性不足 （計９件）	企業 ４件	思考の柔軟性がほしいです（個人差があると思います）	柔軟性
		忍耐力のなさ。	忍耐力
		打たれ弱い。	打たれ弱い
		忍耐力、協調性にやや欠ける。	忍耐力・協調性
	幼保 ５件	柔軟性に少々かける。こうでないとと思うと変更がききにくい。自分の思っていることと違う時、ゆずれない感じをうける。	柔軟性
		少し固い印象があります。	固い
		忍耐力をもって、努力することを嫌う。目先の利益にとらわれ、長期的な目標を持とうとしない。	忍耐力・努力・長期的な目標
		もう少し周りの様子を把握し、全体的に関われる様になって欲しい。	周りの様子の把握・全体に関われる
		協調性が少し足りないように思う。	協調性

資料６－３　企業調査・自由記述３：企業から見た武庫川女子大学短期大学部卒業生の特長
全体88件（企54件、幼・保34件）

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
性格	a 元気 明るい 明朗・活発 （計19件）	企業 17件	十数年来貴学の卒業生を採用して来ました。現在本社（大阪市）に在籍の女子社員は全て武庫川学園卒です。非常に明るく、活発な方で大変満足しています。今後も貴学園を採用したいと考えております。	明るい・活発	○					
			貴大学卒業生の特長と言えるかどうか疑問ですが、概して明るく素直であると感じています。弊社関西支店の女性社員は今後とも貴校卒業生を中心にと考えております。	明るい・素直	○	○				
			他の短大生との比較はできませんが、本年４月に貴校の○○○さんに入社していただきました。性格的にも明るく、非常にしっかりしておられます。同期入社は全て４年制大学の方ですが、気おくれすることもなく、前向きに業務に取り組んでいただいています。	明るい・しっかり・前向き	○		○	○		
			元気で物怖じしない明るい意欲が感じられる。周囲よりかわいがられる。	明るい・意欲	○			○		
			明るく元気な方が多いと思います。	明るい・元気	○					
			明るく元気で素直である。	明るい・元気・素直	○	○				
			明るく積極的な人物	明るい・積極的	○			○		
			本年07年04月は貴校様初めての採用。（短大）一般職として２名、明るく大変素直、好感が持てる。初めての採用でもあり、現時点では判断できない。今後共よろしくお願い致します。	明るい・素直・好感	○	○				
			明るく素直で協調性がある。	明るい・素直・協調性	○	○			○	
			明るい雰囲気を持つ、協調性、マナーが身についており、誰とでも人当たり良く接する事が出来る点。	明るい・協調性・マナー	○				○	○
			明朗活発	明朗活発	○					
			明るく元気に就業していただいています。	明るい・元気	○					
			明るく協調性のある方が多いので、職場に馴染みやすく評価が高いです。入社後教育etcでは指示を含め、素直に受け止め、頑張ろうとする姿勢は周りにも好影響を与えます。環境への順応性は高いと思います。	明るい・協調性・素直・順応性	○	○			○	
			2007年度採用の３名は、それぞれ性格は異なりますが、顧客と接する時の明るい雰囲気は、３名とも優れていると思います。	明るい	○					
			基本的に明るい。	明るい	○					

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
性格			真面目で明るく元気良く、勤務してもらっています。他の社員とのコミュニケーションも取れる方とも思います。業務に対する意欲も十分あるかと思います。反面、おとなしいと見られがちで、他の社員と競うようなケースで損をする場面があるかもしれません。	明るい・元気・コミュニケーション・意欲	○			○		○
			明るく元気で協調性がある学生が多いです。	明るい・元気・協調性	○				○	
		幼保 2件	明るく協調性がある方が多い様に思います。仕事にも積極的に取り組まれてると思います。	明るい・協調性・積極的	○			○	○	
			この4月から1名保育士として勤務していただいております。社会人としても、1年生で大変なことも多いようですが、笑顔を絶やさず元気に子供たちと関わってくれております。感謝しております。	元気	○					
	b 素直 真面目 落ち着き (計15件)	企業 6件	礼儀正しく、素直な点	礼儀正しい・素直		○				○
			何事にも真面目に取組む姿勢があり、上司の評判が大変良い。	真面目		○				
			わりと真面目な学生が多く、仕事も任せられる。	真面目		○				
			日常業務への取組み姿勢は一生懸命であり、評価できます。また、性格的にも素直であり、職場の規律を守り、組織の中で順応して仕事に取組んでもらっております。当社では、総合職をフォローする事務職という位置付ですが事務職という枠にとらわれず、更に向上心と積極性をもって取組んでいただければよりよくなると感じます。育成の仕方いかんでは、更に伸びる可能性を秘めた人材だと思っております。	一生懸命・素直		○				
			地道にコツコツと仕事をこなしていく方が多い。	コツコツ		○				
			素直であり、職員職場環境への適応が早い。	素直・適応		○			○	
		幼保 9件	2年間でもしっかり教育して下さっているので、実技や専門も身についている。保育に対するまじめな姿勢も見られる。	真面目		○				
			実習にこられた時に感ずるのは、しっかりしているという印象です。礼儀を始め、提出物など正確に伝達したことをうけとめ、真面目な印象を持つ方が多いです。	しっかり・礼儀・真面目		○	○			○
			保育に対して真面目ですが、決して協調性に欠けるという事はなく、気付きの多い方です。	真面目		○				
			現在、当園に勤務しております貴校の卒業生(8年目、3年目、5年目(大卒)、1年目)はとても真面目で頼りになる存在です。	真面目		○				
			特に武庫川女子卒業生にあてはまる特長というのではなく個人的なものですが、まじめで向上心がある人が多いです。	真面目・向上心		○		○		

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
性格			本園は真面目で礼節のある方を望んでおり、採用の際も重点をおいてます。ただ試験の際は、いろいろなタイプの方が来られますが、全体的に保育士希望の方は、真面目だと感じられます。	真面目		○				
			とても良い雰囲気をお持ちで、向上心に基づき、素晴らしい感性を活かされており、申し伝えました事に対してなどは、特に他の短期大学卒業の職員と比較致しますと、理解されるのが早い。	良い雰囲気・向上心・理解		○		○		
			毎年ご縁がある訳ではありませんが、採用に至った方はマナー良く、言葉遣い、身だしなみなども感じが良く、長く勤務して下さるので、武庫川女子短のイメージもとても良いです。	マナー・言葉遣い・身だしなみ・長く勤務		○				
			勤務態度が真面目で、且つ前向き姿勢で指導を受けた事を受け止めている。また、取り組みも積極的であり、努力している。	真面目・前向き・積極的・努力		○	○	○		
	c しっかり 忍耐力 頑張り屋 （計９件）	企業 ３件	考え方がしっかりしており、能力がある。	しっかり・能力			○			
			軽々しい雰囲気の方は少なくて、知的でしっかりとした方が多い印象です。	知的・しっかり			○			
			スポーツ学部があり、体育系のガッツのある学生が採用できる	ガッツ			○			
		幼保 ６件	個人の評価になってしまい失礼があるかもしれませんが、忍耐力もあり、子供たちを温かく見守って職務にがんばられています。	忍耐力			○			
			中、高よりクラブ活動を続け、人間関係において縦のつながりをしっかり意識し、又、忍耐力も持っている。何かを通して全力で打ち込む意欲に優れている。	忍耐力･意欲			○	○		
			ひかえめであるが芯は強い。	ひかえめ・芯が強い			○			
			努力家であると思います。	努力家			○			
			自分で就職活動をしているだけに、とても根性がある。１人だけしか卒業生がいないが、落ち着いて行動して、好感がもてます。	根性・落ち着き		○	○			
			地味にコツコツする。ピアノ上手。	コツコツ			○			
社会性	d 意欲的 向上心 前向き （計８件）	企業 ３件	基本的なマナー、言葉遣いに優れていらっしゃり、弊社に勤務中の者も、大変意欲向上心をもって仕事に取組んでおりますので好印象をもっております。	マナー・言葉遣い・向上心				○		○
			他の短期大学卒業生との違いというより、個人により個性を感じる。2007年は２名の方に入社頂いたが、それぞれの持ち味で積極的に仕事に取り組んで頂いている。	積極的				○		
			自己主張、表現力が豊かで、何事にも前向きで忍耐力のある学生が多い。また、コミュニケーション力に優れている。	前向き・忍耐力・コミュニケーション力				○		○

領域	分類	業種	記入内容	キーワード	a	b	c	d	e	f
社会性		幼保 5件	能力があり、意欲的である。	能力・意欲的				○		
			武庫川を卒業した職員2名います。2名の職員ともに前向きに取り組んでいます。	前向き				○		
			久しぶりに貴大学の学生さんを採用しましたが、とてもはきはきと気持ちのよいあいさつをし、熱心に向上心をもって保育をしています。今後の活躍を期待しているひとりです。	熱心・向上心				○		
			性格が優しく、控え目で、人とのコミュニケーションをも大切にし、物事を前向きに取り組んでいっております。	コミュニケーション・前向き			○	○		○
			弊社の講師が貴大学短期大学部卒業です。専門分野の知識も深く、向上心に長けています。貴大学の教育方針が鏡となり卒業生に反映されます事を切に願い、今後積極的に採用したいと思います。	知識・向上心				○		○
	e 順応力 (計1件)	企業 1件	少しおとなしいが、実作業になると順応力が高いと思います。	順応力					○	
	f しつけ マナー コミュニケーション能力 (計8件)	企業 6件	全体的な特長は、上品さと礼儀正しさが同居している様な感じがします。	上品・礼儀正しさ						○
			態度、言葉遣い等に「しっかり教育されている」という印象をうける。	しっかり						○
			礼儀、マナーがしっかりしており、面談でもしっかりとした受け答えのできる学生が多い。	礼儀・マナー・しっかり						○
			規律やマナーについては他大学より厳しく教育されている。その他については、個人差があるので、一般論としては言いにくい面があります。	規律・マナー						○
			スポーツウーマンとして規律正しさを感じます。	規律正しい						○
			採用試験の面接時におきまして、他の短期大学生と比較すると、コミュニケーション能力他全般に優秀であると感じます。(表現はしづらいですが、これが大学のカラーでしょうか。)	コミュニケーション能力・優秀						○
		幼保 2件	※大勢の卒業生をみているわけではないので、個人的な見方かもしれません。礼儀正しく、誠実	礼儀正しい・誠実						○
			清楚である。	清楚						○
知性	g 学力 (計3件)	企業 2件	基礎的学力を備えている。	基礎的学力						○
			大変優秀な学生が多く、大変感謝しております。	優秀						○
		幼保 1件	現在、貴大学出身者4名を採用しております。他大学採用者と比較致しますと、全ての面におきまして一番水準が高いと感じています。今後も採用等お世話になるかとは思いますが、その折にはよろしくお願い申し上げます。	水準が高い						○

女性のキャリアと金融リテラシー
－スミス・カレッジの金融教育からの示唆－

Women's Career and Financial Literacy:
An Implication from the Financial Education at Smith College

西　尾　亜希子*

NISHIO, Akiko

目次

1．はじめに
2．女性の金融リテラシーの重要性
3．日本人女性の現況（2010年現在）
4．アメリカ人女性の現況（2010年現在）
5．スミス・カレッジにおける金融教育
6．おわりに

*武庫川女子大学教育研究所・研究員、共通教育部・講師

1．はじめに

個人の生き方は政治や経済の影響を免れない。例えば、長引く不況の影響で、若年層をはじめとする全年齢層における非正規雇用化が進行しており、大卒者の就職も難しくなっている[1)]。一方で、2010年に第一子出産前後に退職した女性の割合は66.5% にのぼった（内閣府 2011，80ページ）。働く女性が就業を継続しやすい環境が整ってきているとはいえ、女性が出産前後に就業を継続することが実に困難な状況にあるためである。ただ、これらの女性が皆、就業継続の意志に反して辞めざるを得ない状況にあるというわけではない。高橋（2008）によれば、結婚や出産を機に退職する女性には大きく分けて２タイプある。１つは、それほど仕事に執着しないタイプ、もう１つは、結婚や出産をする前と同じような働き方が不可能になるタイプである。前者を「本意退職タイプ」、後者を「不本意退職タイプ」と呼ぶことも可能だろう。「本意退職タイプ」の場合、その多くは「子どもが小さいうちは母親の手で」という思いを持ち、仕事を辞めるリスクについてほとんど考えていない。女子学生をはじめとする若年女性の間でも出産後は育児に専念することを望む者は決して少なくなく、「本意退職タイプ」の予備軍となっている。

そのような背景には、社会では家事は労働とみなされるようになり、外注化も認められるようになってきたが、育児はあいかわらず母親の「愛の奉仕」であり、労働と感じることが許されないことや（瀬地山1996）や、「本意退職タイプ」の女性の多くもその考え方を内面化していることがある。同時に、このような女性の多くは、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業観（性別役割分担意識）を持ち、家事や育児については、主たる担い手として引き受ける覚悟はあっても、主たる稼ぎ手は当然将来の配偶者（夫）であると考えている。結婚後に働くとしても、それは小遣い稼ぎか家計の補てんを目的とするものであって、自らの経済的基盤を築くことの必要を感じてのことではない。

女子学生に限ってみても、学卒後の就職先については、企業の知名度や規模などに強い関心を示す者は多いが、将来経験し得る結婚、出産、育児、介護などと仕事のバランスをどのように図るかということまで考える者は少ない。子どもを産み、育てることを女性としての最優先課題と捉えたり、結婚後の主たる稼ぎ手を将来の配偶者と考えたりすることが影響しているのである。薬剤師や管理栄養士を目指す「資格志向」の強い学生でも「出産や育児のために仕事を辞めても再就職しやすい」と考える者が少なくなく、「本意退職タイプ」はかなり存在する[2)]。

アメリカの数々の研究は、程度の差はあっても似たような状況が今日のアメリカ人女性の間でも見られることを報告している。また、アメリカ合衆国国勢調査局（U. S. Census Bureau）の調査によれば、アメリカ人女性の平均寿命、世帯類型別所得、貧困率、就労状況は日本人女性の場合と酷似している。このような状況について、アメリカの大学はど

のように受け止め、どのような教育を行っているのだろうか。

アメリカ屈指の有名女子大学、スミス・カレッジ（Smith College）は、2001年に「女性と経済的自立センター（Center for Women & Financial Independence）」を創立し、女性の経済的自立を促すための「金融教育」を実践している。後述するように、1990年代後半以降、女性の社会進出が進み、自身や家族、さらにはコミュニティに負う経済的責任が大きくなってきているにもかかわらず、女性の意識がそれに伴っていないことを報告する研究が相次いで発表され、その動きを受けてのことと推測される。そうであるならば、わが国の大学がそのような研究やスミス・カレッジの教育実践から得られる示唆は大きいのではないか。

そこで本稿では、わが国の女子学生が社会に適応した生き方について主体的に考え、行動する能力を養うことを可能にする教育のあり方について検討するために、アメリカの先行研究を概観し、スミス・カレッジの女性の自立を促すための教育実践について考察することにより、わが国の大学教育への示唆を得る。

2．女性の金融リテラシーの重要性

経済のグローバル化、社会の少子高齢化、人々の非婚化、離婚に伴う母子世帯の増加など、女性を取り巻く環境が急速に変化している。さらに、1990年代後半以降、長らく続く不況の下、経済的に養ってくれる「チャーミング王子（Prince Charming）」（Anthes and Most 2000）をみつけてゴールインすることは容易ではなくなってきている。また、ゴールインできたとしても夫の収入減や失業のリスクは高くなってきており、生涯安泰というわけにはいかない。女性は自らの経済的基盤を築くことや金融リテラシー、すなわち「必要な金融の知識や情報を取得し、金融を主体的に判断できる能力」（ゆうちょ財団 2008）を習得することが必要になってきているのである。また、Martinez（1994）によれば、男性より、むしろ女性の方こそ貯蓄をしたり、計画性を持って行動したりすることが重要である。なぜなら、女性は男性に比べて、⑴長寿であること、⑵稼ぎが少ないこと、⑶転職を繰り返す傾向にあること[3)]、⑷仕事をしたり、しなかったりと変化が激しいこと、⑸退職金が少ないこと、⑹出産・育児などの理由により退職する傾向があること、⑺配偶者の転勤によって仕事（および福利厚生）をあきらめる側になりやすいこと、⑻退職後の計画を立てる上でのロールモデルを持っていないことなど、様々な経済的リスク要因を抱えているからである。さらに、男性に比べて、女性はリスクの高い投資への関心は低く、仲介業者もそれを当然視しているため、結果として資産における男女間格差が埋まらない（同上）。女性は様々な理由から経済的弱者になりやすいのである。

一方、Alcon（1999）や Anthes and Most（2000）は、社会全体に広がるジェンダー・

バイアスの問題についても指摘する。まず、Alcon（1999）は、女性が自身で生きていく上で必要な収入を確保することが難しいのは、そもそも女性は伝統的に「金を管理する」存在ではないとされてきたことがあるという。特に中高年の女性は不利な状況にあるとし、その理由について、資産の管理を他人任せにして、自らの将来のために計画をしたり、貯蓄をしたりすることを怠ってきたためだとする。また、Anthes and Most（2000）が指摘するように、男性に比べて女性は数学を恐れる傾向があることや、親が息子には早くから（13歳ころ）から貯金することの大事さを教えるが、娘に対してはそれほど教えなかったり、教えるにしても遅い（16－18歳ころ）ということも無関係ではないだろう。Alconの「女性は伝統的に『金を管理する』存在ではないとされてきた」という見方については、日本人女性は概当しないと考える人もいるだろう。なぜなら、日本ではアメリカとは異なり、夫が主たる稼ぎ手であっても、妻が家計の管理を担うことが珍しくなく、日本人女性はアメリカ人女性よりも金の管理には長けているようにみえるからである。確かにその見方は間違いではないかもしれない。しかし、そのような家計管理は、夫と離別や死別をすれば成り立たなくなる。さらに、ここで問題にしているのは、あくまで自らの力による「金の管理」、いいかえれば自らの経済的基盤の構築とそれに基づく金融行動のことだということである。そのような意味では、アメリカ人女性も日本人女性も同じように「金を管理すること」に慣れておらず、経済的弱者になりやすいといえる。

女性の方が、男性に比べて「金に疎い」傾向にあることは、アメリカの大学生を対象とした数々の先行研究によっても明らかにされている。「金融リテラシー」が乏しいのは、非ビジネス専攻、女性、下級学年、30歳未満、就業経験が乏しい学生であり（Chen and Volpe 1998）、たとえビジネス専攻の学生であっても、女性は、男性に比べて知識が乏しいという（Goldsmith and Goldsmith 1997b）。投資の知識が少なく、関心が弱いのも女性である（Goldsmith and Goldsmith 1997a）。そもそも女性は金に関わる何か重要な決断をしなければならない時、リスクを回避する傾向があったり（Powell and Ansic 1997）、決断をすることを怖がって、専門家のアドバイスを希望する傾向がある（Stinerock, Stern and Solomon 1991）。大学生という高学歴の女性でさえ、このような状況にあるということは、その他の学歴の女性の間ではさらに金融リテラシーが乏しく、金に関わることは人（男性）任せにしていることが予測される。

わが国では、栗林・井上（2011）が、現代女性の金融リテラシーや金融行動について、就業継続層、出産・育児離職層、復職層別に考察している。同研究によれば、金融リテラシーについては就業継続層で積極性、判断力がともに高いが、離職層や復職層では積極性が高いものの、判断力が低く、金融取引をめぐるトラブルに遭う危険性を示唆している。また、金融行動についても、就業継続層（既婚子あり）は金融資産および実物資産とも多様な資産を持つ一方、復職層はリスク性資産が多い上に、判断力が低いため、トラブルが

生じる可能性があると述べている。

アメリカや日本の研究からは、女性が社会の変化に適応できるよう金融リテラシーを高めたり、金融取引をめぐるトラブルを回避したりするためにも、出産後も就労を継続することが望ましいことがわかる。しかし、現実には多くの女性が「子どものために」と言って積極的に退職している。

わが国では、女性に家事や育児の負担がのしかかっているのは事実であり、女性が「仕事か家庭か」の二者選択を強いられるような社会に問題があるのは明らかである。しかし、その負担のあり方が妥当なのか、あるいは（父親がほとんど不在で）母親のみがその負担を負うことが子どもにとって本当に良いことなのかを問うこともしない女性側にも問題がある。性別役割分業観に基づく女性自身の行動は、わが国では女性が経済的弱者になる可能性が極めて高いという事実を知らなさすぎるゆえであるとも考えられる。

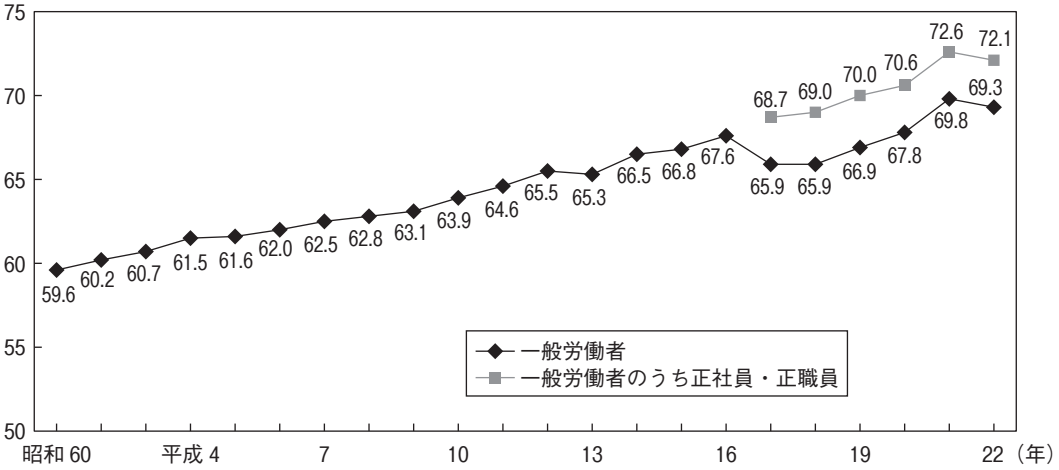
大学は、女子学生に対して、社会が急速に変化しているにもかかわらず、女性自身を含む多くの人とが依然として性別役割分業観にとらわれていたり、性別役割分業観に基づく社会構造があるために、女性が経済的弱者になりやすい状況にあることを教えたり、その状況を少しでも回避するために、自身の経済的基盤を築いたり、金融リテラシーを高めたりすること、さらにはキャリア[4)]の視点からライフコースについて考えたりすることの重要性について教えていく必要がある。

3．日本人女性の現況（2010年現在）

では、具体的に日本人女性はどのような状況にあるのだろうか。ここでは、日本人女性の就労状況、世帯類型別所得、世帯類型別貧困率および年齢別貧困率、寿命について概観しよう。

まず、就労状況についてであるが、男女間賃金格差は、図１が示すように、一般労働者だけでなく、正社員・正職員の間でも見られる。また、一般労働者の間での格差は確かに徐々に是正されてきているとはいえ、長引く不況の中で、人々の非正規雇用化が急速に進んでいる。かつて非正規雇用といえば、中高年の既婚女性が夫という主たる稼ぎ手を確保しつつ、あくまで「家計の補てん」のために行う就労であった（太郎丸 2009）。しかし、図２から明らかなように、1990年代後半以降、若年層から中高年層まで、男女を問わず、非正規雇用化が進んでいる。その傾向は、特に若年層（15歳－34歳）で著しい。結婚後ではなく、結婚前も（あるいは独身者も）「非正規雇用」という人々が増加しているのである。ただし、男性（25－34歳）は、男性（35－44歳）と同様、増加傾向にあるものの、依然として10％程度にとどまっている。一方、女性の場合は、どの年齢層においても40％以上を推移している。「生涯を通じて一度も正規雇用を経験しない女性がいて当たり前」の

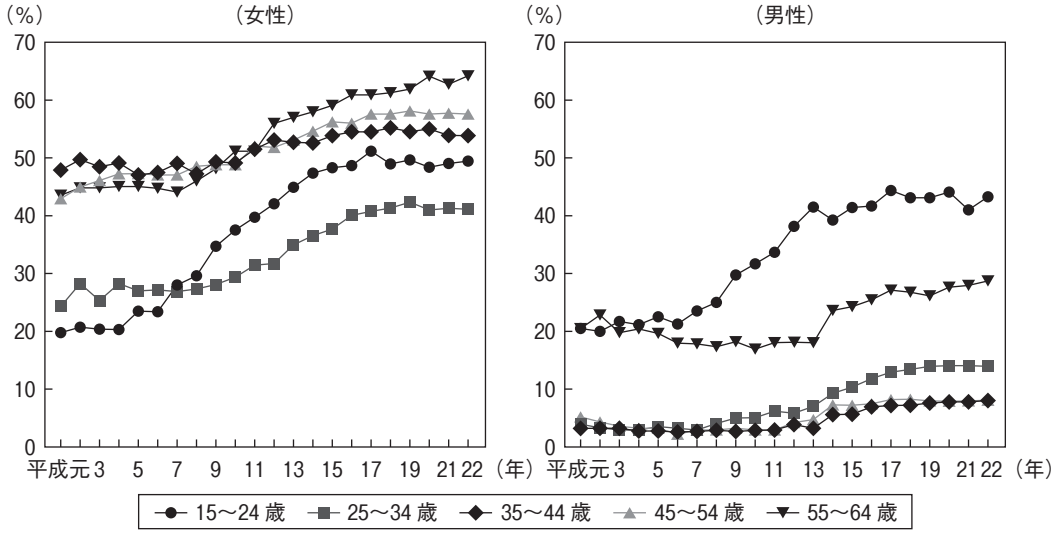
図１　男女間所定内給与格差の推移



（備考）１．厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成。
２．「一般労働者」は、常用労働者のうち、「短時間労働者」以外の者をいう。
３．「短時間労働者」は、常用労働者のうち、１日の所定内労働時間が一般の労働者よりも短い又は１日の所定労働時間が一般の労働者と同じでも１週の所定労働日数が一般の労働者よりも少ない労働者をいう。
４．「正社員・正職員」とは、事業所で正社員・正職員とする者をいう。
５．所定内給与額の男女間格差は、男性の所定内給与額を100とした場合の女性の所定内給与額を算出している。

資料出所：内閣府（2011）62ページ。

図２　男女別・年齢階級別非正規雇用比率



（備考）１．総務省「労働力調査」より作成。
２．非正規雇用比率＝（非正規の職員・従業員）／（正規の職員・従業員＋非正規の職員・従業員）×100。
３．2001（平成13）年以前は「労働力調査特別調査」の各年２月の数値、2002（平成14）年以降は「労働力調査詳細集計」の各年平均の数値により作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査詳細集計」とては、調査方法、 調査月などが相違することから、時系列比較には注意を要する。

資料出所：内閣府（2011）57ページ。

日がすでに来ているのである。図１でみたように、男女間賃金格差は依然として大きいとはいえ、賃金や雇用の安定を考えると、正規雇用されるに越したことがない。特に女性の場合は、ある程度の年齢になっても独身のままで非正規労働者に留まると、正規雇用の道も、結婚の道も険しくなる可能性が高い（西尾 2012）。女性であることと年齢が高くなることが就労と結婚の両方において不利にはたらくのである。

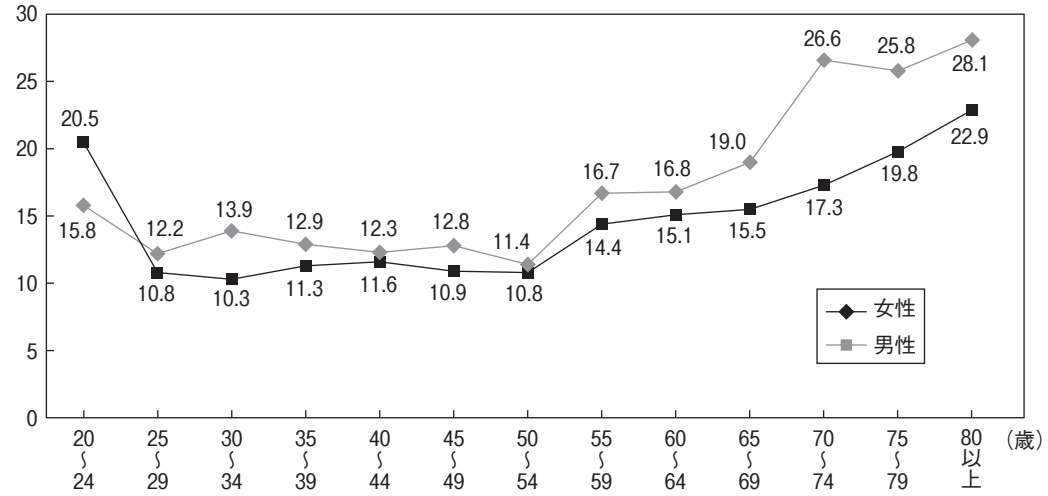
ただ、正規雇用されたからといってすべてが安泰なわけではない。労働市場や社会保障制度は「男性稼ぎ主世帯」をモデルにしている（川島 2012；西尾2012；Nishio and Matsunami 2012 forthcoming）。すなわち、女性は、相当な自己資産を持っている場合は別として、結婚して、主たる稼ぎ手としての夫を確保して、「男性稼ぎ主世帯」の構成員にならない限り（またはなれない限り）、経済的に不安定になりやすい。その理由は、第２節で取り上げたMartinez（1994）が指摘するとおりだが、その他にも、女性は⑴高度な知識や技術を習得しにくく、再就職が難しい、⑵生涯にわたって非正規労働者となり、低賃金・不安定就労をする可能性が高い、⑶受け取れる年金額が少ないなどがある。それぞれの理由についてもう少し詳しく説明すると、以下のようになる。⑴については、女性は正規労働者として就職しても基幹業務ではなく、代替のききやすい定型的・補助的な業務を行うことが多く、高度な知識や技術を習得して長く働くということは期待されていない。⑵については、女性の場合、もともと既婚中高年齢の非正規労働者が多い上に、昨今では若年非正規労働者が急増している。非正規労働者から正規労働者になるのは容易ではなく、生涯にわたって低賃金・不安定就労を余儀なくされる可能性が高い（図２参照）。⑶については、正社員・正職員の間でも男女間賃金格差がある上に、非正規労働者の場合は、厚生年金など被雇用者保険（または被用者保険）の適用から除外されやすい。年金額は勤続年数と年収によって決まるが、このようなことから、受け取れる年金額が少額にとどまる。これらの理由はいずれも本稿の冒頭で述べたように、性別役割分業観に基づく社会構造や女性自身の意識に関係している。女性自身が性別役割分業観が社会構造や女性の生き方に及ぼす負の影響を理解し、自らの生活基盤の構築の必要性を認識して行動を起こさない限り、女性は、経済的弱者になりやすい状況から脱し得ないのである。

次に、世帯類型別所得についてみると、2005年現在の全世帯の平均所得563.8万円に比して、母子世帯の場合は平均収入213万円（うち就労収入は171万円）（厚生労働省 2007）、単身女性世帯の平均収入は263万円であり、女性世帯主の世帯収入は低くとどまっている（総務省 2008）[5]。また、母子世帯の平均世帯人員[6]は、3.30人であり（同上）、経済状況が困難を極めていることが容易に予想される。

次に、貧困率についてみてみよう。まず、男女別・年齢階級別貧困率についてみると、どの年齢階級においても総じて女性の貧困率が高くなっている。特に50歳以上においては女性の貧困率が急激に上昇する。「女性は現役時代の賃金において男性よりも低いのみな

らず、その差が蓄積されることにより、高齢の経済的基盤も脆弱である」（内閣府, 2011, 73ページ）ことがその大きな要因となっている（図３）。

図３　男女別・年齢階級別相対的貧困率



（備考）１．厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成 19 年）を基に、内閣府男女共同参画局「生活困難を抱える男女に関する検討会」阿部彩委員の特別集計より作成。

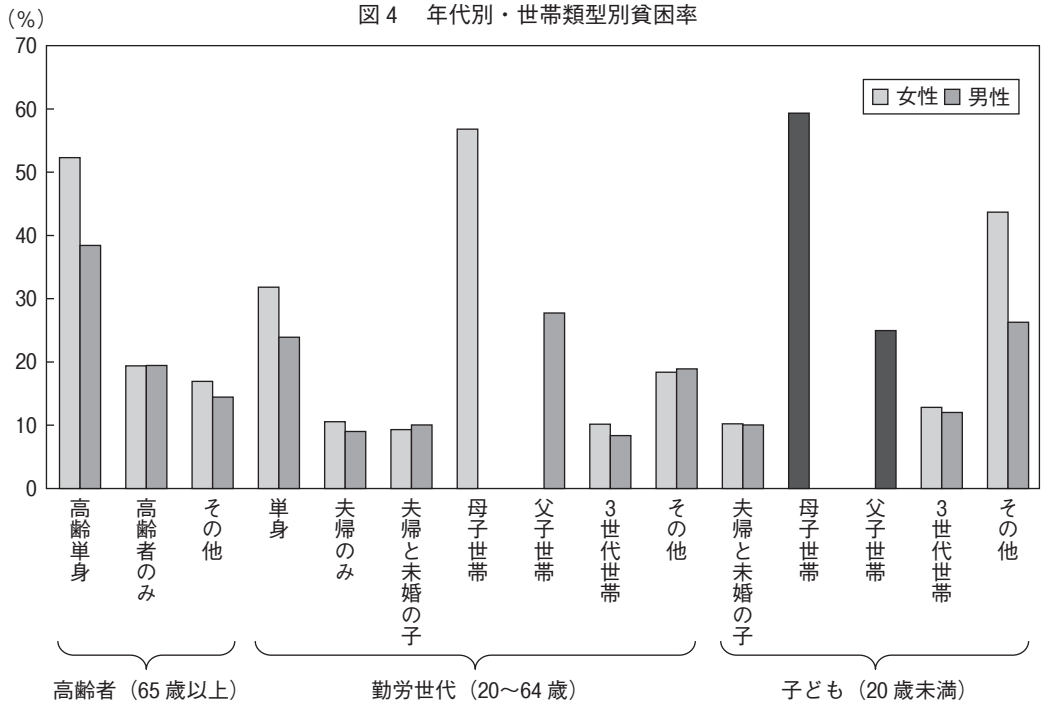
資料出所：内閣府（2011）74ページ。

世帯類型別貧困率についてみても、女性の高齢単身世帯、母子世帯、単身世帯で貧困率が高く、女性世帯が貧困に陥りやすいことがわかる（図４）。先ほど、労働市場が男性稼ぎ主世帯をモデルにしており、もともと女性が生涯にわたって経済的自立を果たすことが極めて困難であることを指摘したが、女性はそれ以外の理由からも貧困化しやすい。寿命や婚姻状況の影響を受けやすいのである。具体的に理由を示すと以下のようになる。

⑴　日本人女性は他の先進諸国の女性と同様、男性より長生きする傾向にある。そのため、高齢期にひとり暮らしになって、病気を発症したり、介護が必要となったりする可能性が高く、老後に出費がかさむ可能性が高い。女性は平均寿命が長い上、年上の男性と結婚する傾向にあるためである。

⑵　離別すると経済的に悪化しやすい。夫の収入や遺族年金に頼ることができないためである。母子世帯の場合、養育費の受給も困難を極めており、2006年現在、元夫から養育費を受給している世帯の割合は19.0% と著しく低い（厚生労働省 2007）。高齢になると就職も難しい。

図４　年代別・世帯類型別貧困率



（備考）１．原生労働省「国民生活基礎調査」（平成19年）を基に，内閣府男女同参画局「生活困難を抱える男女に関する検討会」阿部彩委員の特別集計より作成。
２．父子世帯は客体が少ないため，数値の使用には注意を要する。
３．母子世帯，父子世帯の子ども（20歳未満）は男女別ではなく，男女合計値。
４．高齢者のみ世帯とは，単身高齢者世帯を除く高齢者のみで構成される世帯。

資料出所：内閣府（2011）75ページ。

(3)　女性の場合は年齢や学歴に関係なく非正規雇用化しやすく、非正規雇用の女性ほど結婚が困難であるため、貧困化しやすい[7]。さらに、高齢になればなるほど、年齢的にも結婚が難しくなるため、貧困化しやすい。

(1)に関連して、このような状況に追いうちをかけるのが、日本人女性の平均寿命の長さである。多くの国々と同様、日本においても女性は男性に比して長生きである。平均寿命は、2010年現在、男性80歳、女性86歳で、男性はカタール、香港、スイスに次ぎ世界第４位、女性は26年連続世界第１位である（World Health Organization 2011）。2055年の推計をみても、女性高齢者が圧倒的に多くなることが予測されている（内閣府 2011）。一般的に、長生きは喜ばしいことであるが、喜べるかどうかは、健康状態と十分な貯蓄の有無によるといわざるを得ない。

以上、日本人女性は、労働市場における賃金格差や加齢、さらには離別等による世帯の変化などの影響によって経済的に厳しい状況に置かれていることを明らかにした。そし

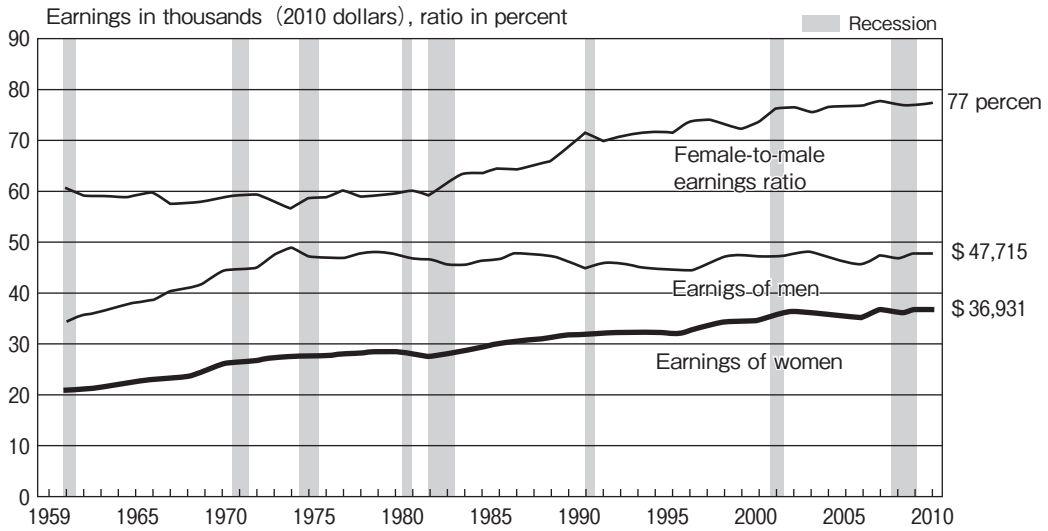
て、女性の場合、平均寿命が長いことや、年上の男性と結婚する傾向があることが、その状況をさらに悪化させ、高齢女性単独世帯の形成と貧困化を助長していることを指摘した。

4．アメリカ人女性の現況（2010年現在）

次に、スミス・カレッジの教育実践から示唆を得ることの妥当性を示すために、日本人女性の場合と同様、アメリカ人女性の就労状況、世帯類型別所得、世帯類型別貧困率および年齢別貧困率、寿命について概観しよう。ここでは、アメリカ合衆国国勢調査局（U. S. Census Bureau）による『アメリカにおける所得、貧困、健康保険適用　2010（*Income, Poverty, and Health Insurance Coverage in the United States 2010*）』を参考にする。

まず、就労における男女間賃金格差についてみると、図５から明らかなように男性の賃金の中央値（47,715ドル）を100% とした場合、女性の賃金（36,931ドル）は77% であり、日本人の賃金格差が男性を100% とした場合、女性の賃金が69.3% であることと比較すれば格差は小さいが（内閣府 2011）、依然として格差が存在することがわかる。

図５　Female-to-Male Earnings Ratio and Median Earnings of Full-Time, Year-Round Workers 15 Years and Older by Sex: 1960 to 2010



Note：Data on earnings of full-time, year-round workers are not readily available before 1960. For information on recessions, see Appendix A.
Source：U.S. Census Bureau, Current Population Survey, 1961 to 2011 Annual Social and Econmic Supplements.

資料出所：US Census Bureau（2011b）p.12.

また、表１が示すように、有職者について、年齢、学齢、勤続年数などの特徴別に年収の中央値をみると、どの特徴においても女性の年収は男性の年収に比して低くとどまって

いる。アメリカというとかなり男女平等が進んでいるイメージがあるが、労働市場においては決してそうではないことがわかる。

次に、世帯類型別所得についてみると、全世帯の所得の中央値（49,445ドル）に比して、母子世帯は32,031ドル（父子世帯49,718ドル）、単身女性世帯では25,456ドル（単身男性世帯35,627ドル）と、女性を世帯主とする世帯の所得が著しく低い。また、母子世帯

表１　いくつかの特徴でみた収入の中央値

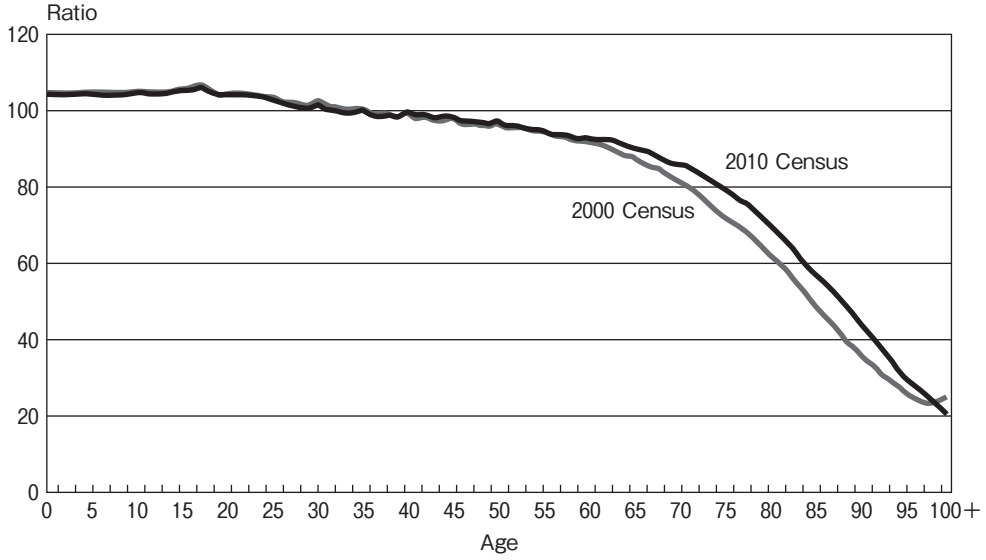
収入の中央値（2010年現在、ドル建て）		
特　徴	男　性	女　性
就業経験の総計		
年齢		
総計（15歳以上65歳以下）	36,676	26,552
65歳以下	37,009	26,848
15－24歳	10,648	8,588
25－44歳	38,211	30,310
45－64歳	48,140	31,465
65歳以上	26,028	18,648
学歴		
総計（25歳以上）	41,318	30,455
グレード９未満	19,630	13,509
グレード９－12、未卒	21,950	15,650
高校卒	32,501	22,452
カレッジ、学位なし	39,738	26,615
短大卒以上	42,348	31,537
大学卒以上	63,265	45,232
勤続年数が最も長い職業		
総計（15歳以上）	36,676	26,552
管理、ビジネス、金融業務	65,479	46,909
専門職など	59,788	40,698
サービス	20,306	14,829
販売など	35,885	16,283
管理業務支援	28,284	27,277
農林水産	16,485	10,522
建設	29,336	21,824
メンテナンス	39,659	31,243
生産	32,229	21,146
運輸	26,217	17,146
軍隊	42,745	37,170
勤続年数が最も長い労働者の分類		
総計	36,676	26,552
民間企業従業員	35,052	25,359
公務員	48,231	36,234
自営業者	36,420	18,759

資料出所：US Census Bureau（2011b）pp. 53－55をもとに報告者作成、翻訳。

の所得が低いことに関連して、世帯類型別に貧困世帯の割合をみても、母子世帯で著しく高い。全世帯で11.7%、夫婦世帯で6.2%、父子世帯で15.8%であるのに対して、母子世帯では31.6%にも上っている。一方、年齢別貧困率については、65歳以上の高齢者 においてよりも18－64歳、18歳未満で高い。18－64歳で13.7%、18歳未満で22.0% である。貧困状態にある人々のうち、特に18歳未満の子どもは35.5% を占め、子どもの貧困が著しいことがわかる。

また、アメリカ人の平均寿命は男性76歳、女性81歳である（World Health Organization 2011）。さらに、年齢階層と性別の関係について、女性の割合を100% とすると、30歳くらいまでは男性の割合の方が高いが、その後徐々に男性の割合が低くなり、60歳以上になると男性の割合は著しく低くなる。言い換えれば、高齢層では圧倒的に女性が多くなる。単身女性世帯が多いことが予測される（図６）。

図６　Sex Ratio by Age: 2000 and 2010
（For information on confidentiality protection, nonsampling error, and definitions, see *www.census.gov/prod/cen2010/doc/sf1.pdf*）



Note：Sex ratio is calculated as the number of males per 100 females.
Sources：U.S. Census Bureau, Census 2000 Summary File 1 and 2010 Census Summary File 1.

以上の点から、アメリカ人女性は、日本人女性と同様、労働市場における賃金格差、年齢や離別などによる世帯の変化などの影響によって厳しい経済状況に置かれていることがわかる。また、高齢者の貧困率については、他の年齢層の人々の貧困率に比べて低くとどまっているものの、女性は男性に比べて長寿であることがわかる。よって、日本人の場合と同様、アメリカ人女性も若い頃の経済的基盤の脆弱さの影響を受けて、病気を発症しやすく、介護サービスを必要としやすい高齢期になって生活が困難になる傾向があるといえ

る（Anthes and Most 2000）。

5．スミス・カレッジにおける金融教育

第４節で明らかにしたように、アメリカ人女性は深刻な経済状況にある。そのような状況を鑑み、スミス・カレッジは、女性の経済的自立を促すための教育を行っている。ここでは、スミス・カレッジとその教育実践についてみていこう。

5.1. スミス・カレッジとは

スミス・カレッジはマウント・ホリヨーク・カレッジ、ウェルズリー・カレッジに次ぎ、アメリカで３番目に古い女子大学として、1875年に創立された。当時、アメリカでは、大学は「男子が学問するところ」であり、女子の入学を認めていなかった[8)]。日本で有名なハーバード大学やコロンビア大学なども決して例外ではない。そのため、大学に代わってセミナリー[9)]が女性の高等教育機関として、女子に高い教育を与えてきた。1837年から1889年にかけて創立されたアメリカ東部の女子セミナリー（現在の女子大学）は「セブンシスターズ（Seven Sisters）」として世界的に知られている。女子大学人気の低迷により、１校が他大学と合併、もう１校が共学化し、女子大学として存続する大学は５校に減ったものの[10)]、これらの大学は「（国内、州、市で）初」の女性の裁判官、市長、新聞記者など社会で活躍する女性を輩出し続けている。例えば、H. クリントン現国務長官やM. オルブライト元国務長官がウェルズリー女子大学（1870年創立）の出身であることはよく知られている。本稿で取り上げるスミス・カレッジも、1960年代にアメリカの女性解放運動を牽引したB. フリーダンの他、N. D. レーガンやB. P. ブッシュなど、多数の卒業生を社会に送り出してきた。また、現在72カ国から留学生を受け入れており、国内だけでなく、海外で活躍する卒業生も多く輩出しており、世界の女子教育をリードする女子大学の一校となっている。

5.2. 「女性と経済的自立センター」の目的と教育内容

スミス・カレッジのキャンパス内にある「女性と経済的自立センター（Center for Women & Financial Independence、以下、WFIと呼ぶ）」は[11)]、2001年に設立された。WFIが設立された背景には、女性が社会に進出し、女性自身や家族、さらにはコミュニティに対する経済的責任が大きくなっているにもかかわらず、女性の意識や行動が伴っていないことがある。そのため、WFIは、「スミスの学生自らが経済的な安寧を得られるようにするだけでなく、その家族やコミュニティも経済的な安寧を得られるよう貢献できるようにすること」を目的に、１年生から４年生までの全学の学生を対象に実践的な教育を

行っている。 WFIが特に重視する点は学生に「金融リテラシー」を習得させることにある。その理由について、WFIは以下のように述べる。

> あまりにも長い間、女性はお金のことについて心配しなくてよい、「誰か他の人がそのすべてを面倒みてくれるから」といわれてきた。しかし現実には、それを他人には任せられない。なぜなら、女性は男性より長生きで、退職後の年数は男性の2倍にのぼる。また、女性の経済状況は、離別やひとり親になることによってより劇的に、より衰弱するかたちで影響を受ける。さらに、女性は男性に比してより頻繁に働いたり辞めたりを繰り返す。(Smith College 2011)

第2節でもすでに指摘したが、アメリカにおいても、長い間、女性が男性に経済的に依存することは当たり前とされてきた。しかし、1960年代以降、アメリカでは女性の社会進出が急速に進んだ。また、それ以前の1950年代以降、心理学の分野でキャリア発達論が発展したことや、同時期に女性学やジェンダー学が急速に発展し、従来の学問では周縁化されてきた「女性の生き方」にも焦点があてられるようになった。このような女性に関わる社会的変化を受けて、WFIは、女性が経済的鋭敏さを持つことは、単に私的な安寧を得るだけでなく、職業上の安寧を得る上でより重要になっているとする。その理由として、女性が(1)労働者および消費者としてより活発に経済に関わるようになったこと、(2)より高い収入を得て、より多くの資産を形成するようになったこと、(3)自分だけでなく、家族に対しても経済的に大きな責任を負うようになったことを挙げている。

教育内容として、例えば新入生向けには、学生生活を送る上での予算や給付金に関する授業や、クレジットカードやデビットカード[13]を使用する上での危険性に関する授業がある。また、一般の学生に対しては、個人が家計を管理する上での重要事項についての授業を行っている。具体的には、クレジットや借金の管理の仕方、学生ローンの仕組みや問題点、退職後に備えた貯蓄の仕方、納税計画の仕方、投資に関する基礎など、金融に関する実に幅広く、実践的な内容となっている。その他にも社会で活躍するゲストスピーカーによる講演会や、課外プログラムがある。さらに、キャンパス内には学生が主体的に経営する店もあり、学生は授業や講演会などで得た知識を実際に活用できるしくみになっている。

このようなWFIの画期的な取り組みは、ユー・エス・エー・トゥディ（USA Today）やワシントン・ポスト（Washington Post）など広くメディアに取り上げられ、注目を浴びている[14]。ただし、WFIが行っている教育は、履修はできるが卒業要件には算入しない科目から成る「特別プログラム」である。その理由は、学生に就労の際に即戦力となるような知識や技術を習得させるためというよりは、生きていく上で不可欠な金銭に関わる基礎知識を習得させることを目的とした教育を行っているからある。

5.3. スミス・カレッジの金融教育から

以上、本節ではスミス・カレッジにおける金融教育について概観した。教育内容が、女性を取り巻く環境の変化と女性自身の意識や行動とのズレに着目して、学生が金融リテラシーを高め、適切な行動を取れるよう支援する教育内容になっていることがわかる。また、WFI の創立は2001年であり、女性学・ジェンダー学やキャリア発達論の影響も多分に受けていると推測される。さらに、1990年代に女性を取り巻く環境変化や女性の金融リテラシーの乏しさを指摘する研究報告が相次いだことに迅速に反応してのこととも考えられる。経済がグローバル化する中、わが国の女性を取り巻く環境も急速に変化している。それにもかかわらず、女性の意識や行動がその変化に伴っていないことは先に指摘したとおりである。わが国の大学生スミス・カレッジが実践しているような金融教育の導入を考える必要がある。特に女子大学の場合は、社会で活躍する女性の育成に力を入れているところが多い。そのような女性の育成を目指す上で、スミス・カレッジの教育実践は大いに参考になるだろう。

6. おわりに

本稿の目的は、アメリカのスミス・カレッジの女性の自立を促すための教育実践を参考に、わが国の女性に対する教育実践への示唆を得ることにあった。そこで、まず日本人女性の就労状況や貧困状況がとアメリカ人女性の場合と酷似していることを確認し、示唆を得る意義について明らかにした。そして、スミス・カレッジでは、男性に比べて、女性は経済的に困難に陥りやすいにもかかわらず、これまで経済的なことは男性に任せてきたことを問題視し、女性を取り巻く現況を鑑みて、貯蓄や税などに関する金融リテラシーを高める教育が展開されていることを確認した。

スミス・カレッジの教育実践から得られる示唆は、いうまでもなく、わが国の女子学生にも同じような教育が必要だということである。すなわち、金融リテラシーの習得を根幹とした女性の経済的基盤の構築を促すための教育である。わが国の女性は、家事や育児については主たる担い手として引き受ける覚悟はあっても、家のローン代や子どもの養育費など、生活に必要な収入を稼得することは男性（夫）任せにする傾向がある。女子学生も例外ではない。彼女らに対しては、貯蓄や税についてはいうまでもなく、そうした費用がどの程度にのぼるのか、その費用を男性一人で稼得することがほとんど不可能になっていることについても教育する必要があるだろう。いや、それ以前に、本稿で指摘したように、女性を取り巻く環境が急速に変化しているにもかかわらず、労働市場や社会保障制度は依然として男性稼ぎ主世帯をモデルにしていること、その他にもさまざまな社会的な要因や女性自身の要因があり、結果として女性が貧困化しやすい状況にあること、そしてそ

の根底には性別役割分業観があることについて教えていく必要がある。そのような教育を通じてはじめて、学生らは社会に適応した生き方について主体的に考え、行動する能力を養うことができるのではない。このような教育を行なうにあたっては、金融教育として新たに導入するのか、大学ですでに広く行われている「キャリア教育」[15] の中に組み込むのか、あるいはジェンダー学関連科目として扱うのか、あるいは臨機応変に対応していくのか議論の余地がある。

今日、大学の多くは学生の「就職」や「資格取得」の支援に力を入れている。しかし、「就職」や「資格取得」は生涯にわたる経済的な安寧を保証するものではない。特に女性の場合は女性であるがゆえに様々な問題に直面する可能性があるとはすでに指摘したとおりである。だからこそ、女子学生に対して、自らの経済的基盤を築くことと金融リテラシーを習得することの重要性について教えていくことが必要なのである。

注

1）図2を参照のこと。

2）松並知子神戸女学院非常勤講師と西尾は、2010年から2011年にかけて（薬学部や食物栄養学科で学ぶ学生を含む）本学の学生428名を対象に理想の就労形態や結婚生活について尋ね、その理想を実現するためには将来の配偶者（夫）に対してどの程度の年収を求めるか等について、アンケート調査を実施した。その基本的な分析結果は以下の通りである。

- 本学の学生の理想の就労形態は、「子どもあり就労継続型」あるいは「結婚・出産時中断・再就職型」に2極化している。次に専業主婦型が多い。
- 結婚相手には定年まで働いてほしいと考える学生が多い。
- 結婚相手に求める年収は結婚時・退職までの平均の両方において、実際の給与所得者の年収より著しく高い。具体的には、学生らは、28.6歳の男性と結婚したいと考え、結婚時には498.8万円の年収を求めているが、実際の給与所得者の平均年収は、大卒・大学院卒の男性で25～29歳で252.8万円、30歳～34歳でも309.9万円でしかない（厚生労働省 2010a）。また退職までの平均年収として684.6万円を求めているが、大卒・大学院卒の男性の年収は、ピーク時であっても523.8万円でしかない（同上）。
- 特に専業主婦型を理想としている学生は、自分も相手も若いうちに結婚したいと考えている反面（それぞれ25.4歳、27.5歳）、結婚時および退職までの平均の両方において結婚相手に望む年収が著しく高く（それぞれ585.8万円、757.2万円）、実際の給与所得者の年収と比べると非現実的といわざるを得ない（内閣府 2011）。
- 日本人女性の平均寿命を実際より約3歳短いと予想している。

詳細については、Nishio and Matsunami（2012）を参照のこと。

3）アメリカでは、男性が５年に一回、女性は4.7年に一回転職するという（Anthes and Most 2000）。

4）ここでいうキャリアとは、「人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ね」のことである（中央審議会、2011）。

5）母子世帯の貧困ばかりが取り上げられるが、父子世帯の平均収入は421万円にとどまり、全世帯の平均収入を100とした場合、74.6でしかないことにも注目されたい。また、単身男性世帯の平均収入は400万円である。

6）厚生労働省（2007）によれば、「『世帯人員』とは、本人と子、両親、兄弟姉妹、祖父母等を含めた人員」のことをいう。

7）太郎丸（2009）は若手非正規労働者は、正規労働者の男性と知り合ったり知り合っても、結婚に至るケースが少ないことを指摘している。詳細については西尾（2012）を参照のこと。

8）65歳以上の高齢世帯の貧困率は、1960年代前半まで30% を超えていたが、その後急激に低下し、1970年代半ば以降、だいたい15% 以下にとどまっている。その理由については今後確認する予定。

9）日本をはじめ、韓国やイギリスなどにも女子大学が存在するが、その理由はアメリカの女子大学と同様である。

10）「セミナリー」に関する議論や歴史については、坂本（1999）を参照のこと。

11）2011年現在、アメリカ全土には49校の女子大学が存在する（The Women's College Coalition 2011）。

12）`financial` の訳語は通常「財政上の、財務上の、金融上の」だが、本稿では「経済的な」という意味で捉える。

13）小切手やクレジットカードと同様の機能を果たす銀行発行のカードのことである。

14）記事の詳細については、スミス・カレッジの HP を参照のこと。

15）ここでいうキャリア教育とは、基本的には「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」（中央教育審議会、2011）のことである。

　注意すべき点は「就職」に成功するためのガイダンス的な教育ではないということである。なぜなら、前者には「キャリア発達」ということばに示されるように「キャリア」本来の「生涯」という意味が含まれるが、後者のような教育には「就職」という一過性の目的があるだけで、「キャリア」本来の意味が欠如しているという点で異なる。その上、後者の場合、学生らが無事に就職できたとしても、それらの職は多くの学生にとって「就きたい職」ではなく、「就ける職」であるため、卒業後に就職してもすぐに

辞めてしまう。例えば、大学生の学卒後３年以内の離職率は長らく３割となっており、目先の就職だけに力を入れる教育はそもそも問題である。中学、高校、大学の卒業後、３年以内に離職する割合は、それぞれ約７割・５割・３割であり、このような離職率の構成は「七五三」と呼ばれている。ただし、中央教育審議会（2011）では、高卒４割、短大等卒４割、大卒３割とされている。

引用文献

Alcon, A.（1999）‘Financial planning and the mature women’, *Journal of Financial Planning*, February, 82-88.

Anthes, W. L. and Most, B. W.（2000）‘Frozen in the Headlights: the dynamics of women and money’, *Journal of Financial Planning*, 13（9）, 130-142.

青木紀（2003）『現代日本の「見えない」貧困―生活保護受給母子世帯の現実』明石書店。

Chen, H. and Volpe, R. P.（1998）‘An analysis of personal financial literacy among college students’, *Financial Services Review*, 7（2）, 107-128.

中央教育審議会（2011）『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）概要』http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/01/31/1301878_2_1.pdf　2011年11月18日アクセス。

Goldsmith, E. and Goldsmith, R.（1997a）‘Gender differences in perceived and real knowledge of financial investments’, *Psychological Reports*, 80, 236-238.

Goldsmith, R. and Goldsmith, E.（1997b）‘Sex differences in financial knowledge and extension’, *Psychological Reports*, 81, 1169-1170.

川島典子（2012）「社会保障におけるジェンダー」川島典子・西尾亜希子編著『アジアのなかのジェンダー』ミネルヴァ書房。

厚生労働省（2007）『平成18年度　全国母子世帯等調査結果報告』, http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-setai06/index.html

厚生労働省（2010a）『平成22年賃金構造基本統計調査（全国）結果の概況』, http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2010/index.html , 2011年10月18日アクセス。

厚生労働省（2010b）『平成22年版　働く女性の実情』, http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/10.html, 2011年10月20日アクセス。

Martinez, M.N.（1994）‘Why women should save and plan more’, *HRMagazine*, November, 104-105.

内閣府（2011）『平成23年版　男女共同参画白書』, 中和出印刷

http://www.gender.go.jp/whitepaper/h23/zentai/pdf/index.html, 2011年10月18日アクセス。
西尾亜希子（2012）「貧困化する女性―貧困予防策を探る」川島典子・西尾亜希子編著『アジアのなかのジェンダー』ミネルヴァ書房。
Nishio, A. and Matsunami , T.（2012 forthcoming）'Career Planning from a Financial Perspective: An Investigation, into Female Students' Attitudes to work, Family and Money,' *The Journal and Proceedings of the Gender Awareness in Language Education*, Vol. 5, Summer 2012.
OECD（2011）OECD Employment Outlook 2011, http://www.oecd.org/document/46/0,3746,en_2649_201185_40401454_1_1_1_1,00.html, 2011年11月18日アクセス。
Powell, M. and Ansic, D.（1997）'Gender differences in risk behavior in financial decision-making: an experimental analysis', *Journal of Economic Psychology*, 18, 605-628.
坂本辰朗（1999）『アメリカの女性大学―危機の構造』東信堂。
瀬地山角（1996）『東アジアの家父長制』勁草書房。
Smith College（2011）Center for Women and Financial Independence HP, http://www.smith.edu/wfi/, 2011年10月20日アクセス。
総務省（2008）『平成21年全国消費実態調査』http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001028135&cycode=0, 2011年12 月２日アクセス。
Stinerock, R., Stern, B., Solomon, M.（1991）'Sex and money: gender differences in the use of surrogate consumers for financial decision making', *Journal of Professional Services Marketing*, 7（2）, 167-182.
高橋伸子（2008）『新・女性の選択 就職・結婚・子育て・転職・昇進』マガジンハウス。
太郎丸博（2009）『若年非正規雇用の社会学―階層・ジェンダー・グローバル化』大阪大学出版。
The Women's College Coalition（2011）WomensColleges.org, http://www.womenscolleges.org/, 2011年12 月２日アクセス。
Timmermann, S.（2000）'Planning for the future: a focus on mature women', *Journal of Financial Service Professionals*, January, 22-24.
U. S. Census Bureau（2011a）*Age and Sex Composition: 2010*, http://www.census.gov/prod/cen2010/briefs/c2010br-03.pdf, 2011年12 月２日アクセス。

U. S. Census Bureau（2011b）*Income, Poverty, and Health Insurance Coverage in the United States 2010*, http://www.census.gov/prod/2011pubs/p60-239.pdf, 2011年10月20日アクセス。

World Health Organization（WHO）（2011）*World Health Statistics 2011*, http://www.who.int/whosis/whostat/en/, 2011年10月20日アクセス。

ゆうちょ財団（2008）「金融リテラシーとは」 http://www.yu-cho-f.jp/top/knowledge/080121.html, 2011年12 月 2 日アクセス。

武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター 2011年度活動報告

Progress Reports on
Mukogawa Women's University Center for the Study of Child Development 2011

河　合　優　年*　　難　波　久美子**　佐々木　　惠**
石　川　道　子*　　玉　井　日出夫***

KAWAI, Masatoshi, NAMBA, Kumiko, SASAKI, Megumi,
ISHIKAWA, Michiko & TAMAI, Hideo

目次

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．2011年度の子ども発達科学研究センターについて
Ⅲ．2011年度活動概要
　1．第８回子ども学会議学術集会開催
　2．すくすくコホート三重・武庫川チャイルドスタディ
　3．西宮市研究協力・受託事業
　4．子どもの育ちと学びを支える専門職の方のための「子どもの発達」を学ぶ会
Ⅳ．研究業績（2011年）
Ⅴ．引用文献

*武庫川女子大学教育研究所（子ども発達科学研究センター）・研究員、文学部心理・福祉学科・教授、**武庫川女子大学教育研究所（子ども発達科学研究センター）・助手、***武庫川女子大学教育研究所（子ども発達科学研究センター）・研究員、客員教授

Ⅰ．はじめに

2009年４月に、教育研究所の下部組織として設置された武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター（以下、子どもセンター）も丸３年を経過することになった。センターの母体となったJSTデータ（「脳科学と社会」研究開発領域 計画型研究開発「日本における子どもの認知・行動に影響を与える要因の解明」収集コホートデータ）も、研究協力者全体を匿名化したデータと、三重県で継続されている追跡可能な連結可能（匿名化）データの２つのデータセットとして、子どもセンターに国から移譲された。これに関しては、2011年３月に譲渡契約がJSTとの間で完了している。これにともない、子どもセンターの機能として、匿名化データ部分について、研究者の共同利用に係るデータの研究者への提供とそれらの管理が加わったことになる。すでに、筑波大学の研究グループからの依頼が来ている状況である。

子どもセンターの本来の機能である、子どもの追跡調査は、後述されるように、三重県の子どもたちと西宮市の子どもたちについて引き続き進められている。共同研究グループである三重グループでは、2011年に研究協力者の一部が小学校に入学するという１つの節目を迎えた。そして2012年４月には、残りの全員が新入学を迎えることになる。発達障害の発生機序や学齢期の社会性形成、成熟児コホートのストレスマネージメント、耐える力の形成など、今日の喫緊の問題について解決の糸口をつかむという目的にさらに近づきつつある。子どもセンターは、時限付きとしてスタートしているが、期間内に予定された目標は概ね達成されるものと考えている。子どもセンター運営に関しての外部資金は、前年度と同様のものを得ており、概ね順調に進められている。2012年度についても、継続しての資金獲得を計画している。

2012年度には設置４年目に入ることになるが、これまでのデータが死蔵されることなく研究に活用されるよう、国内外の研究者への資料提供と共同研究を目指してさらに研究活動を進める予定である。

Ⅱ．2011年度の子ども発達科学研究センターについて

１．本年度の取り組みについて

2011年度の取り組みの詳細については概要に述べられているが、従来の研究を継続しながら、研究の充実と社会還元をセンターのテーマとして取り組んできている。

センターの活動は、①JST研究の継続研究として進められている「乳幼児期の個体・環境要因が児童期の社会的行動に及ぼす影響についてのコホート研究」（科学研究費補助金基盤研究（A））、②西宮市からの「10か月児アンケート健康診査及びフォロー事業に関

する委託」に関わる業務と研究、③ JST データの移譲を受けてから開始された、研究データの共同利用に係る管理と貸与等の運営、④研究成果の学内学生への教育的提示、⑤地域連携の５つに分けられる。

①のコホート研究は、計画に従って、西宮市（武庫川チャイルドスタディ）では５歳児の観察と質問票による調査が、三重県（すくすくコホート三重）では小学校１年生の学校適応調査、NICU コホートの５歳児の観察と質問票による調査が進んでいる。データ・クリーニングが進み、2011年度は多くの成果発表がなされた。

②の西宮市の「10か月児アンケート健康診査」については、これまでと同様にデータの整理とフォロー事業である「すくすく相談会」対象者の抽出作業を行っている。また同時に、子どもセンターでのデータ解析によって、保健師の研究発表の連名者として、その成果発表に寄与している。2012年度が最終年度になる可能性があるため、現在報告書作成にむけて調整に入っている。

③のデータ管理については、匿名化データの貸し出し依頼等を受けつけている。当面の間は、旧 JST コホート研究のメンバーを中心としたデータ貸与に限定されている。研究全体の経過と武庫川グループの成果報告等は、2012年３月31日に JST 東京本部別館ホールにおいてなされる。国との契約規定では広く関心のある研究者に対してもデータの使用を認めているので、今後利用範囲をどのように拡げるのか、貸与方法をどのようにするのかなどの検討が必要となっている。

④子どもセンターの設置目的の中には、研究成果の学内学生への教育的提示を通じて、研究への動機付けを行うことが示されている。子どもセンターが３年目を迎え、ようやく一部ではあるが、そのような見学を受け入れることが出来るようになった。心理学専攻の学生を対象に、観察室での装置の説明やセンターでのデータ解析の様子を見学してもらい、成果物などを通じて研究活動への啓発をすすめている。すでに見学者の中には、大学院に進学し赤ちゃん研究を行いたいというような学生が出てきている。また、子どもセンターが実施する勉強会（下記⑤）の一部は、臨床心理学専攻の院生にも開放されている。

⑤研究成果の地域への還元として、専門職者に対し、毎月１回の勉強会を開催してきた。この活動も３年目になり、新たに着任された石川先生を加えて、扱うテーマがより発達障害の発生機序や臨床現場でのアセスメント、対応方法など実践的なものへと変化してきている。

２．外部資金の獲得について

子どもセンターは教育研究所の研究組織として設置されているが、外的評価の指標として外部資金の獲得を期待されている。2011年度の研究費としては、科学研究費補助金（基盤研究（A）：課題番号21243039）、西宮市からの委託料、私立大学経常費補助金特別補助

の他、メディカ出版などからの研究助成費を受けて研究が進められた。
2012年度についても同様の資金確保を目指している。

3．次年度に向けて

子どもセンターの４年目の活動計画は概ね昨年通りである。①の追跡研究においては、協力者のうち、成熟児コホートの協力者の一部が小学校２年生になり、標準データとしての WISC 知能検査を実施する。ようやく子ども自身による調査票への回答が可能となってくる。これにより、母親による評価や観察による間接的な評価から直接的な反応の取得が可能となることが期待されている。

②西宮市の10か月児アンケート健康診査は、引き続き実施される。このアンケート健康診査は、パネル調査という性質も持っているため、完全匿名化したデータに基づき、デモグラフィックデータの整理と分析を行う。これによって、西宮市の乳幼児の発達像を明らかにすると共に、①のコホートデータのコントロール群としての標準データを得ることができる。また、最終年度として報告書の作成に入る。

③については、匿名化データの管理を続けることになる。管理をどのように行うのか、また他大学との関係性などを含めて、将来検討を行う予定である。

④および⑤に関しては、2011年度同様に進めるとともに、勉強会の総括を行い、何らかの成果物を出版できるように、すでに調整に入っている。

上記以外の研究計画として、昨年度よりスタートしているアメリカ・スポケーン市のゴンザガ大学との、子どもの生活実態調査が継続される。2011年度に計画されていた事業は、東日本大震災との関係で、アメリカからの訪問が延期になり、調査票の準備のみが進められている。2012年度は、小学校・中学校での学級適応と学力についての調査実施を計画している。

Ⅲ．2011年度活動概要

1．第８回子ども学会議学術集会開催

2011年10月に第８回日本子ども学会議学術集会が、学院の全面的な協力・支援のもとに、本学日下記念マルチメディア館で開催された。当番校として武庫川女子大学・子どもセンターが全体を統括した。

第一日目は、子どもの支援を中心として、NICU の追跡研究を進めている大阪府立母子保健総合医療センターの藤村正哲先生、大阪大学大学院の金澤忠博先生による講演（座長：榊原洋一先生（お茶の水女子大学大学院）、指定討論：河合優年）、前文化庁長官で本学教育研究所・子どもセンター客員教授の玉井日出夫先生による子育て文化についての基

調講演が行われた。第二日目は、秋篠宮妃紀子殿下の御成をいただき、東日本大震災の子どもたちの支援のありかたについてのシンポジウムを終日行った。秋篠宮妃紀子殿下は全セッションに参加された。

午前中のセッションでは「あしなが育英会」の八木俊介先生から、阪神淡路大震災を契機に設立されたレインボーハウスの活動を通じた孤児・遺児の支援のあり方についての話題提供、および神戸市教育委員会の中溝茂雄先生から、神戸市教育委員会の震災後の取り組みについての話題提供を受けた（座長：一色伸夫先生（甲南女子大学）、指定討論：小石寛文先生（神戸学院大学））。午後は、仙台白百合女子大学の大坂純先生より、子どもを支える地域の重要性について、日本プライマリ・ケア連合学会東日本大震災妊産婦支援プロジェクトの吉田穂波先生より被災地の子どもたちの現状についての報告を、そして宮城県石巻市立湊小学校の佐々木丈二先生より、被災地の小学校校長として子どもたちをどのように支えてきたのかについての話題提供をいただいた（座長：内田伸子先生（お茶の水女子大学）、指定討論：八木俊介先生、中溝茂雄先生）。

進行に関しては、本学の多くの部局による支援を頂いた。これら学院からの多くの援助のもとに、子どもセンターが持つ機能としての、社会貢献の一部としての役割が果たせたものと考えている。これらの詳細については、雑誌チャイルドスタディーの2012年版に掲載される。

2．すくすくコホート三重・武庫川チャイルドスタディ

子どもセンターの基礎研究部門の活動にあたる、コホート研究は計画通り進行している。本年度は、震災の影響で科学研究費の配分が遅れたが、外部資金を含めて最終的には活動に支障を来すことはなかった。

（1） 2011年度の進捗

すくすくコホート三重では、６歳時点の調査が全数終了し、小学校に入学した一部の児に対し入学時調査が実施された。また、2008年度から開始された、誕生後に新生児集中治療室（NICU）に入院した子どもを対象とした、NICU コホート調査については、３歳６ヶ月児の調査と観察が終了し、５歳児の調査・観察が開始された。

臍帯血を使った母子の生理的ストレス関係を解明する研究チームは、方法論の確立を終えた。これらについては、研究報告がなされている。

武庫川チャイルドスタディでは、５歳児の調査・観察が開始された。

研究全体としては、データセットのクリーニングおよび、画像データのイベントレコーディングが順調に進んでおり、それに伴って研究発信が加速されている。また、これらの結果の発信を含めて、すくすくコホート三重と武庫川チャイルドスタディ共同で、調査協

力者向けのニューズレターを夏号、春号として発刊した。ややもすると、難しい研究であると思われる臍帯血を利用した研究などについても、紹介することができた。

2012年２月には、「乳幼児期の個体・環境要因が児童期の社会的行動に及ぼす影響についてのコホート研究」の共同研究者を対象として、全体ミーティングを開催し、これまでの経過を総括し、４年目を迎えるにあたっての現状確認と今後の方向性について確認する予定である。

（２） 今後の展望

すくすくコホート三重では、研究の目的である学童期の社会性の測定に入ることになる。小学校以降は、自記式の調査が可能になるので、心理的側面を保護者、教員の視点だけでなく、多面的にとらえることが可能になる。2012年度はすくすくコホート三重の成熟児コホートの協力者全員が小学校に入学する。今後は、教育委員会等とも密接に連携をとりながら、今後の研究について検討を加えることになるだろう。

３．西宮市研究協力・受託事業

（１） 2011年の進捗

西宮市地域保健グループとの研究協力は、2011年度も継続された。2008年度に「乳児後期アンケート」をパイロット研究としてスタートさせ、2009年度からは、「10か月児アンケート健康診査及びフォロー事業」として市からの委託を受け、研究協力を継続している。また、アンケート結果に基づき、ハイリスク児の抽出を行い、フォロー事業である「すくすく相談会」への参加を促す取り組みも継続された。2008年にパイロット研究の対象となった児の３歳児アンケート調査が終了し、引き続き、2009年度の健康診査対象児に対し、３歳児アンケート調査が実施されている。

（２） 今後の展望

2012年度は、計画では最終年度となっている。個別観察を含めた小規模のパイロット研究と、中規模調査研究のデータを比較しながら、西宮市の子どもの発達についてのノーマティブデータの整理を進める。これに基づいて、2012年度中の報告書作成を目指すとともに、初期発達について心理特性・運動特性についての発達曲線の確認、西宮在住乳幼児の発達傾向の確認について、保健所担当者との検討を進める。

４．子どもの育ちと学びを支える専門職の方のための「子どもの発達」を学ぶ会

（１） 2011年度の取り組み

2010年度は、ペアレント・トレーニングの理解を中心に、養育者に対して、専門職者がどのような支援ができるのかについて議論がなされた。

ペアレント・トレーニングで、トレーニングの目標を設定する際に、どのような時期にどのような目標を設定するのかという点は、専門家が提案できることの１つであった。特に、最低限、いつまでにどのようなことができていなければならないか、ということは、目標設定の上で重要となる。しかし2010年度は、そのようなポイントについては例示や体験談にとどまり、体系的に検討に入ることができなかった。

それを受け、2011年度では、いつまでに、どのようなことができていないといけないのか、そして、ある時期までにできていないと、その後どのような点で困るのか、ということを体系的に理解できるような取り組みを行った。特に、発達障害が疑われる児の発達において、単に遅れがみられるということだけでなく、児が独特な方法で行動を獲得している場合があることに注目して検討が進められた。例えば、瓶のふたをあけるような行動は、視覚と両手の運動という、知覚運動協応が必要であるが、知覚的な分析を行わないでふたを開けるような行動が形成されることがある。このような場合では、その容器の開閉はできるが、他の容器や瓶への一般化ができないことになる。

このような、特定の場面では問題なくこなせているが、状況が少し異なると問題行動が現れてくるような子どもの発達的特徴を、現場経験のある参加者から具体的な例を求めながら、整理し検討することとした。

（２） 実施記録

学ぶ会は、武庫川女子大学学術交流館１階会議室を利用して、おおむね月１回、土曜日に開催された。講演・検討時間は、10：00～11：30である。開催日時と実施内容を表に示した。

（３） 各回の講演内容抄録

１） 第１回　認知発達の基礎

（講師：河合優年）

ｉ．今年度の取り組み

学ぶ会も足かけ４年を経過することとなった。母子保健に関する事例検討から始まり、家庭での子育てのアドバイスに生かすペアトレなど、理論と実践を統合するべく、様々な取り組みを進めてきた。今年は、「何がいつまでにできていなければならないのか」とい

表　子どもの育ちと学びを支える専門職の方のための「子どもの発達」を学ぶ会　2011開催報告

回	日程	テーマ	タイトル	担当者	参加者数	院生参加
1	6月11日	発達概論	認知発達の基礎	河合優年 （武庫川女子大学）	18名	0名
2	7月2日	発達障害概論 0歳児の発達	自閉症スペクトラムの捉え方 0歳児の気になる行動の特徴	石川道子 （武庫川女子大学）	25名	0名
3	8月6日	1歳児の発達	1歳児の気になる行動の特徴	難波久美子 石川道子 （武庫川女子大学）	25名	0名
4	9月3日	〈台風接近のため中止〉			−	−
5	12月3日	2歳児の発達	2歳児の気になる行動の特徴	難波久美子 石川道子 （武庫川女子大学）	16名	0名
6	1月7日	運動発達とその支援	運動を育てる	青木智春 （岐阜県立岐阜聾学校教諭）	15名	3名
7	2月4日	3歳児の発達	3歳児の気になる行動の特徴	難波久美子 石川道子 （武庫川女子大学）	16名	1名
8	3月3日	総括		石川道子 （武庫川女子大学）	−	−

う視点から、一見発達過程において、その段階で通過していなければならない指標については通過（クリア）しているが、臨床経験から、「なんだかすっきりしない」「気になる」、というような事例を取り上げながら、私たちが持っているとよいと考えられる、「臨床的に役立つ視点とはどのようなものなのか」について検討を加えてゆく。

ここでは、いわゆる「at risk」という現時点での危険判断だけでなく、「できていない状態のまま放置すると、後で何に困るのか」という「developmental hazard（発達の危険要因）」の視点にも注目し、家庭内での生活のみならず、後の学校適応、社会適応をも視野に入れて検討・議論してゆく。臨床現場での具体例を通じて、その背景にある理論やその事例が示している潜在的な危険性についても考えてゆく。

ⅱ．子ども理解になぜ認知発達理解が必要なのか

今回は、今年の第1回目ということもあり、子ども理解の枠組みについて述べてみたい。中心とする枠組みは、昨年行ってきたペアトレの中でも使われていた、認知という用語である。この問題に入る前に、これまでも使われてきている「発達」という用語について少し述べておきたい。

「発達」という用語が様々な場所で用いられている。近年の刊行物を見てみると、子どもの発達についての考え方が少し変化してきていることが分かる。かつての発達の概念は、未熟な存在である子どもが有能な存在としての大人に至るまでの、上昇的な変化をさすものとしてその意味を定義することが多かった。しかし、この考え方に従うと、完成さ

れた大人になってからは発達現象がなくなり、後は老化もしくは劣化という、下降的な変化に転ずるということになる。

しかし、実際には私たちは大人になってからも様々な形で変化し続けている。この変化は、環境に適応するための変化で、自分を快適な状態に保つためのものといえる。記憶力が低下してきたら、外部記憶であるメモをうまく使って、記憶力を維持しようとするような場合がこれに当たる。近年の発達観は、このように、その段階（時点）で持っている機能を使って自らを快適な状態にしようとする、時間軸に沿った適応的な変化に移行してきている。

この考え方に従うと、人間が環境の中でうまく生きていくために自らを変化させている間は発達し続けていると考えられるのである。赤ちゃんが泣き声を使って自分の不快な状況を伝えようとする場合も、大人が非言語的な合図を使って不快さを伝えようとする場合も、その仕組みは同じである。自己と他者との関係性を円滑にたもち、自分の快適さを保とうとしているのである。この意味では、発達は生涯にわたって継続するものと言える。

今年度は、普段の臨床活動や日常生活の中で観察できるような子どもの行動から、発達障害にアプローチしてゆく。「at risk」にあり、うまく生きるための変化が難しい子どもがどのような特徴を持っているのか、また、今は何とかやっているが、なにか気になる子どもが持っている特徴とはどのようなものなのか、これらの問題を検討して行きたい。

ⅲ．行動の仕組みについて

私たちは自分を取り巻いている様々な情報を取り込んでいる。寒さや暑さ、知っている人か知らない人か、話して良いタイミングかだめなのか。人が生活をしていく上で判断するべき情報の種類は多様である。このような情報を人間が処理する過程は比較的明らかになってきており、脳内機構まで解明されているものもある。このような一連の過程が図に示されている。

初期の発達段階にある新生児や乳児は、誕生時から準備された基本的な機構である、知覚機能などを使って外界の情報を得ようとする。このような過程は知覚と言われ、視覚や聴覚、触覚などがそれに当たる。しかし、それだけでは、そこに何かがあるという情報が与えられるだけである。例えば、お母さんの顔とそれ以外の人の顔を区別するということは、そこに「人の顔」があるという事とは大きく異なるはずである。それは特別な意味を持った存在としての、「おかあさん」の顔なのである。このような意味づけをするためには、さらに複雑な処理が必要となる。目の前にある対象と、子どもの中に記憶された情報としての「顔」を照合し、それが「自分にとって」どのような意味を持っているのかを判断するのである。これは社会性の萌芽的行動である。このような判断を行うためには、例えば、対象を記憶しておくようなユニットが必要となり、そこに何らかの「自分にとっての意味」を残さなければならいのである。これによって、初めて外界と自己との関係性が

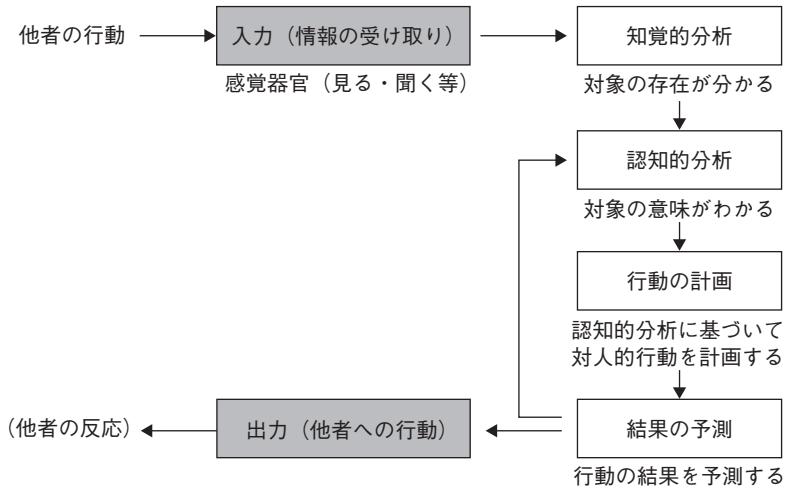


図　認知発達のコア

形成されることになる。このような、環境世界に関する情報を得ることを可能にするプロセスのセットを認知機構とよぶ。子ども達は、このような複雑な過程を、様々な経験によって磨き上げてゆくことになる。

従って、このような機構を構成しているどこかの部分が不調をきたすと、それを要素としているより上位の機能が影響を受けることになる。今回テーマとしている、さまざまな機能の出現時期の確認は、子どもの行動を構成している部品がどの時期にどの順番で準備されてゆくのかを考えるということになる。ある時期に準備されていない要素があるとすると、その要素を部品として作られる後の機能にも影響が及ぶということになるのである。この意味で、「developmental hazard（発達の危険要因）」の考え方が重要となる。

将来の発達との関係について、他者との関係性を例にあげてみたい。これは母子関係や仲間関係など、人間として生涯にわたって重要な活動である。このような人と人との円滑なやりとりの能力は、Sociability（社会性能力）と呼ばれるものである。この社会性の欠如は、人と人との関係性が作り出す人間社会における快適さを阻害する要因となり、これがまた、その後の社会適応にもつながることになる。このような Sociability に関わる問題を作り出す要因には、個体が持つ個別要因と、環境要因、そして両者の相互作用要因が考えられる。昨年のテーマであったペアトレは環境要因である母親の行動変容に関したものと言えよう。

これに対して、今年考えてゆこうとする行動の特徴は、個人（子ども）側の要因ということができる。つまり、個人が何らかの形で有している特徴である。最も分かりやすい例は性別のようなものであるが、個人内の要因は、生物学的な特徴から、疾病に対する身体的脆弱性のような医学的な診断学によって分類されるもの、内向性や外向性のような心理

学的な行動特徴によって分けられるものまで、広範囲に渡っている。

今年度は、これらについて、「at risk」「developmental hazard」の視点から検討してゆく。

iv．本年度のねらい

上述してきたように、子どもの発達を理解するためには、発達を作り出している生物学的機構や、心理的機構に関する基礎的な事柄を知っておくということが重要である。個々の要素がどのように相互関連しており、それらがどのような後の行動と関係しているのか、それはどうしてなのかという事を知ることは、支援の在り方にもつながる重要な視点であると考えている。

今年度は、「at risk」な事例を上げてゆきながら、その中にある関連要素とそれらの関係性、それが将来のどのような発達と関係するのかについて考えてゆく。

2） 第２回　自閉症スペクトラムの捉え方

（講師：石川道子）

ｉ．自閉症スペクトラム

ａ） 呼称について

まず、議論を始める前に発達障害全般の特徴を整理しておきたい。自閉症関連障害は、中核型自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害など呼称が色々使われているが、最近は自閉症スペクトラム（ASD：Autism Spectrum Disorders）というように大きなかたまりにして呼ぶようになっている。

ｂ） ASD の脳の情報特性の理解

次に、ASD の特徴を考えてみる。現在は以下の７つの視点から特徴付けられている。

① 視覚優位傾向

目からの情報が入りやすい。視覚的な支援が有効で、モデルを見せることが重要である。

② パーツ（細部）への注目傾向

視覚情報が入りやすいものの、全体像は見えていないことが多い。例えば、「バイバイ」という手の動作模倣をするときに、対面の相手の方に手の甲側を向けて振ることがある。これは、人全体として情報を処理できておらず、手だけを見ている可能性が高い。このように部分への注目が一つの特徴となっている。

③ ２つのことが同時に処理できない

例えば、話を聞きながら目を見るというようなことを同時に行うのは難しい。

④ パターン化しているようなことが理解しやすい

ボールを落とせば（必ず）チャイムが鳴るといったような、決まったパターンでの玩

具を好む傾向がある。このようなパターン化と細部への注目が一緒になったような、ミニカーのタイヤの回転だけをじっと見て満足するような少し変わった玩具の使い方をすることがある。

⑤　パニックになりやすい

上記③、④の特徴から、自分を取り巻いている情報が多すぎたり、自分が知っているパターンから外れた動きなどがあると、パニックになってしまうことが多い。これは、情報の処理法略やキャパシティとも関係していると考えられる。このことは、パニックの対処方法のヒントともなる。

⑥　記憶の特異性

ASD は、記憶においても特徴的な特性を持っている。視覚の面では、写真的な記憶、聴覚的にはテープレコーダ的な記憶の様式で、あたかもその場面をそのまま記録しているような特徴を示すことがある。このことはパターン化された動きを好むということとも関係している可能性がある。つまり、同じ物であってもわずかな違いがあるだけで、別のものと認識してしまうということである。このため情報が整理されにくく、過去の情報を適切に参照することが難しくなると思われる。また、初めて見るものは分からないということが起こる。聴覚に関しては、同じ情報でも声が違っていると別ものになってしまったり、その場面で起きた事柄を、ひとまとまりのものとして、すべて再生しないと必要な情報が引き出せないということがおこる。CM やビデオ映像を受け入れやすいのは、これらの画面や音声がパターン化され、同じものの繰り返しであることと無関係ではないと思われる。

⑦　感覚の過敏性

感覚過敏は、主観的な経験であるため、臨床場面でも本人が語らないために分からないことが多い。本人からの聴き取りなどを進めてゆくと、みんなも自分と同じ感じ方をしていると思っていることが分かってくる。また、主観的に「イヤ」と思った感覚刺激に意識を焦点化してしまい、耐えられなくなってしまうことがある。過敏さは個人差があり、それぞれの感覚情報（視覚、聴覚、触覚、嗅覚など）について過敏さが表れる。しかし、逆に、その刺激に対して焦点化されていないような場合だと、まったく感じていないように見えることもある。

c）　日常生活で苦手になるもの

ここまで上げたような脳内の働きと関係していると思われる行動特徴が、実際の生活の中でどのように表れてくるのかということが問題となる。例えば、話し言葉の使いこなしについては、スタートが遅れる、やりとりができない、ピンチに陥った時に適切に言葉を使えなくなる、人の話を聞けない（理解言語で言うと、対象児が２語文での表出が可能な段階だとすると、理解は単語１つであるというようなズレが見られたりする）、人から自

分にとって必要な情報を言語的に取得できないといったことが起こってくる。

特に情報を取ることに関しては、b）において述べたような特徴から、初めての場所で、動き回る対象が複数いて、何をするかはっきりしない、というような、複雑な情報を処理しなければならないような場面では、情報の取得が困難になる。これは、子どもが広場で遊んでいるような状況や、はじめて保育園に行くなどしたときの状況であり、日常的に見られる場面である。

ⅱ．０歳児の気になる行動の特徴

では、ASD の子どもたちはどの年齢段階で把握できるのであろうか。ASD の子どもたちは、乳児期の早い時期から特徴的な発達を示しているのではないかということが徐々に分かり始めている。その時には、ちょっと変わったことをしているな、ちょっと気になるな、という程度で見過ごされがちで、通常の個人差の範囲として理解されることがある。しかし、これまで述べてきたような内的な特徴が顕現化している可能性もある。実際に気になった子ども達の行動を上げながら、ケースでの検討を進めてゆきたい。

乳児期について、まず講師からいくつか特徴的な例を挙げてみよう。

ａ） 乳児期において見られた例

例えば、いずれかの感覚器官において過敏性があると、児は、起きているときは常時気分悪い状態が続き「むずがり」が現れたり、泣きっぱなしの状態を示すことになる。あるいは逆に、不快な感覚刺激を遮断しようとする行動が生じ、長い時間寝たままということが起きたりする。前者の場合は、刺激の嵐の中にいるので、自分自身の身体が出しているサインや活動のリズムが分からない状態を作り出すことになる。後者の場合は、養育者からすると、よく寝るおとなしい子という印象を受けることになるが、児を取り巻いている周囲の情報を取り込んでいないため、養育者が送るサインや身体活動によって作られるリズムを感じにくくなる可能性がでてくる。

身体のサインとは、空腹、眠いという欲求と関連した自己受容的な感覚である。また、リズムは、睡眠リズムや食事、排せつなどの生活リズムである。これらが適切に形成されないと、他者との関係だけでなく自己の内的な組織化が進まず、段階の移行が円滑に進まないことになる。外界との適切な相互作用を持つ経験が不足することになるのである。

同様のことは、姿勢などの身体活動においても考えられる。仰臥位や腹臥位のまま姿勢が保持され続けると、姿勢の変換やバランスの立て直しにともなる、感覚運動系の統合や、自己受容感覚の形成経験が遅れ、それらを要素とする移動手段の獲得が遅れることになる可能性が考えられる。

問題は、このように明らかな形で行動の遅れが現れる場合だけではない。行動の出現が遅れているように見えたのであるが、いつのまにか次の段階の行動が出現している場合があることである。例えば、一般的には、寝返りがあり、お座りがあり、ハイハイがあり、

さらに歩行が現れるといった順序性が見られる。しかし、寝返りのしかたが少し変わっていたり、座り方が少し変わっていたりしても次の行動段階に移行したり、ハイハイをせずに歩行へと移行したりする場合が観察される。このような通常観察される行動がみられないまま次の段階の行動が現れてくるような場合にも何らかのハザードがあることがある。

このような、少し異なる行動は、ステレオタイピーズとして現れたり、手先をくねくねと動かすような、体のパーツの年齢相当でない動きや、背面ハイハイ、お座りのままハイハイ（シャフリング）するという行動や、アシンメトリーな行動などとしても顕現化してくることがある。

実践的に言うと、このような動作を発見し、いわゆる定型の動きに向けて修正を加えようとする時には、その段階の２つくらい前の段階の行動から練習をし、再体制化をさせる必要が出てくる。

これからの数回を使って、実際場面での問題行動とその発生機序について検討をしていく。

３） 第６回　運動を育てる

（講師：青木智春）

第６回は、発達支援の現場での取り組みから、実践的な視点からの検討を加えた。岐阜県立岐阜聾学校教諭の青木智春先生にお越しいただき、日常の活動を通じて、子どもの行動を分析する視点を中心にご講演いただいた。

４） 第３回　１歳児の気になる行動の特徴
第５回　２歳児の気になる行動の特徴
第７回　３歳児の気になる行動の特徴

（講師：難波久美子、石川道子）

第３回、第５回、第７回では、それぞれ１歳前後、２歳前後、３歳前後を中心にその時期に観察される行動特徴を順次取り出しながら検討を加えた。

各回の検討では、標準的データとして、KIDS（Kinder Infant Development Scale）や、岡本・菅野・塚田－城（2004）の「発達のみちすじ」に示されている諸行動を基にしながら、該当の年齢の発達状況を確認した。その後、当該年齢の子どもで、それら基準となる行動から外れている子どもを例示し、その特徴、関連する情報等を示しながら検討を行った。その過程では、顕現している行動の背景にある機構についても議論を深めた。

この３回については、特定の個人の行動が検討対象となっていることもあるので、本稿では詳述されていない。

（4） まとめ

2011年度は、具体的なケースに基づいて、どの部分に引っかかって「気になった」のかを検討しながら、運動発達や認知発達の要素間の関連性、順序性、再体制化について議論を行った。「at risk」に注目しがちな臨床場面で、「developmental hazard」を視野に入れた児の把握が重要であることを学習した。実際場面での事例については本稿では述べられなかったが、「なるほど、そのように考えるとこの行動は理解できる」というケースが多く見られた。この取り組みは2012年度にも継続する予定である。

Ⅳ．研究業績（2011年）

（1） 論文

1） 河合優年・難波久美子・佐々木恵（2011）武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター　2010年度活動報告　武庫川女子大学教育研究所研究レポート，41，65-91.

2） 荘厳舜哉・難波久美子・矢藤優子・河合優年.（2011）母子相互作用場面における表情の同調・調律と子どもの分離不安反応型：４ヶ月齢と９ヶ月齢の比較．国際乳幼児研究，19，19-28.

（2） 学会発表

1） 河合優年・難波久美子・荘厳舜哉・山川紀子・山本初実（2011）実験室観察場面における母子行動と後の社会性発達(1)　―観察場面における母子行動の評価方法の検討―　日本発達心理学会第22回大会発表論文集，P.218.（東京学芸大学，３月）

2） 石川道子・難波久美子（2011）母子相互作用時のカテゴリカルな姿勢分析の妥当性検討　第105回日本小児精神神経学会プログラム・抄録集 P.37.（朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター），６月）

3） 難波久美子・河合優年（2011）絵本の読み聞かせ場面における母親の発話行動の発達的変化　―４・９・18・30ヶ月の性別の推移―　日本発達心理学会第22回大会発表論文集，P.176.（東京学芸大学，３月）

4） Namba, K., Kawai, M.（2011）Effects of mother-infant-interaction styles during picture-book sharing activity at 9 months of age on subsequent development. Poster presented at 15th European Conference on Developmental Psychology.（August, 2011. Bergen, Norway）.

5） 難波久美子・塚本聡子・浦岡由紀・川崎陽子・田谷圭子・和田左江子・小田照美・河合優年（2011）乳児期における子育てに対する困惑感・充実感と育児行動の関連　第８回子ども学会議学術集会大会プログラム，P.23.（武庫川女子大学，10月）

6） 山川紀子，大谷範子，西　知美，森　繁子，難波久美子，田中滋己，河合優年，山本初実（2011）すくすくコホート三重の協力者における42か月児の特性と母親の心理状態との関係についての検討　第58回日本小児保健協会学術集会講演集 P.172.（名古屋国際会議場，９月）

7） 山川紀子・大谷範子・西　知美・森　繁子・難波久美子・田中滋己・河合優年・山本初実（2011）生後30・42か月時の自己抑制課題の結果に関連する要因についての検討　第８回子ども学会議学術集会大会プログラム，P.26.（武庫川女子大学，10月）

（３） 掲載・発表予定

1） 河合優年・難波久美子　（印刷中）　マイクロアナリシス（VI 部76章１節）　田島信元・岩立志津夫・長崎勤（編）　新・発達心理学ハンドブック　福村出版.

2） 石川道子・難波久美子　（投稿中）　４・９ヶ月児の観察記録画像に基づいた非定型発達の判別視点の探索的検討　―コーディング法による行動解析と医師評価の一致およびその後の発達指標との関連について―　小児の精神と神経.

3） 河合優年・難波久美子・荘厳舜哉（2012）実験室観察場面における母子行動と後の社会性発達(2)　――乳児の観察場面行動特徴と KIDS との関係――　日本発達心理学会第23回大会発表論文集.（名古屋国際会議場，３月）

4） 難波久美子・河合優年（2012）絵本場面における母子相互作用の変化と発達指標との関連　――“ページをめくる・本を見る”やりとりのマイクロ分析結果から――. 日本発達心理学会第23回大会論文集.（名古屋国際会議場，３月）

Ⅴ．引用文献

岡本・菅野・塚田－城（2004）エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学　関係のなかでそだつ子どもたち．新曜社.

2010年度

研究員の業績および特別研究の経過報告

（2010年４月～2011年３月）

友 田　泰 正（ともだ　やすまさ）　　教育研究所長・教授

▶研究論文

単著　2011年３月「武庫川学院の名称について」『研究レポート』（武庫川女子大学教育研究所）第41号、pp.1-49

▶学会活動

日本教育社会学会（評議員、2005－現在）、日本社会教育学会、日本教育学会

安 東　由 則（あんどう　よしのり）　　教授

アメリカ合衆国ワシントンDCにあるthe George Washington 大学、Graduate School of Education and Human Developmentが提供する、Advanced Studies Program for Visiting Scholarsに2010年４月より2010年３月まで参加し、修了した。

▶学会活動

日本教育社会学会、日本高等教育学会、日本子ども社会学会、他

上 地　安 昭（うえち　やすあき）　　教授

▶著書

編著　『教師カウンセラー・実践ハンドブック―教育実践活動に役立つカウンセリングマインドとスキル―』金子書房、2010年12月

▶研究論文

単著　「「辞めたい教員」に対するカウンセリングの必要性」『看護教育』第51巻、第11号 pp.962-966、医学書院、2010年11月

▶学会活動

学会シンポジウム

共同　「教師カウンセラー」の役割と専門性　日本カウンセリング学会、第43回大会（埼玉：文教大学）2010年９月３－５日

学会役職

日本カウンセリング学会理事

日本カウンセリング学会編集委員会常任理事

日本生徒指導学会理事

日本ブリーフサイコセラピー学会相談役

▶教育活動

大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター運営委員

日本カウンセリング学会理事

産業カウンセラー資格認定評価専門委員（日本産業カウンセリング協会）

独立行政法人教員研修センター講師「管理職・中堅教員研修講座」（茨城県つくば市）

兵庫県立こどもの館講師「家庭教育相談員養成講座」

姫路市立生涯学習大学講師

兵庫県立神出学園運営協議会委員

河 合　優 年（かわい　まさとし）　　教授

▶研究論文

共著　河合優年・難波久美子・佐々木　恵　2011年３月「武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター活動報告」『研究レポート』第41号、武庫川女子大学教育研究所、pp.65-91

共著　荘厳舜哉・難波久美子・矢藤優子・河合優年、2011年３月、「母子相互作用場面における表情の同調・調律と子どもの分離不安反応型：４ヶ月齢と９ヶ月齢の比較」『国際幼児教育研究』19、pp.19-28

単著　河合優年、2010年12月、「母性を引き出す新生児行動」『周産期医学』40（12）、pp.1752-1755.

共著　Yuko Yato, Daisuke Tanaka, Ryoji Shinohara, Yuka Sugisawa, Emiko Tanaka, Lian Tong, Noriko Yamakawa, Tokie Anme, Masatosi Kawai, Tadahiko Maeda, and Japan Children's Study Group 2010年12月 Infant Responses to Maternal Still Face at 9 Month Predict Social Abilities at 18 Month」『Japan Epidemiological Association』22（２） pp.435-440

共著　Noriko Yamakawa, Haruka Koike, Noriko Ohtani, Motoki Bonno, Shigeki Tanaka, Masaru Ido, Yoshihiro Komada, Masatoshi kawai, and Hatsumi Yamamoto 2010年12月「Mission in Sukusuku Cohort, Mie: A study Focusing on the Characteristics of Participants and the Mental Health of the Mothers Raising Children」『Japan Epidemiological Association』20（２） pp.413-418

共著　Noriko Yamakawa, Haruka Koike, Noriko Ohtani, Motoki Bonno, Shigeki Tanaka, Masaru Ido, Yoshihiro Komada, Masatoshi kawai, and Hatsumi Yamamoto 2010年12月「Mission in Sukusuku Cohort, Mie: Focusing on the Feasibility and Validity of Methods of enrolling and Retaining Participant」『Japan Epidemiological Association』20（２） pp.407-412

▶学会活動

共同　難波久美子・河合優年、2011年３月、絵本の読み聞かせ場面における母親の発話行動の

発達的変化―４・９・18・30ヶ月の性別の推移―。日本発達心理学会第22回大会ポスター発表（於・東京学芸大学）

共同　須貝香月・河合優年、2011年３月、母親はどのように子どもを理解していくのか。日本発達心理学会第22回大会ポスター発表（於・東京学芸大学）

共同　河合優年・難波久美子・荘厳舜哉・山川紀子・山本初実、2011年３月、実験室観察場面室における母子行動と後の社会性発達（１）―観察場面における母子行動の評価方法の検討―日本発達心理学会第22回大会ポスター発表（於・東京学芸大学）

共同　税所凉子・河合優年、2011年３月、作文活動が小学生の生活態度・意識に及ぼす効果。日本発達心理学会第22回大会ポスター発表（於・東京学芸大学）

▶その他

招待講演　「発達過程から見る人間像と観察手法」2010年臨床漢方薬理研究会大会（第105回手例会）漢方医薬学の21世紀的展望「古人はかく語りき」第一部Ⅱ「漢方の本質」・「人間」を科学で語れるか（京都薬科大学躬行館３階）

私の提言　「子どもは大人の鏡、まず隗より始めよ。」2010年日本教育４・５月合併号「軽度発達障害が推測された幼児への支援過程の検討」2010年８月「21の実践から学ぶ－臨床発達心理学の実践研究ハンドブック」一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構日本臨床発達心理士会編，金子書房，pp.20-26（p.26コメント）。

▶社会的活動

「西宮市立わかば園施設整備事業基本構想検討委員会」委員、西宮市
（平成22年10月～平成23年５月）

「社会福祉法人甲山福祉センター中・長期計画検討会」委員、社会福祉法人甲山福祉センター
（平成22年12月～平成23年11月）

「中央教育審議会初等中等教育分科会」第５次・第６次専門委員、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課（平成23年３月～平成25年１月）

▶2010年度特別研究の経過報告

テーマ①西宮市における発達コホート研究

本研究で追跡している56組の観察グループの子ども達は今年度５歳になっている。行動観察には入学前の５歳検査に対応する項目が加わってきている。全市を対象とした10ヶ月児研究は３年目に入り、10ヶ月のデータと３歳のデータとの比較が可能となり、疫学的検討が始まっている。来年度には最終報告がなされる予定である。これらの研究に関連する報告は、日本心理学会、日本発達心理学会、小児保健研究、西宮市保健所での報告会等でなされている。

田 中　孝 彦（たなか　たかひこ）　　教授

▶著書

共著　『憲法と現実政治』「子どもたちの声・新学習指導要領・憲法」、2010年５月、日本科学者会議編、本の泉社、pp.333-343

共著　『いのち、学び、そして９条』「子ども理解と憲法の再発見」、2010年12月、佐藤学・小森陽一・田中孝彦編、高文研、pp.78-93

▶論文

単著　2010年５月「今、学校は、子どもにとってどんな場所でなければならないか」全国公立学校教頭会編『学校運営』№586、pp.24-27

単著　2010年10月「子ども理解―そして教育実践・教師像の今日的課題」みやぎ教育文化研究センター編『センター通信』№.60、pp.2-10

単著　2010年12月「生活綴方教育の今日的可能性」地域民主教育全国交流研究会編『現代と教育』82号、桐書房、pp.79-84

単著　2011年１月「心的外傷を負う子ら」北海道民主医療連合会編集『北海道民医連新聞』351号、p.12

単著　2011年２月「子どもの育ちと親の暮らしを支える学童保育の仕事―子ども理解を深める新しい共同へ」全国学童保育連絡協議会編『日本の学童保育』426号、pp.11-19

単著　2011年３月「教師教育における「子ども理解のカリキュラム」の構想」『教師の専門性と臨床教育学Ⅱ』（科研費共同研究「臨床教育学の構築と教師の専門性の再検討」研究資料集）、pp.182-186

▶その他

単著　2010年６月「いま求められる、教師教育における「子ども理解のカリキュラム」」全日本教職員組合編『クレスコ』№111、大月書店、pp.25-29

単著　2010年６月「子どもたちの声と教育実践（講演記録）」高知県教育科学研究会編『高知教科研』№30、pp.2-27

単著　2010年７月「子ども理解のカンファレンスを地域で」小森陽一との対談の記録、教育科学研究会編『教育』№774、国土社、pp.20-32

単著　2011年２月「映画をつくる―人の育ちを支える教育の仕事との重なり」山田洋次との対談記録、教育科学研究会編『教育』№781、国土社、pp.4-26

▶学会活動

所属学会他

日本臨床教育学会、日本教育学会、教育科学研究会、地域民主教育全国交流研究会

上 田　孝 俊（うえだ　こうしゅん）　　准教授

▶著書

監修　2010年９月『川の大研究』、PHP 研究所、全63頁

▶研究論文

単著　2010年10月「コミュニケーションからみる学力」『臨床人間関係論研究』第２号、pp.57-65、武庫川女子大学教育研究所生徒指導研究室

単著　2010年10月「同時代を生きる教師と子どもの苦悩～教師のライフ・ヒストリーと教育実践の統合の学の視点から～」『臨床人間関係論研究』第２号、pp.66-75、武庫川女子大学教育研究所生徒指導研究室

単著　2011年３月「「感情を受けとめられる」場としての授業」『臨床教育学研究』第17号、pp.1-16、武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科

▶学会活動

所属学会：全国社会科教育学会、日本教育学会、日本教師教育学会、武庫川臨床教育学会（事務局長、2008年９月～）、日本臨床教育学会（事務局次長、2011年３月～）

▶社会的活動

西宮市立浜甲子園中学校、滋賀県日野町立桜谷小学校などの校内研究会へ研究協力

西宮市青少年問題協議会副会長（2009年６月～）

中尾　賀要子（なかお　かよこ）　　講師

▶研究論文

単著　2010年４月「高齢化する在米被爆者」月刊福祉、第93巻５号、pp.90-93

単著　2010年12月「在米被爆者とアメリカの医療制度」福祉のひろば、12月号、pp.68-69

▶口頭発表

Nakao, K. C.(November, 2010). *Knowledge, Preferences, and Arrangement of End-of-life Care and Decision-making among Japanese American Older Adults: Community Survey Findings.* Paper presentation at the 63rd Annual Meeting of the Gerontological Society of America, New Orleans, LA,U.S

▶社会的活動

人間福祉学研究（関西学院大学査読制研究雑誌）査読者、2011年１月１日～2013年12月31日

社会福祉法人　全国社会福祉協議会　平成22年度社会福祉主事　通信課程　社会福祉援助技術演習　担当講師　2011年１月17日

▶学会活動

所属学会：Gerontological Society of America（GSA）、日本社会福祉学会（JSSSW）

武庫川女子大学教育研究所研究レポート
掲載論文総目次（過去10号分）

第32号～第41号

◇第32号（2004年７月）

〈特集〉教育研究所創設20周年記念号

最近４半世紀における日本教育の動向 ……（新堀通也）…… １－100

私立大学における入試倍率の規定要因（Ⅲ）

―1990、1995、2000年度入試の地域比較― ……（安東由則）…… 101－128

◇第33号（2005年３月）

〈特集〉新堀通也先生退職記念号

わが研究の軌跡

―ある教育研究者の「自分史」― ……（新堀通也）…… １－ 71

現代心理学研究におけるセールス・ポイントの推移（その２）

―自分史のアカデミック面に代えて― ……（祐宗省三）…… 73－ 95

「生徒・進路指導」における体験的学習の展開

―教職課程科目へ「心の教育」を取り入れた授業の実際― ……（西井克泰）…… 97－114

GPA の効果的運用に関する検討（その１）

―アメリカにおける GPA の現状― ……（出野　務・安達一美）…… 115－128

“理科嫌い”であった学生が受けた理科授業の印象

―女子大学学生と共学大学学生の比較― ……（出野　務）…… 129－137

日本の女子大学に関する研究（Ⅰ）

―戦後における女子大学の創設と変化の概観― ……（安東由則）…… 139－164

◇第34号（2005年11月）

〈特集〉GPA の運用検討

GPA の効果的運用に関する検討（その２）

―わが国の大学における GPA 活用の事例―

……（出野　務・安達一美・稲積包則）…… １－ 14

GPA の効果的運用に関する検討（その３）

—武庫川女子大学・同短期大学部における成績評価としての GPA の実態—
……（出野　務・安達一美・稲積包則）…… 15－ 25
現代心理学研究におけるセールス・ポイントの推移（その３）
—自分史のアカデミック面に代えて— ……（祐宗省三）…… 27－ 38
女子大学および女子学生に関するデータと解説
……（安東由則・藤村真理子・大竹綾子）…… 39－110

◇第35号（2006年３月）
〈特集〉女子大学の現状と課題
女子大学の現状と今後の課題
—河合塾・滝紀子先生を招いての研究会記録— ……（友田泰正・安東由則）…… 1 － 38
女子大学学生寮に関する研究（Ⅰ）……（小林　剛）…… 39－ 71
戦後における女子大学・女子学生関連文献目録集
……（安東由則・鎮　朋子・末吉ちあき）…… 73－111

◇第36号（2006年11月）
〈特集〉新堀通也先生退職記念最終講義／女子大学研究
教育研究の60年
—分析図表の提唱— ……（新堀通也）…… 1 － 35
「女子大学」に関する女子学生の意見調査
—2005年度武庫川女子大学４年次生アンケートから—
……（安東由則・藤村真理子・難波満里子）…… 37－ 84
35年間における私立女子大学の偏差値推移
—文学系学部と家政系学部の事例から— ……（安東由則・末吉ちあき）…… 85－116
日本の女子大学に関する研究（Ⅱ）
—クラスター分析による分類の試み— ……（安東由則）……117－130
GPA の効果的運用に関する検討（その４）
—GPA による成績上位者と下位者の実態—
……（出野　務・安達一美・稲積包則）……131－139

◇第37号（2007年３月）
〈特集〉女子大学研究
アメリカにおける女子大学の現状と津田塾大学の取り組み
……（髙橋裕子）（友田泰正・安東由則編）…… 1 － 21

女子大学に個性を
—生き残りへの挑戦— ……（内田伸子）（友田泰正・安東由則編）…… 23－ 39

女子大学インタビュー安東由則（編）
（藤女子大学・昭和女子大学・津田塾大学・東京女子大学・広島女学院大学）…… 41－154
武庫川女子大学に関する保護者への意見調査
—2006年度４年次生保護者アンケートから—
……（安東由則・藤村真理子・難波満里子）…… 155－196
女子大学学生寮に関する研究（Ⅱ）……（小林　剛）…… 197－211
ターミナルケアから学ぶ生と死
—ユーモアのすすめ— ……（アルフォンス・デーケン）…… 213－232

◇第38号（2008年３月）
〈特集〉教育の潮流／女子大学研究
教育の潮流観測
—最終講義資料— ……（新堀通也）…… １－119
女子大学の自己像
—大学案内パンフレットと自己点検・評価報告書の分析から—
……（安東由則・鎮　朋子）…… 121－156
女子大学学生寮に関する研究（Ⅲ）
— 在寮生の保護者・退寮生・在寮経験をもつ卒業生への意識調査を中心に—
……（小林　剛）…… 157－183
GPA の効果的運用に関する検討（その５）
—１年次から２年次への GPA の変化—
……（出　野務・安達一美・稲積包則）…… 185－194

◇第39号（2009年３月）
〈特集〉女子大学に関する調査の比較
「女子大学」に関する意見の因子分析
—女子学生への調査と他大学調査との比較— ……（安東由則）…… １－ 29
明治期における中学校校友会の創設と発展の概観 ……（安東由則）…… 31－ 57
新堀通也寄贈図書目録 ……（新堀通也）…… 59－110

◇第40号（2010年３月）

〈特集〉女子大学で学ぶとは

武庫川学院創立70周年記念シンポジウム ……（友田泰正・安東由則編）…… １－ ２
女子大学だからできること
―女性を伸ばす〈学び〉の環境― ……（髙橋裕子）…… ３－ 30
卒業生によるパネルディスカッション ……（本学卒業生）…… 31－ 58
女子の大学進学に伴う諸効果に関する考察
―広義の人的資本論によるアプローチ― ……（西尾亜希子）…… 59－ 81
武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター活動報告
……（河合優年・難波久美子・佐々木惠）…… 83－129

◇第41号（2011年３月）

武庫川学院の名称について ……（友田泰正）…… １－ 49
自分らしく生きるために
―武庫川女子大学で学んだこと― ……（本仲純子）…… 51－ 63
武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター2010年度活動報告
……（河合優年・難波久美子・佐々木惠）…… 65－ 91

編　　集　　武庫川女子大学教育研究所
編集委員　　友田　泰正　・　安東　由則
　　渡邉　由之　・　末吉ちあき
発 行 者　　学校法人　武庫川学院
　　〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6 番46号
発 行 日　　2012年 3 月31日
印　　刷　　大和出版印刷株式会社